SKYSEA Client View は“企業・団体”のお客様向け商品です

商品に関するお問い合わせや最新情報は

Webサイト

SKYSEA　検索

https://www.skyseaclientview.net/

商品に関するお問い合わせは、Webサイトよりお受けしております。

インフォメーションダイヤル

- 企業名、本社代表電話番号などをお答えいただけない場合、ご利用いただけません。
- 法人以外の方からのお問い合わせには対応いたしかねます。
- サービス・品質の向上とお問い合わせ内容などの確認のために、通話を録音させていただいております。

03-5860-2622（東京）　**06-4807-6382**（大阪）

受付時間 9:30～17:30（土・日・祝、ならびに弊社の定める休業日を除く平日）

Sky株式会社の取り組みや、商品・イベントなどの情報を発信しています。

企業アカウント
sky_it_corporate
Instagram

企業アカウント
@Sky_corporate
X（旧Twitter）

公式YouTube™チャンネル
@Sky_Inc.
YouTube™

弊社は、Microsoft社の製品やテクノロジーをベースとしたサービスの開発や販売を行うIT関連企業に対するパートナープログラム制度において、「マイクロソフト ソリューションパートナー」の認定を受けています。

Microsoft Solutions Partner

Sky株式会社　— https://www.skygroup.jp/ —

東京本社　〒108-0075
東京都港区港南2丁目18番1号 JR品川イーストビル9F
TEL.03-5796-2752　FAX.03-5796-2977

大阪本社　〒532-0003
大阪市淀川区宮原3丁目4番30号 ニッセイ新大阪ビル20F
TEL.06-4807-6374　FAX.06-4807-6376

札幌支社　仙台支社　大宮支社　横浜支社　静岡支社　三島支社
名古屋支社　神戸支社　広島支社　松山支社　福岡支社　沖縄支社

※本カタログに掲載している画面はすべて開発中のものです。※各機能のご紹介は、Windows端末の管理を基本として掲載しております。

Sky / 25･06･16

クライアント運用管理ソフトウェア

SKYSEA Client View

スカイシー クライアント ビュー

Ver.20.3

ITリスク対策が、企業を進化させる。

Sky

組織を取り巻く情報漏洩リスク ——

大切な情報を守るための
あらゆる対策を支援します

標的型攻撃やランサムウェアなどのサイバー攻撃、
PCの誤操作やデバイスの紛失といった人為的なミスなど、
組織は情報漏洩リスクと常に隣り合わせです。

SKYSEA Client Viewは組織の重要なデータを守るため、
情報セキュリティ対策の強化とIT資産の安全な運用管理を支援する
各種機能・ソリューションを提供いたします。

6つの特長

- 情報漏洩対策の強化
- IT資産管理の効率化
- 多様な働き方をサポート
- 定期的なバージョンアップ
- 使いやすい管理画面
- 選べるオンプレミスとクラウド

変化するIT課題に素早く対応 ——

お客様の声を取り入れ、定期的にバージョンアップを行います

SKYSEA Client Viewは発売以来、時代の潮流により変化するお客様のIT課題を解決するため、
毎年定期的なバージョンアップを重ねてきました。今後もお客様のご要望にお応えできる機能追加・改善を行い、進化を続けます。

2007

Ver.1~3
- ポップアップ通知
- 不許可端末検知

2008

Ver.3.1~3.4
- ログ自動バックアップ
- ポリシー違反チェック
- 省電力支援

2009

世界的な金融危機を背景に組織のコスト削減が加速

Ver.4
- コスト削減支援

2010

Ver.4.1~5
- デバイス管理
- エンタープライズモード
- パフォーマンス・性能向上

2011

Ver.5.1~6.1
- ソフトウェア資産管理（SAM）
- サーバー監査

2012

Ver.7~8
- ユーザーインタフェース刷新
- Mac、Linux対応
- iPhone / iPad対応

2013

Ver.8.1~8.2
- Macログ管理

2014

Ver.9~9.2
- ログデータ圧縮、検索高速化
- メディア管理対応

2015

マイナンバー制度の施行に向け情報管理体制の整備が急務に

Ver.10~10.2
- マイナンバー運用管理支援
- データベース監査
- 外部との通信ログ取得強化

2016

Ver.11~11.3
- 標的型攻撃対策強化
- 持ち出しファイルの暗号化

2017

標的型攻撃・ランサムウェアなどのサイバー攻撃が激化

Ver.11.4~12.3
- サイバー攻撃への多層防御
- UTMなど他社製品と連携
- 過重労働対策機能強化

2018

Windows 10の更新管理がシステム管理者の新たな課題に

Ver.13~13.2
- 残業管理機能強化
- Windows 10自動アップデート制御

2019

Ver.14~15.1
- 更新プログラム配布管理
- Microsoft Officeアップデート支援
- ソフトウェアの脆弱性管理支援

2020

コロナ禍の影響により組織のテレワークが拡大

Ver.15.2~16.1
- テレワーク支援機能強化
- 共有フォルダのファイル自動暗号化
- メールの添付ファイル自動暗号化

2021

働く環境が多様化しエンドポイント（PC）が攻撃の標的に

Ver.16.2~17.1
- 紛失端末制御
- EDR製品連携
- Windows 11対応

2022

サプライチェーン攻撃の激化で中小企業における対策がより重要に

Ver.17.2~18.1
- M1 Cloud Edition
- Remote Access Services
- 営業名刺管理「SKYPCE」と連携

2023

Ver.18.2~19.1
- S1H / S3H Cloud Edition
- Android端末対応
- ブラウザ環境分離
- PC活用状況分析
- ダッシュボード

2024

Ver.19.2~20.1
- モバイル機器管理（MDM）強化
- M1 Cloud Edition ダッシュボード対応
- ログイン認証機能強化

2025

Ver.20.2~20.3
- M1 Cloud Edition アラート拡張
- iPhone / iPad管理可能台数増加

初めてでも使えるソフトウェアを目指して ——

直感的に使いやすい操作画面を搭載

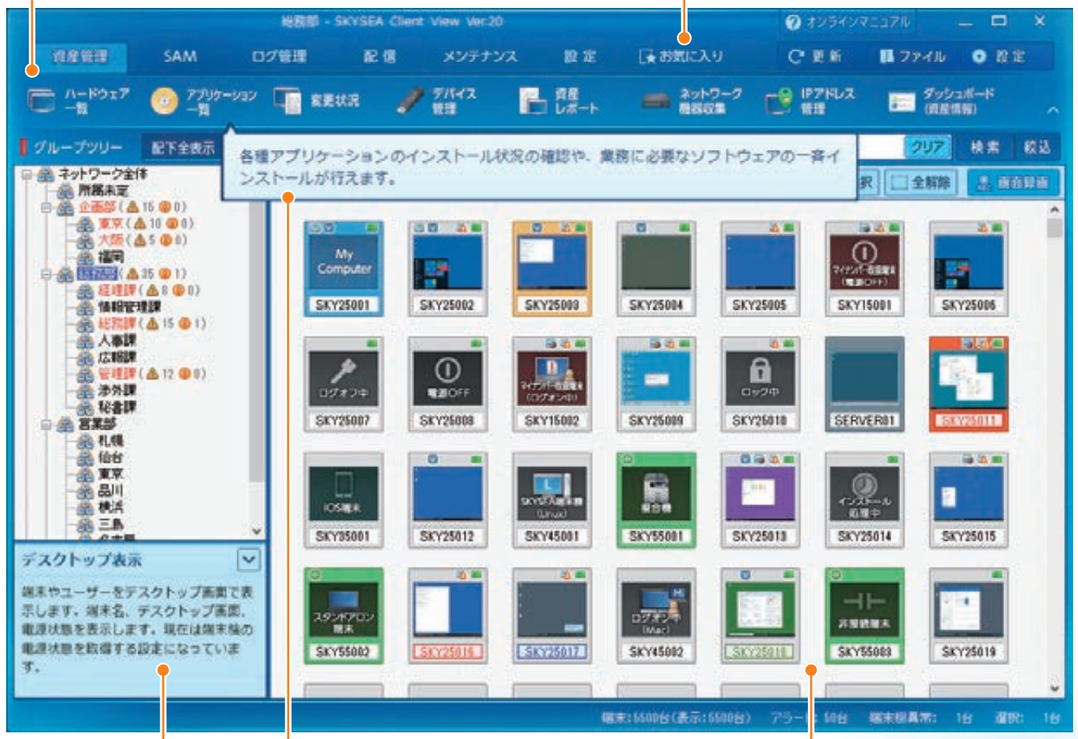
どんなに多機能でも、操作に手間取れば運用には役立ちません。
SKYSEA Client Viewの各種操作画面は、「使いやすさ」にこだわった設計を大切にしています。

1 カテゴリ分けされた わかりやすい機能メニュー

機能ごとにわかりやすく整理されたアイコンを用意。必要な機能（操作）がすぐに見つかるように、操作のカテゴリで分類されています。

2 よく使う機能を登録できる 「お気に入り」タブ

よく使う機能ボタンを1つのタブにまとめて登録できます。機能メニューをカスタマイズすることで、日々の管理業務の利便性向上にお役立ていただけます。



3 初めてでも操作に迷わない 「機能ガイド / ふきだしヒント」

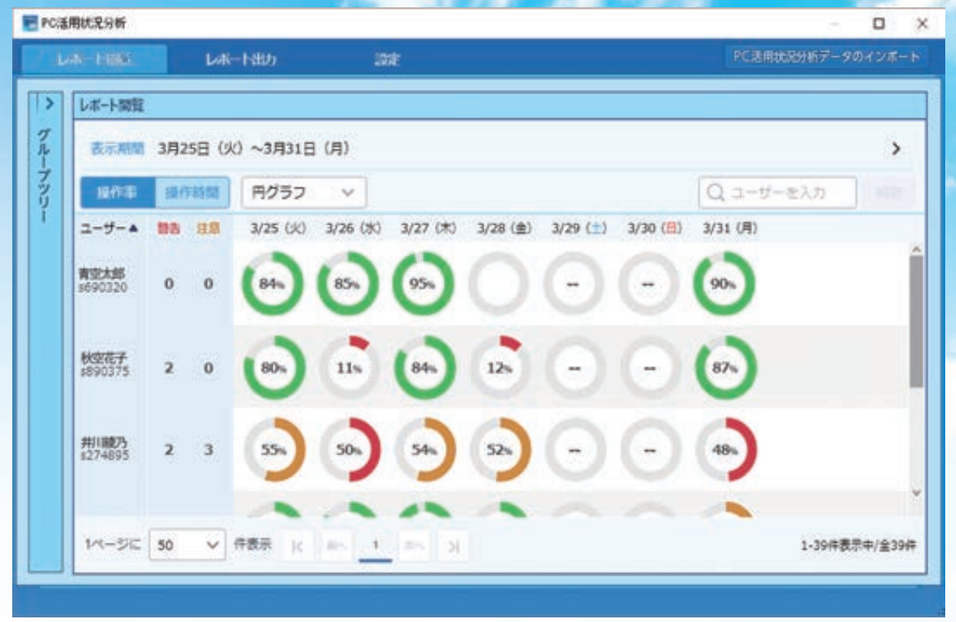
管理コンソール上のアイコンやメニューにマウスカーソルを合わせると、画面左下やカーソル付近のふきだしで各機能についての説明を表示。日々の操作をサポートします。

4 各PCの稼働状況が確認できる デスクトップ画面表示

各PCのデスクトップ画面の様子や各種設定、アラート発生の状況を部署ごとに一覧で確認できます。アラートを種別ごとに色分けして表示し、分類しやすくすることも可能です。

グラフ表示や色分けで見やすいダッシュボード

従業員の業務状況や組織のセキュリティリスクなどが見える化され、ひと目で把握できます。



使用制限の設定が簡単なデバイス管理画面

アイコンをクリックして切り替えるだけでデバイスの使用制限が可能。複雑な操作なしで運用を開始できます。

必要な情報をピンポイントで抽出 ——

検索性に優れた各種メニュー

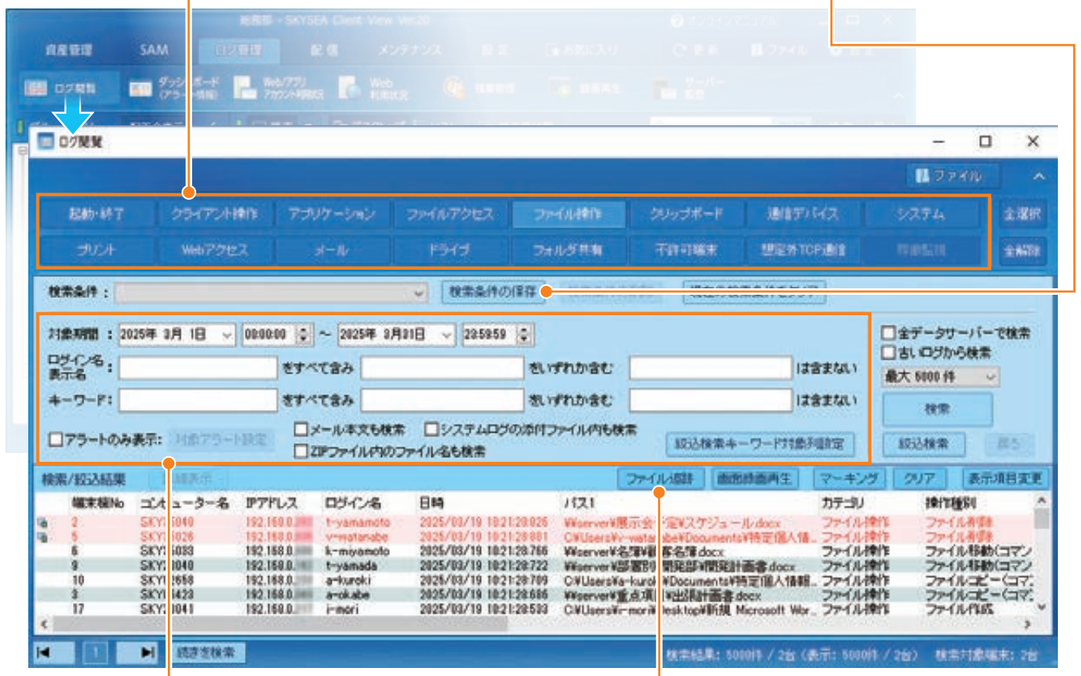
日々収集される膨大なログの中から必要な情報に素早くたどり着けるように、豊富な検索メニューを搭載しています。

1 PCの操作種別ごとにログを絞り込み

PCの起動・終了やファイルのアクセス、メールの送受信など、PCの操作種別ごとにボタンをご用意。選択するだけで素早くログを絞り込めます。

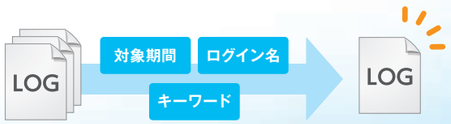
2 ログの定期的な確認に便利な「検索条件の保存」

検索条件を保存することで、次回以降、その条件を選択するだけでログ検索が可能。機密データが不正に扱われていないかなど、特定の操作をログから定期的に確認する際に便利です。



3 複数の条件を指定し、ピンポイントでログ検索

対象期間やログイン名・表示名、任意のキーワードなど詳細な条件を指定して検索できます。送信メールの本文や、ZIP形式のファイル内にあるファイル名を対象とするキーワード検索も行えます。



4 特定ファイルの取り扱い状況を調査できる「ファイル追跡」

特定ファイルがいつ・どのように流入し、どのような操作が行われてきたかを確認できます。例えば、マルウェアファイルの流入原因や、機密ファイルの流出経路の調査などに役立てられます。

複数の運用形態をご用意

オンプレミスとクラウドからお選びいただけます

SKYSEA Client Viewでは、
オンプレミスとクラウドの複数の運用形態をご用意しています。
管理するPCの台数やセキュリティポリシー、ワークスタイルなど、
お客様ごとの利用環境やニーズに応じてお選びください。

豊富な機能と連携ソリューションを搭載

オンプレミス版

導入コストを抑えて手軽に利用できる

クラウド版

SKYSEA Client View

オンプレミス版

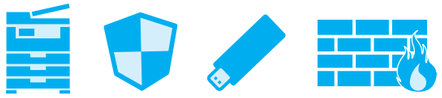
組織のIT運用管理をサポートする豊富な機能や
連携ソリューションが利用可能。
PCの管理台数は最大50,000台と大規模環境にも対応しているほか、
資産情報やログを組織内で保管・管理できます。

オンプレミス版の特長

豊富な搭載機能

「資産管理」や「ログ管理」、「ITセキュリティ対策強化」や「レポート」、各種オプション機能など、組織のIT運用管理に必要な機能を豊富に搭載しています※1。

※1 詳細は「機能一覧(P.73)」をご覧ください。



他社製品との連携ソリューション

セキュリティ製品をはじめとする各メーカー様の製品と連携。情報セキュリティ対策やIT資産管理、勤怠管理などの各種対策をさらに強化いただけます。

資産情報やログを自社で保管・管理

組織内に設置したサーバー上で、収集した資産情報やログを保管・管理できます。情報の取り扱いに関する規定においてクラウド利用が禁止されている組織や、資産情報やログを組織内で長期間保管したい場合などに適しています。

インターネット非接続でも利用可能

ネットワーク分離環境などインターネットに接続していない環境でも、SKYSEA Client ViewによるPCの運用管理が可能です。

エディションのご紹介

IT運用管理からサイバー攻撃対策まで幅広く網羅

Professional Edition

「資産管理」や「ログ管理」などIT運用管理に必要な基本機能に加え、サイバー攻撃対策にご活用いただける「ITセキュリティ対策強化」などの各種機能を搭載した標準的なエディションです。

より強固なセキュリティ対策が必要な組織に

Enterprise Edition

Professional Editionに「送信メールログ」「PC定期再起動」などの各種オプション機能を搭載し、セキュリティ対策をさらに強化した高機能なエディションです。

用途やコストに応じて機能を厳選したい場合に

Light Edition

「資産管理」「ログ管理」「セキュリティ管理」「レポート」などIT運用管理に欠かせない基本機能を厳選し、コストを最小限に抑えたエディションです。

500 Clients Pack

Light Editionの基本機能に「リモート操作」機能を追加したクライアントPC500台未満限定のエディションです。

テレワーク Edition

Light Editionの基本機能に「リモート操作」「ITセキュリティ対策強化」などテレワークを支援する機能を追加した、クライアントPC500台未満限定のエディションです。

Standard Edition

Light Editionの基本機能に「送信メールログ」「リモート操作」「不許可端末遮断」の機能を追加し、セキュリティを強化したエディションです。

アプライアンス版(NAS版)

PC管理台数1～20台

コストを抑えて手軽に導入

SKYSEA Client Viewがバンドルされた専用機器でご提供。環境構築や運用管理に専門的な知識を要する汎用サーバーと比べて、導入の手間やコストを軽減いただけます。

PC台数の少ない組織に最適

PCの管理台数は1～20台で小規模環境でのご利用に最適です。

豊富な搭載機能

「資産管理」や「ログ管理」、「セキュリティ管理」や「デバイス管理」など、オンプレミス版と遜色ない豊富な機能を利用いただけます(一部機能を除く)。

詳しくは「機能一覧」ページ(https://www.skyseaclientview.net/ver20/feature/)の「アプライアンス版(NAS版)」をご覧ください。

SKYSEA Client View

クラウド版

インターネット接続のみで利用でき、
導入コストやサーバー管理の負担を軽減。
PCの管理台数や搭載機能が異なる各種エディションから、
組織の規模や必要性に応じて選べます。

クラウド版の特長

導入コストを抑えられる

クラウドサービスとしてのご提供のため、ライセンスの初期費用やサーバーの新規調達が不要。導入コストを抑えて運用を開始いただけます。

サーバーの運用管理が不要

クラウド上のサーバー環境の構築はもちろん、セキュリティアップデートなどのメンテナンスも弊社が対応。日々の運用管理の負担を軽減いただけます。

あらゆる規模の組織をサポート

PC1台から利用できる小規模組織向けのサービスから、中規模～大規模組織向けのサービスまでご用意。組織の規模に合わせた柔軟な選択が可能です。

インターネット接続で利用可能

別途ネットワーク環境を構築しなくても、インターネット(HTTPS)環境さえあればすぐに利用いただけます。

PC管理台数
1～20,000台

M1 Cloud Edition

IT運用管理に必要な基本機能を厳選

初めてIT運用管理ツールを利用される方に向けて、日々の管理業務に必要な基本機能のみを厳選して搭載しています。

資産管理　ログ管理　アラート　デバイス管理

自動アップデートで手間いらず

クラウド上のサーバーOSやPCのエージェントプログラムなどは、すべて自動でアップデート。アップデート作業にかかる負担を軽減できます。

管理画面はWebブラウザから利用

本エディション専用の管理画面を搭載。Webブラウザから利用できるため、専用のソフトウェアをインストールする必要はありません。

M1 Cloud Editionでは、本カタログに記載している機能が対応していない場合もあります。詳しくは「機能一覧(P.73)」をご覧ください。

PC管理台数
50～20,000台

S1H / S3H Cloud Edition

オンプレミス版と遜色ない豊富な機能

初めてでも直感的に操作できる、使いやすさにこだわった管理画面を搭載。また、IT運用管理をサポートする豊富な機能・各種オプションを利用いただけます。

アップデートはお客様のタイミングで実施

PCのエージェントプログラムのアップデートはお客様が任意で実施。動作検証を行った後など、ご都合の良いタイミングで行っていただけます。

機能が異なる各種エディションをご用意

S1H Cloud Edition

「資産管理」や「ログ管理」などIT運用管理に必要な基本機能に加え、サイバー攻撃対策にご活用いただける「ITセキュリティ対策強化」などの各種機能を搭載した標準的なエディションです。

S3H Cloud Edition

S1H Cloud Editionの機能に加えて、サイバー攻撃対策にお役立ていただける各種機能を搭載。オンプレミス版のProfessional Editionに相当するエディションです※1。

※1 詳細は「機能一覧(P.73)」をご覧ください。

運用形態

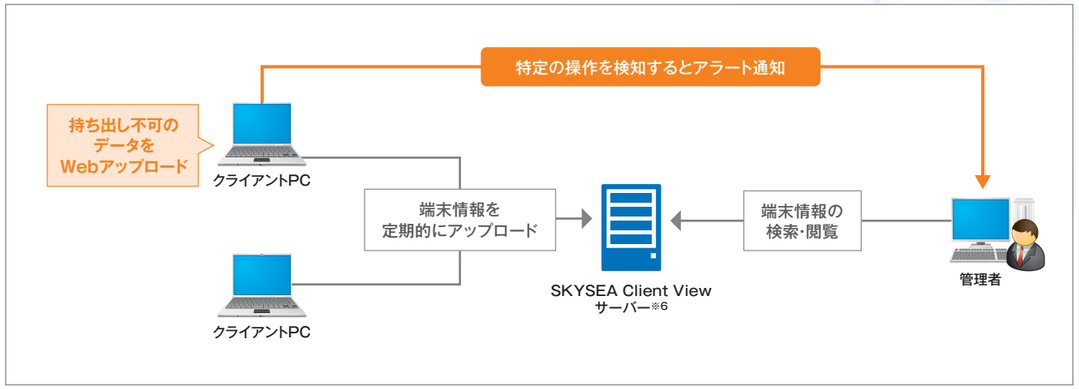
	オンプレミス		クラウド	
	オンプレミス版※1	**アプライアンス版（NAS版）**	**M1 Cloud Edition**	**S1H / S3H Cloud Edition**
特長	すべての機能と連携ソリューションが利用可能 すべての搭載機能と各連携ソリューションが利用できるほか、PCは50,000台まで管理可能。パブリッククラウドにも対応します。	バンドル済みの専用機器で手間なく導入、小規模環境に最適 SKYSEA Client Viewがバンドルされた専用機器でご提供。汎用サーバーと比べて導入の手間やコストを削減できます。	手軽に導入でき、専門知識がなくても簡単運用 インターネット接続環境さえあれば利用でき、アップデートもすべて自動。専門的な知識がなくても手軽に導入・運用が可能です。	サーバー管理の負担を軽減しつつ多くの機能が使える オンプレミス版と遜色ない使いやすさと豊富な機能を搭載。サーバー管理の負担も軽減でき、導入コストも抑えられます。
サーバー導入	必要	不要※2	不要	不要
アップデート	お客様の任意で実施	お客様の任意で実施	弊社が対応	お客様の任意で実施※3
ログについて	自社で保管	自社で保管	クラウド上で保管（2年間）※4	クラウド上で保管（3か月間）※5
PCの管理台数	1～50,000台	1～20台	1～20,000台	50～20,000台
主な導入コスト	● サーバーライセンス ● クライアントライセンス ● サーバー調達費　など	● サーバーライセンス ● クライアントライセンス ● アプライアンス機器調達費　など	なし	なし
主な運用コスト	● 保守ライセンス ● メンテナンスコスト など	● 保守ライセンス ● メンテナンスコスト など	● サービス利用料	● サービス利用料

- オンプレミス版やM1 Cloud Edition、S1H / S3H Cloud Editionの搭載機能については、「機能一覧（P.73）」をご覧ください。
- アプライアンス版（NAS版）については、「機能一覧」ページ（https://www.skyseaclientview.net/ver20/feature/）の「アプライアンス版（NAS版）」をご覧ください。

※1 搭載機能が異なる各種エディションから必要に応じてお選びいただけます。※2 アプライアンス機器の導入が必要です。※3 サーバーOSのアップデートは弊社が行います。※4 Web管理コンソールからすべてのPCのログを月単位でダウンロードいただけます。 ※5 PC1台あたりの規定保管容量を設定しています。保管容量を1TB単位で追加でき、保管期間が無期限になるオプションもご用意しています。そのほか、ローカル環境にログを定期的に自動ダウンロードすることも可能です。

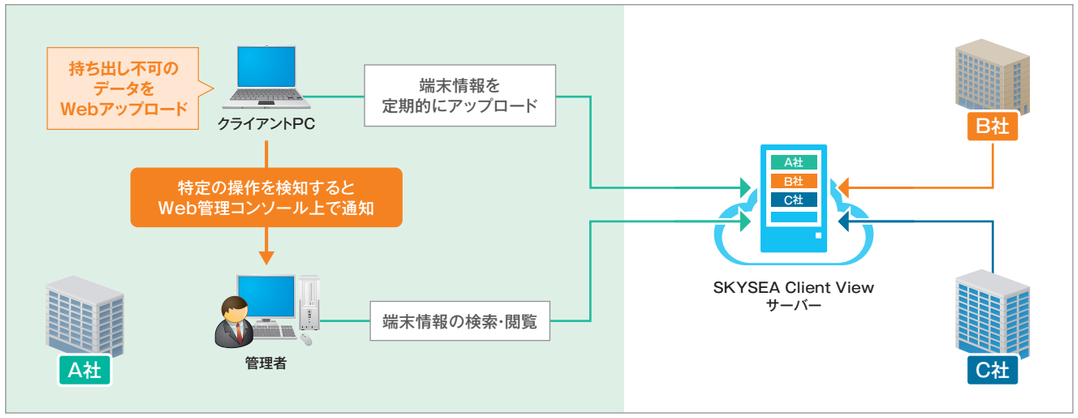
運用イメージ

■ オンプレミス版　■ アプライアンス版（NAS版）

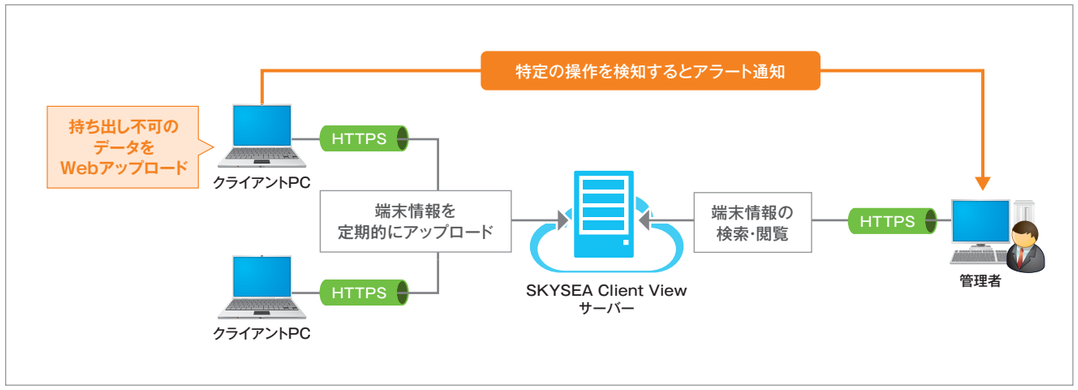


※6 アプライアンス版（NAS版）は、汎用サーバーの代わりにアプライアンス機器を利用します。

■ M1 Cloud Edition



■ S1H / S3H Cloud Edition



機能概要

Ent＝Enterprise Edition　Pro＝Professional Edition　Tel＝テレワーク Edition　LT＝Light Edition
500＝500 Clients Pack　ST＝Standard Edition　M1＝M1 Cloud Edition
S1H＝S1H Cloud Edition※1　S3H＝S3H Cloud Edition※1　　OP＝オプション

資産管理 P.35	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ハードウェア一覧 / アプリケーション一覧※2	●	●	●	●	●	●	●	●（※3）	●（※3）
ソフトウェア配布	●	●	●	●	●	●	●	●（※3）	●（※3）
インターネット経由での資産情報収集	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ネットワーク機器情報収集※2	●	●	●	●	●	●	—	●（※3）	●（※3）
不許可端末情報収集	●	●	●	●	●	●	—	●（※4）	●（※4）
ダッシュボード	●	●	●	●	●	●	●	●	●

ログ管理 P.39	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ログ収集 / 閲覧※2※5	●	●	●	●	●	●	●	●	●
画面操作録画	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
想定外TCP通信ログ	●	●	●	●	●	●	—	●	●
送信メールログ	●	OP	OP	OP	OP	●	—	—	—
Web利用状況	●	●	●	●	●	●	—	●（※4）	●（※4）
スタンドアロン端末機ログ収集	●	●	●	●	●	●	—	●	●

セキュリティ管理 P.43	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
注意表示（アラート）※6	●	●	●	●	●	●	●	●	●
不許可端末遮断	●	●	OP（※7）	OP（※7）	OP（※7）	●	—	OP（※4）（※7）	●（※4）
端末機異常通知	●	●	OP	OP	OP	OP	—	—	●
ログオフし忘れ防止	●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
電子メール送信宛先フィルタ	●	OP	OP	OP	OP	●	—	—	—

セキュリティ管理 P.43	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
メール送信時の添付ファイル自動削除	●	OP	OP	OP	OP	●	—	—	—
PC環境診断	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
CPE製品名管理	●	●	●	●	●	●	—	●	●
紛失端末制御	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
ブラウザ環境分離	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
更新プログラム配布管理	●	●	●	●	●	●	—	—	—
Windows 10以降更新制御	●	●	●	●	●	●	—	●	●
EDRプラスパック※8	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	OP	OP
マイナンバー取扱端末設定・管理	●	●	●	●	●	●	—	●	●
残業時間お知らせメッセージ	●	●	●	●	●	●	—	●	●
画面キャプチャー防止	●	—	●	—	—	—	—	—	—
ファイル受渡しシステム※9	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—

デバイス管理 P.53	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
USBデバイス / メディア 台帳管理・使用制限※2※10※11	●	●	●	●	●	●	●（※12）	●	●
USBデバイスの棚卸	●	●	●	●	●	●	—	●	●
申請・承認ワークフローシステム（デバイス利用申請など）	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
取り扱いファイル暗号化	●	●	OP	OP	OP	OP	—	—	●
外付けデバイス&ファイル暗号化	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
USBデバイス不正ファイル検出※13	●	●	●	●	●	●	—	●	●

ITセキュリティ対策強化 P.57	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
UTM / 次世代ファイアウォール連携	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●（※4）
特定フォルダアクセスアラート	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
組織外ネットワーク接続制御	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
syslog送信	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●（※4）
アプリケーションログ	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
ソフトウェアの緊急配布	●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	●（※3）
検疫ソフトウェア連携	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
Microsoft Office更新制御	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●（※3）
セキュリティ基準を満たさない共有フォルダアクセス制御	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
ZIP形式のファイル内のファイル情報収集	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●

レポート P.63	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ログ解析レポート	●	●	●	●	●	●	—	OP（※4）	OP（※4）
資産レポート	●	●	●	●	●	●	—	OP（※4）	OP（※4）
PC活用状況分析	●	●	●	●	●	●	●	●	●
資産・ログ利活用レポートライブラリ	●	●	●	●	●	●	—	OP（※4）（※14）	OP（※4）（※14）

メンテナンス P.65	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
リモート操作※2	●	●	●	OP	●	●	OP	OP（※3）	●（※3）
リモート操作（インターネット経由）※2	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
キーボード・マウス転送	●	●	●	OP	●	●	—	OP（※3）	●（※3）

メンテナンス P.65	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
電源制御	●	●	●	●	●	●	—	●（※3）	●（※3）
定期再起動	●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
メッセージ配信	●	●	●	●	●	●	—	●（※3）	●（※3）

ソフトウェア資産管理（SAM） P.67	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
導入ソフトウェア台帳	●	●	●	●	●	●	—	●	●
申請・承認ワークフローシステム（ソフトウェア利用申請など）	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—

サーバー監査 P.68	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
OSログ閲覧	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
データベースログ収集	OP（※15）	OP（※15）	OP（※15）	OP（※15）	OP（※15）	OP（※15）	—	—	—

モバイル機器管理（MDM）※16 P.69	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
資産管理 / セキュリティ管理	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
モバイルデバイス応急対策ツール	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	OP	OP

その他	オンプレミス						クラウド		
	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
在席確認・インスタントメッセージ	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
Remote Access Services	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
管理者向けコミュニティサイト	●（※17）	●（※17）	●（※17）	●（※17）	●（※17）	●（※17）	●（※17）	●（※17）	●（※17）

※1 クラウド上のサーバーとクライアントPCとの接続にはHTTPSを利用します。また、VPN接続を利用いただくことも可能です。※2 Mac端末やLinux端末には、一部対応していない機能があります。※3 管理機とクライアントPCが直接通信できない環境では一部利用できない機能があります。※4 VPN接続環境下においてのみ利用いただけます。※5 エディションによっては一部のログが対応しておりません。※6 エディションによっては一部のアラートが対応しておりません。※7 不許可端末の接続を検知する機能は標準搭載です。※8「FFRI yarai Cloud」の運用をFFRIセキュリティ社が代行する「MDRプラスパック」もご用意しています。※9「申請・承認ワークフローシステム」オプションでご利用いただけます。※10 メディア登録時は別途、管理番号を個別に付与する必要があります。※11 エディションによっては一部の機能が対応しておりません。※12 メディアには対応しておりません。※13 SKYSEA Client Viewがインストールされていないpc上で保存、編集されたファイルを含むデバイスの使用を禁止できます。※14「アプリケーション利用 / Webシステム用グループ集計」「プリンター印刷 / Webシステム用グループ集計」「Webアクセス（ドメイン毎） / Webシステム用グループ集計」「外部記憶書き出し / Webシステム用グループ集計」は利用いただけません。※15 本機能は「サーバー監査」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞の、オプションとしてご購入いただけます。※16 ログ収集などのログ管理機能は搭載しておりません。※17 ご契約内容等により、一部のお客様はご利用いただけない場合がございます。

多数の他社製品と連携し
より強力な各種対策をサポート

SKYSEA Client Viewでは、セキュリティ製品をはじめとする各メーカー様の製品と連携することで、情報セキュリティ対策やIT資産管理、ITシステム運用、勤怠管理などをさらに強化していただける各種ソリューションをご用意しています。※1※2※3

サイバー攻撃対策

次世代ファイアウォール・UTM・サンドボックス
- 日本電気株式会社　Aterm SA3500G、UNIVERGE IXシリーズ
- パロアルトネットワークス株式会社
  次世代ファイアウォール
  （サンドボックスサービス、脅威分析および防御サービス※4）
- ファイア・アイ・セキュリティ株式会社　FireEye
- フォーティネットジャパン合同会社　FortiGate

エンドポイントセキュリティ製品（アラート）
- ウィズセキュア株式会社
- ヴイエムウェア株式会社　Carbon Black Cloud Sensor
- 株式会社FFRIセキュリティ　FFRI yarai
- オープンテキスト株式会社
  Webroot SecureAnywhere Business エンドポイント プロテクション
- 株式会社カスペルスキー　Kaspersky Endpoint Security for Windows
- キヤノンマーケティングジャパン株式会社
  ESETセキュリティソリューションシリーズ
- トレンドマイクロ株式会社　Trend Micro Apex One™
- Broadcom社　Symantec Endpoint Protection

設定ファイルの適用・配布 / インストール・アンインストール / ログ収集
- 株式会社Blue Planet-works　AppGuard® Enterprise、AppGuard® Solo

ウイルス対策※5

ウイルス対策製品インストール状況
- ウィズセキュア株式会社
- ヴイエムウェア株式会社　Carbon Black Cloud Sensor
- 株式会社カスペルスキー
- キヤノンマーケティングジャパン株式会社　ESETセキュリティソリューションシリーズ
- サイバーリーズン合同会社　Cybereason NGAV
- トレンドマイクロ株式会社
- 日本マイクロソフト株式会社
- 株式会社ノートンライフロック　ノートンシリーズ
- Broadcom社　Symantec Endpoint Protection
- Musarubra Japan 株式会社（Trellix）

統合ログ管理

- 株式会社網屋　ALogシリーズ
- 株式会社インテック　LogRevi
- インフォサイエンス株式会社　Logstorage
- 株式会社エルテス　内部脅威検知サービスInternal Risk Intelligence※6

不許可端末検知・遮断（不許可端末遮断ユニット）

- エクスジェン・ネットワークス株式会社　L2Blocker
- 日本シー・エー・ディー株式会社　IntraGuardian2+ for SKYSEA
- 日本電気株式会社　InfoCage 不正接続防止
- 株式会社PFU　iNetSec SF

USBデバイス管理・利用制限※7

USBデバイス管理
- 株式会社アイ・オー・データ機器
- ITGマーケティング株式会社
- イーディーコントライブ株式会社
- エレコム株式会社
- 株式会社グリーンハウス
- ハギワラソリューションズ株式会社
- 株式会社バッファロー

USBメモリ型ウイルスチェックツール
- エレコム株式会社
- ハギワラソリューションズ株式会社

個人情報利用状況確認

個人情報利用状況確認
- アララ株式会社　P-Pointer File Security
- 三菱電機ソフトウエア株式会社　すみずみ君

個人情報利用状況確認と暗号化
- 東芝デジタルエンジニアリング株式会社　Secure Protection

暗号化

- チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ株式会社　Check Point Full Disk Encryption
- 株式会社日立ソリューションズ　秘文 Data Encryption
- 富士通株式会社　FENCE-Works、FENCE-Pro

プリンター連携

スキャンログ / 印刷ログ
- サイオステクノロジー株式会社　Quickスキャン、Speedoc
- ドロシーワークス株式会社　PRINT EYE※8

プリンター MIB情報
- キヤノン株式会社
- コニカミノルタ株式会社
- シャープ株式会社
- セイコーエプソン株式会社
- 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
- 株式会社リコー

勤怠 / 就業管理システム連携

- アマノ株式会社　TimePro-VG、TimePro-NX
- インフォコム株式会社　CWS（Change Work Style）※6
- OEC株式会社　ORCESS庶務管理※6※9
- 株式会社オービックビジネスコンサルタント　奉行Edge 勤怠管理クラウド for 奉行シリーズ※10
- 勤次郎株式会社　Universal勤次郎※6
- クロノス株式会社　就業管理システム クロノスPerformance
- 京葉システム株式会社　タイム・ワークス
- 株式会社日立ソリューションズ　人事総合ソリューション リシテア
- 富士通株式会社　FUJITSU Enterprise Application GLOVIA iZ 就業
- 三菱電機ITソリューションズ株式会社　ALIVE SOLUTION TA
- 株式会社両備システムズ　公開羅針盤

SDN / ネットワーク機器連携

- アライドテレシス株式会社　AMF-SEC
- パナソニックEWネットワークス株式会社　PPS（Power to Progress SDN）

仮想化・シンクライアント

- ヴイエムウェア株式会社
  サーバー仮想化　：VMware ESXi™
  デスクトップ仮想化　：VMware Horizon® View™
  アプリケーション仮想化：VMware Horizon® View™
- シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社
  サーバー仮想化　：Citrix Hypervisor
  デスクトップ仮想化　：Citrix Virtual Apps and Desktops
  アプリケーション仮想化：Citrix Virtual Apps and Desktops
- Sky株式会社　SKYDIV Desktop Client
- 日本電気株式会社　デスクトップ仮想化：VirtualPCCenter
- 日本ヒューレット・パッカード合同会社　デスクトップ仮想化：CCI
- 日本マイクロソフト株式会社
  サーバー仮想化　：Microsoft Hyper-V
  アプリケーション仮想化：Microsoft Remote Desktop Service

認証（生体認証・ICカードなど）

- 日本情報システム株式会社　Yubi Plus
- 富士通株式会社　AuthConductor※11
- 株式会社ローレルインテリジェントシステムズ　FSS® スマートシリーズ

ファイル無害化

- OPSWAT JAPAN株式会社　MetaDefender™ Core
- 株式会社CYLLENGE　Smooth File ネットワーク分離モデル

SKYSEA Client Viewインストール対応NAS

- 株式会社アイ・オー・データ機器
- エレコム株式会社
- 日本電気株式会社　iStorage NSシリーズ
- 株式会社バッファロー

SKYSEA Client View プリインストールモデル
- 株式会社アイ・オー・データ機器　APX2-SKYSEAシリーズ

連携ソリューションのご利用には、Sky株式会社の商品および各メーカー様の製品のバージョンなど、条件がある場合があります。詳細についてはSky株式会社までお問い合わせください。

※1 一部、連携対応予定の製品もございます。※2 メーカー様は五十音順にて記載しています。※3 製品が多数ある場合は、メーカー様名のみ記載しています。※4「パロアルトネットワークス次世代ファイアウォール」のサブスクリプションサービスとなります。※5 各メーカー様の詳しい対応製品については、Webサイトの技術資料「ウイルス対策ソフトウェア対応表」をご覧ください。※6 連携メーカー様にてSKYSEA Client Viewとの連携機能を開発・検証・ご提供いただいています。弊社で提供や検証を行っておりません。※7 各メーカー様の詳しい対応情報については、Webサイトの「動作検証済みUSBメモリ（各種USBデバイス含む）」に関する情報をご覧ください。※8 Ver.3.1.251.0 Early 2021 Update以降に対応しています。※9 時間外申請と画面ロック連携のみ対応しています。※10 奉行Edge 勤怠管理クラウド for 奉行クラウドは非対応です。※11 連携対象となるAuthConductorは、サーバー型のAC SE/EE です。

SKYSEA Client View Ver.20~20.3 新機能 / 改善機能

より安全なスマートフォン管理で多様化するビジネス環境をサポート

働き方の多様化により、スマートフォンやタブレット端末のビジネス活用はますます進んでいます。
SKYSEA Client View Ver.20～20.3では、これら端末をよりセキュアかつ効率的に運用いただけるよう、モバイル機器管理（MDM）による紛失対策やアップデート管理、キッティングなどを強化。そのほか、細やかな状況把握を支援する新たなログの取得やアラート機能のセキュリティ強化など、各種機能の改善を図りました。

モバイル機器管理（MDM）

iPhone / iPadの管理機能がパワーアップ、セキュリティをより強固に

- 端末紛失時のセキュリティ対策が、スマートフォンから実行可能に — Ver.20
  - 二要素認証で不正ログインを防止 — Ver.20.2
- 管理機からの端末アップデートに対応、迅速な脆弱性対策を実現 — Ver.20
- 新規アプリの導入や、端末のキッティング作業を効率化
  - 各端末のアプリの初期設定を一括で適用 — Ver.20
  - 他部署のアプリ設定を閲覧できないように制限 — Ver.20.3
  - 再利用する端末の初期設定を簡単に — Ver.20.1

注意表示（アラート）

組織の運用に合わせて、Webアップロードを細かく制限可能に — Ver.20.1

ログ管理

「画面ロック」ログの取得で、より正確な業務状況の把握が可能に — Ver.20

M1 Cloud Editionの機能がさらに充実！

- アップデート状況をダッシュボードで視覚化 — Ver.20
- 厳選したアラートでリスク対策の基本をサポート — Ver.20.2
- USBデバイスを自動で台帳登録 — Ver.20
- 管理者ごとの柔軟な権限設定が可能に — Ver.20.3

その他 新機能

Ver.20.3

- 申請・承認ワークフローシステムの構築環境を改善し、脆弱性対策を強化
- Microsoft Azure Virtual Machinesの第2世代に対応
- FortiOS Ver.7.2.10に対応
- M1 Cloud EditionでBitLocker回復キーの自動収集が可能に
- M1 Cloud Editionの「モバイル機器管理（MDM）」機能で部署ごとのVPP※1登録が可能に
- M1 Cloud Editionでネットワーク機器の資産管理が可能に

Ver.20.2

- vPro対応端末のリモート操作がよりセキュアなTLS接続で利用可能に
- 「モバイル機器管理（MDM）」機能で最大10万台のiPhone / iPadが管理可能に※2
- M1 Cloud Editionのログの保存期間を最長2年間に拡張

Ver.20.1

- iPhone / iPadのユーザー自身によるアプリ導入作業をよりスムーズに
- 故障修理などで初期化したiPhone / iPadに以前のデバイス名を自動で適用可能に
- iPhone / iPadのデバイス空き容量を資産情報として収集可能に
- Android端末のデバイス登録に必要なAndroid Enterpriseの新仕様に対応
- Windows 11バージョン24H2に対応
- Windows Server 2025に対応
- macOS Sequoia（15.0）に対応
- Linuxディストリビューションの「CentOS」「Amazon Linux」に対応
- Microsoft SQL Server 2022に対応
- Microsoft Office 2024に対応
- 営業名刺管理「SKYPCE」とのセキュリティ連携を強化

Ver.20

- ダッシュボード※3の集計グラフから、さらに詳細な資産情報への遷移が可能に
- 1分ごとの接続確認で、確実なソフトウェア配布を実現
- アラートメールにGmailを使用している場合のOAuth認証に対応
- リモート操作（インターネット経由）機能のセキュリティをさらに強化
- iPhone / iPadのプロキシ設定を、管理画面から直接実施可能に
- iPhone / iPadの構成プロファイル設定における操作性を改善
- Apple TVの運用管理に対応
- Android端末の運用管理に必要なAndroid Enterpriseの新仕様に対応

※1 Volume Purchase Program：Apple社が企業や教育機関向けに提供する、App Storeのアプリを一括購入・配布するためのプログラム。※2 「MDM Services（A）」オプションが対象です。※3 詳しくはP.37をご覧ください。

機能紹介のアイコンについて

標準搭載 標準搭載の機能を示します。
オプション オプションで提供の機能を示します。

アイコンの横に対応するエディションを記載しています。
記載がないものはすべてのエディションを示します。

モバイル機器管理（MDM）※1　オプション

iPhone / iPadの管理機能がパワーアップ、セキュリティをより強固に

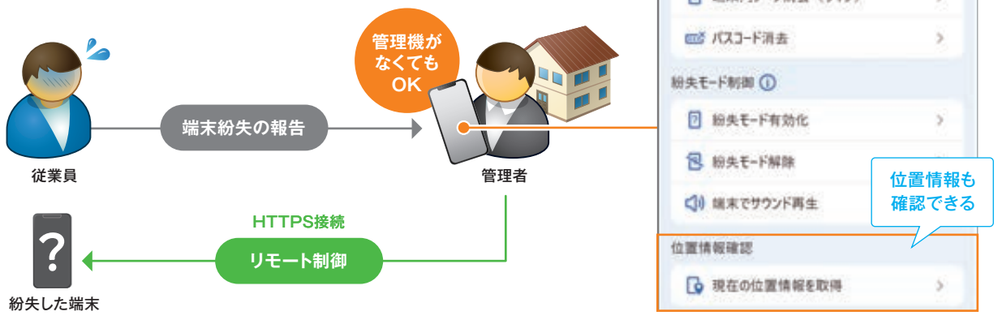
スマートフォンやタブレット端末の運用管理を支援するMDM機能において、iPhone / iPad向けの各種機能を強化。セキュリティ対策と運用管理の効率化をこれまで以上に手厚くサポートします。

※1 詳しくは、P.69をご覧ください。

端末紛失時のセキュリティ対策が、スマートフォンから実行可能に※2

Ver.20

Webブラウザ※3から利用できる管理画面（モバイルデバイス応急対策ツール）をご用意。管理者が休日などで手元に管理機がない状況でも、端末紛失の報告を受けた際に、スマートフォンなどから端末ロックなどの対策が速やかに行えます。



二要素認証で不正ログインを防止

Ver.20.2

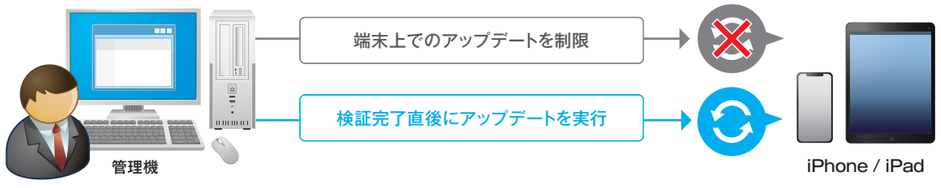
管理画面へのログイン時に、ワンタイムパスワードによる二要素認証の設定が可能。なりすましによる不正ログインを防ぎます※4。

※2 ご利用には「MDM Services(A)」オプションと「モバイルデバイス応急対策」オプションが必要です。M1 Cloud Editionではご利用いただけません。※3 Google ChromeとSafariに対応しています。
※4 二要素認証に用いるアプリケーションは「Google Authenticator」と「Microsoft Authenticator」に対応しています。

管理機からの端末アップデートに対応、迅速な脆弱性対策を実現

Ver.20

iPhone / iPadのアップデートが管理機から実行可能に。アップデートによる動作トラブルを防ぐため、普段は既存機能で端末のアップデートを制限しておき※5、動作検証が完了した際は脆弱性リスクの排除に向けて、管理機から速やかにアップデートを実行できます。



※5 アップデートがリリースされてから指定した日数(1～90日)までの間、端末のアップデートを延期することができます。

新規アプリの導入や、端末のキッティング作業を効率化

各端末のアプリの初期設定を一括で適用

Ver.20

管理機上でアプリの設定を行い、各端末のアプリに一括適用することが可能に。組織全体または部署ごとにアプリを新規導入する際、初期設定をまとめて適用することで、各端末上で設定する必要がなくなり、キッティング作業を効率化できます。※6

※6 配布対象のアプリは、Apple社が提供するフレームワーク「Managed App Configuration」に対応している必要があります。

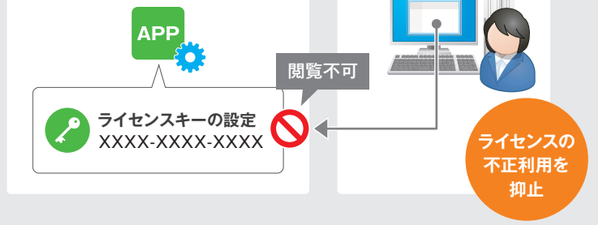
他部署のアプリ設定を閲覧できないように制限※7

Ver.20.3

各部署に適用したアプリの設定を、その部署の管理者以外は閲覧・編集できないように制限できます。例えば、部署ごとに有料アプリのライセンスを管理している場合、ライセンスキーの設定を他部署の管理者が閲覧できないようにすることで、ライセンスの不正利用などを抑止します。

※7 M1 Cloud Editionではご利用いただけません。

活用例　部署Aに適用したライセンスキーの設定が部署Bの管理者に漏洩するのを防ぐ

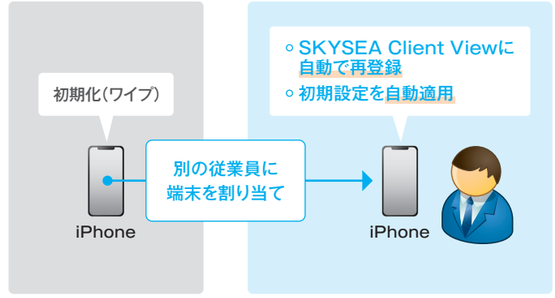


再利用する端末の初期設定を簡単に

Ver.20.1

退職者が使用していた端末を別の従業員に割り当てる際などに、管理機から端末のデータを消去して初期化（ワイプ）しても、それまで使用していたWi-Fi設定などの初期設定を端末に自動で適用可能に※8。SKYSEA Client Viewへの登録も自動で行われるため※9、割り当てた端末の運用管理を素早く開始できます。

※8 端末初期化後の初回起動時に、各種設定を適用するプロファイルが自動で端末にインストールされます。
※9 プロファイルの自動インストール後、SKYSEA Client Viewに資産情報が収集されます。ワイプした端末の資産情報が残っている場合は、資産情報が最新の状態に更新されます。



再利用する端末の運用管理を手間なく開始できる

注意表示（アラート）　標準搭載

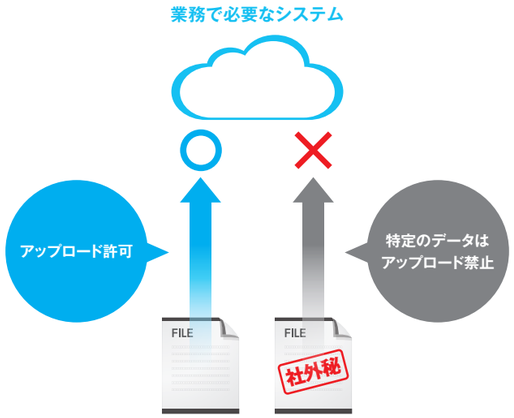
組織の運用に合わせて、Webアップロードを細かく制限可能に　Ver.20.1

情報漏洩リスクを伴う、Webアップロードを制限できるアラート機能を強化。業務で必要なシステム上でのアップロードは許可しつつ、特定の重要データ※1については禁止するなど、細かく設定できるようになりました。セキュリティと利便性を両立させるかたちで、各組織の運用ポリシーに柔軟に対応できます。

※1「社外秘」など指定したキーワードをファイル名に含むデータを設定できます。

ブラウザ拡張機能によるWebアップロードも制限

Google Chromeのブラウザ拡張機能などを利用した、オンラインストレージへのWebアップロードも制限可能に。Webブラウザでの無許可のデータアップロードをより厳密に制限できます。

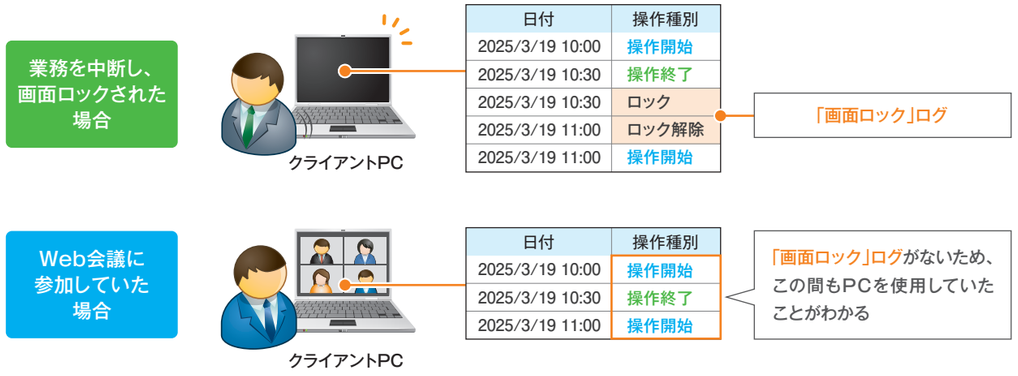


利便性を保ちつつ、セキュリティも確保

ログ管理　標準搭載

「画面ロック」ログの取得で、より正確な業務状況の把握が可能に　Ver.20

PCの「画面ロック」状態を新たにログとして取得。PCが一定時間操作されていないケースがあっても、Web会議に参加していたことなどを識別でき、勤務状況をより正確に把握できるよう支援します。



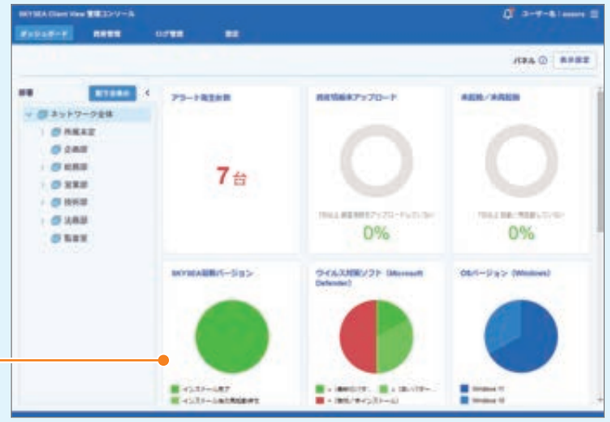
M1 Cloud Editionの機能がさらに充実！

アップデート状況をダッシュボードで視覚化　Ver.20

組織で管理するPCの資産情報やログを集約・分析し、数値やグラフで可視化するダッシュボードに対応。OSやソフトウェアについて最新バージョンの適用状況をグラフで確認でき、更新漏れの防止などにつなげられます。また、PCの操作率や操作時間を可視化し、従業員の業務状況の把握をサポートする機能も搭載しています※2。

※2「PC活用状況分析」機能としてご利用いただけます。詳しくは、P.31をご覧ください。

各グラフなどをクリックすると別画面に遷移し、データの内訳や該当端末を一覧で確認できる



厳選したアラートでリスク対策の基本をサポート　Ver.20.2

初めて情報セキュリティ対策に取り組む上で最適な、基本のアラートを厳選して追加。特定の重要ファイルのコピーや、業務外のアプリケーションのインストールなど、不審なPC操作をリアルタイムで検知し、迅速な対処をサポートします。

追加されたアラート項目

ファイル操作	「社外秘」「部外秘」など設定したキーワードを名前に含むフォルダやファイルに対する操作を検知
許可 / 不許可アプリケーション	許可していないアプリケーションのインストールを検知
インストール	「install.exe」「setup.exe」「msiexec.exe（msiファイル）」の実行を検知・禁止

USBデバイスを自動で台帳登録　Ver.20

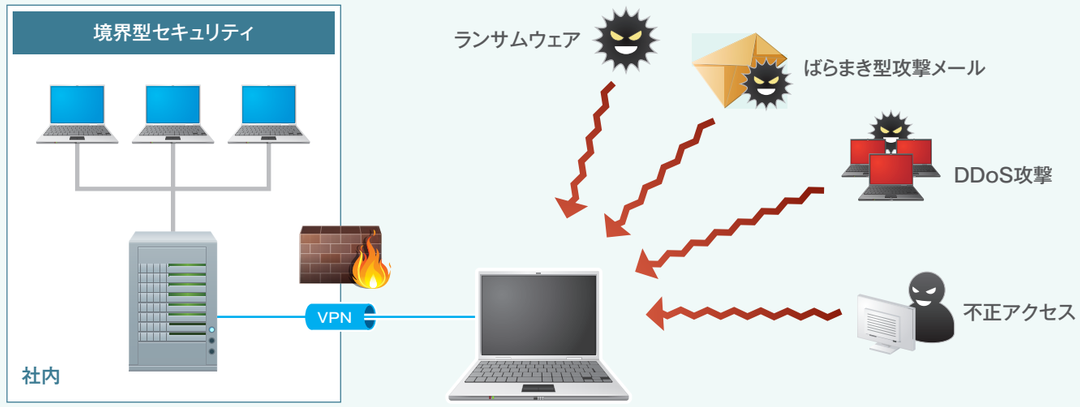
USBデバイスをPCに接続するだけで、管理台帳に登録できます。各デバイスは登録時に自動で読み取り専用に設定することもでき、効率的な管理が可能です。

管理者ごとの柔軟な権限設定が可能に　Ver.20.3

管理対象とする部署や使用できる機能を、管理者ごとに細かく設定できます。システム担当者には全機能・全部署に対する権限を付与し、ほかの管理者には所属部署での「ログ管理」機能の使用・閲覧のみ許可するなど、組織の体制に合わせた柔軟な運用をサポートします。

サイバー攻撃のリスク対策を エンドポイントセキュリティで実現

ランサムウェアなどのサイバー攻撃が激化するなか、リモートワークの導入によってPCを組織外に持ち出す機会は増え、情報漏洩リスクも高まっています。組織内のネットワークを堅牢にする「境界型セキュリティ」ではこれらリスクに対処しきれない今、末端のIT機器を強固に守る「エンドポイントセキュリティ」が求められています。「SKYSEA Client View」では、エンドポイントへの対策に特化したさまざまな機能を搭載しています。



PC（エンドポイント）は常に情報漏洩リスクにさらされている!

対策1	対策2	対策3
組織内のエンドポイントを全数把握	OSやソフトウェアのアップデートを徹底	EDR製品などを活用して脅威に対応

「SKYSEA Client View」がエンドポイント対策を支援!

対策1 組織内のすべてのIT機器を把握し、管理漏れをなくす

管理者が把握できていないIT機器が1台でもあると脆弱性は放置され、マルウェア感染につながる可能性も。「資産管理」機能※1で、組織内のIT機器情報を自動収集し、新たに持ち込まれる機器についても素早く把握することができます。

VPN機器などのデバイス情報も網羅

ネットワーク機器情報収集

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

IPアドレスの範囲などを指定し、資産情報が登録されていないIT機器を洗い出し。VPN機器、Webカメラ、IoTデバイスなど、ネットワーク接続されるものはすべて管理できます。

※1「資産管理」機能については、P.35をご覧ください。

新たなIT機器の接続をアラートで通知

不許可端末検知

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

組織で購入したPCや持ち込みPCなど、新たなIT機器がネットワークに接続された際に、管理者にアラートで通知。MACアドレスなどの機器情報が確認でき、資産情報として登録できます。

対策2 迅速なアップデートで脆弱性に対策、ソフトウェアを常に最新に

OSやソフトウェアの更新プログラムが適用されず、脆弱性が残された状態では、攻撃者に不正アクセスに利用されたり、マルウェア感染のリスクも高まります。組織で利用するソフトウェアなどの脆弱性情報を的確に把握し、手間なくスピーディにアップデートを行えるように支援します。

一斉配布で素早いアップデートを実施

ソフトウェア配布

標準搭載

管理機から各PCに一斉に更新プログラムを配布・インストールし、脆弱性に素早く対応。配布スケジュールを設定し、業務に支障が出にくい時間帯に実行することも可能です。

最新の脆弱性情報を効率的に取得

CPE製品名管理

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

SKYSEA Client Viewで管理するソフトウェアと、JVN※2が提供する脆弱性情報をひもづけ、まとめて表示。各ベンダーのWebサイトなどで情報収集する手間を減らし、速やかな修正プログラム適用につなげていただけます。

※2 JVN（Japan Vulnerability Notes）。日本で利用されているソフトウェアなどの脆弱性関連情報とその対策情報を提供し、情報セキュリティ対策に資することを目的とするポータルサイト。

対策 3

EDR製品と連携し、未知の脅威への対策を万全に

進化するサイバー攻撃の脅威に対しては、パターンファイルに依存したマルウェア検知では不十分です。未知の脅威を検知し、素早い調査・駆除を可能にするEDR製品との連携機能をご提供しています。

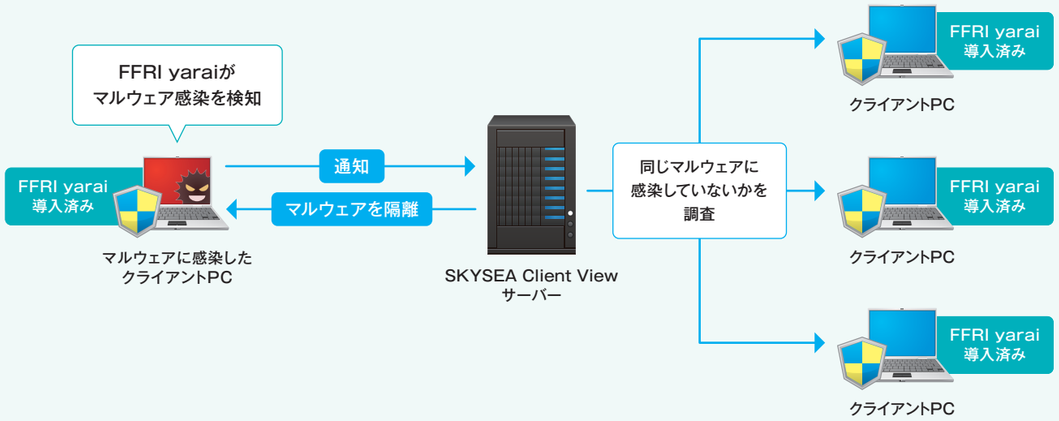
未知のマルウェアをふるまい検知で素早く発見、隔離して調査

EDRプラスパック※1

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

FFRIセキュリティ社製「FFRI yarai」がクライアントPCのマルウェア感染を検知した際、「SKYSEA Client View」がPC上のマルウェアを隔離します。また、検知したマルウェアの情報を基に、ほかのクライアントPCが同じマルウェアに感染していないかを自動で調査し、マルウェアが確認された場合は同様に自動で隔離します。

※1「FFRI yarai Cloud」をご利用いただける「EDRプラスパック Cloud」もご用意しています。



「FFRI yarai」とは

標的型攻撃対策に特化し、未知の脅威・脆弱性攻撃からクライアントPCを防御する次世代エンドポイントセキュリティです。

先読み技術
パターンファイルに依存しないふるまい検知で未知の脅威を防御

豊富な導入実績
中央省庁や金融機関、ライフラインを支える重要システムに多くの導入実績

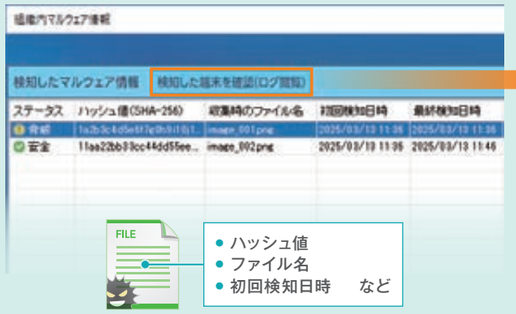
多層防御
5つのエンジンと一般的なウイルス対策ソフトウェアとの同居による多層防御

安心の純国産
基礎技術研究から開発・保守に至る全行程を日本国内で実施

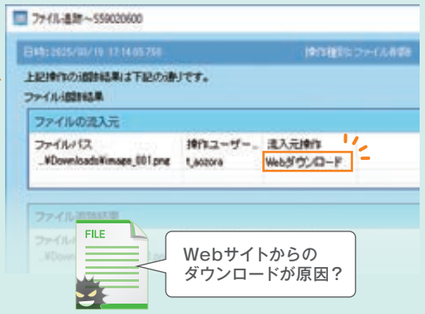
PCの操作ログから感染原因を調査

検知したマルウェアに関する情報や感染したPCの操作ログは、専用の管理画面から確認できます。感染原因の調査など、事後の対応にお役立ていただけます。

1 検知されたマルウェアの情報が一覧で表示



2 マルウェアのファイル名を基に流入元を調査



セキュリティの専門家が運用をサポートする「MDRプラスパック※2」

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

「FFRI yarai Cloud」による脅威検知に加えて、FFRIセキュリティ社の担当者が初動調査などをサポートする運用支援をセットでご提供します。セキュリティ対策の運用に不安がある組織でも安心してご利用いただけます。

※2「EDRプラスパック」「EDR プラスパック Cloud」との併用はできません。

FFRIセキュリティ社によるサポート

- インシデントの発生がないかを監視
- インシデント発生状況などをレポートで報告
- インシデント発生時にログ分析や端末隔離を代行
- お客様の環境に合わせた検知設定を提案

テレワークの労働時間や業務状況の見える化を支援

SKYSEA Client Viewで記録されたPCの操作ログを活用することで、従業員の労働時間や業務状況の見える化を支援します。テレワーク中の従業員の状況把握や、過重労働対策の取り組みにもお役立ていただけます。

勤怠管理やセキュリティ面におけるテレワークの課題を解決

課題 労働時間が見えにくい

解決

- PCの使用時間を集計して、労働時間を見える化
- 業務時間外のPC使用を制限し、サービス残業を抑止

課題 仕事中の様子がわからない

解決

- PCの操作ログをまとめた各種レポートから業務状況を把握
- メッセージの送信・受信で従業員間の情報共有を支援

私物のPCは危険？ テレワークでは会社貸与のPCが有効

私物PCをテレワークで利用する場合は、OSや各ソフトウェアが最新の状態でなかったり、セキュリティ対策が不十分であることも考えられます。また、PCの所有者によってITスキルなどに違いがあり、システム管理者が依頼する各種対策が十分に行えない場合があることも想定できます。加えて、プライベートでも利用する私物PCに、SKYSEA Client Viewなどのログ収集ツールを導入することは現実的ではありません。そのため、シンクライアントシステムの利用（弊社商品では「SKYDIV Desktop Client」）や、リモートデスクトップ方式の利用、また管理が行き届いた会社貸与のノートPCを持ち帰って利用する方法が、安全かつ効率的だといえます。

ログを集計・グラフ化し、労働時間や業務状況の把握を支援

ログ解析レポート / 資産・ログ利活用レポートライブラリ

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST　オプション S1H/S3H

日々蓄積されるPCの操作ログを集計・グラフ化し、労働時間の視覚的な把握を支援します。これら集計結果と、勤怠 / 就業管理システムやタイムカードなどの記録とを照らし合わせ、勤務実態の調査に活用いただけます。

業務時間外のPCの使用時間から従業員の残業時間を把握

残業時間レポート

指定した期間における、業務時間外でのPCの使用時間を、残業時間として算出。ユーザー別・部署別での合計残業時間や、部署別の平均残業時間を集計、確認することができます。また、残業時間は始業前と定時後で分けて表示することも可能です。

集計結果を残業時間の多い順にグラフで表示。業務負荷の高い従業員や部署の確認にご活用いただけます。

PCごとに24時間の使用状況を表示、テレワーク中の業務状況の把握に

時間帯別使用状況解析レポート

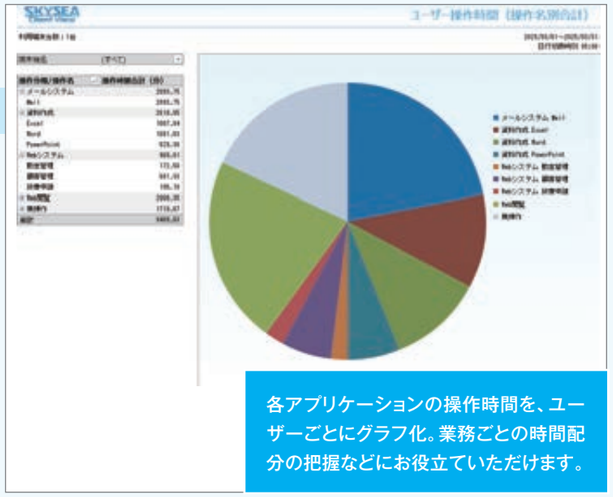
業務時間内にログオフが続いているPCがないか、早朝・深夜にPCが使用されていないかなど、テレワーク中の状況の把握を支援します。

ログオンやスリープなど、PCの状態を色分けして表示。単なる電源の切り忘れなのかの判断材料にもなります。

各アプリケーションの操作時間を見える化、働き方の傾向把握をサポート

ユーザー操作時間レポート

アプリケーションやWebシステムごとの操作時間を集計して見える化。それぞれの操作時間を確認することで、どの業務にどれくらいの時間をかけていたか、どれぐらいWeb会議を行っていたかなど、従業員の働き方を把握するための参考情報として活用いただけます。



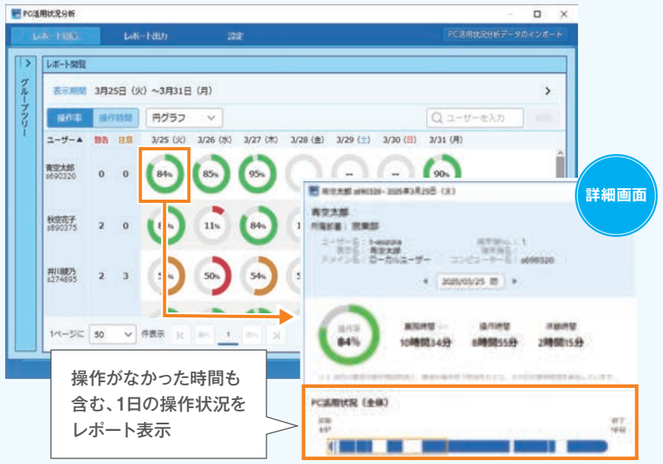
各アプリケーションの操作時間を、ユーザーごとにグラフ化。業務ごとの時間配分の把握などにお役立ていただけます。

PCの操作時間を集計・分析し、従業員の頑張りを定量的に見える化

PC活用状況分析

標準搭載

業務時間内におけるPCの操作時間の割合を、ユーザーごとに集計・分析してグラフ化。従業員の頑張りや負荷状況を把握する際の、定量的な参考データとしてご活用いただけます。



日々の残業状況を適切に把握、状況の早期改善を支援

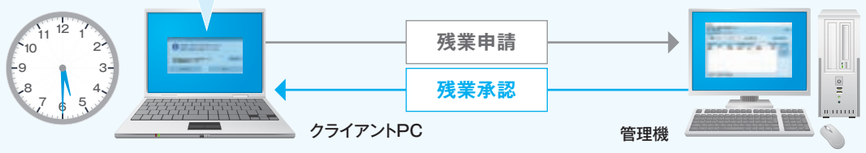
残業時間お知らせメッセージ / 残業管理 【関連特許取得】

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

定時終了前や業務時間外に、PCの画面にメッセージを表示し、従業員に業務終了や残業申請を促すことができます。管理機では残業申請の承認 / 拒否が行えるほか、当月の累計残業時間なども確認できます。タイムカードなどでの月ごとの集計ではなく、PCの操作ログから残業時間をリアルタイムに把握でき、業務負荷の偏りといった状況の早期改善にお役立ていただけます※1。

お知らせメッセージで
業務終了や残業申請を促す

定時終了前にメッセージを表示。残業申請が行われず定時終了、または申請した残業時間を超過した場合には、PCをネットワークから遮断、または画面をロックすることで、業務時間外のPCの使用を制限できます※2。



※1 本機能は、お客様の営業日と業務時間を設定いただくことでご利用いただけます。ただし、残業の申請・管理は必ずこの機能で行っていただく必要があるものではありません。お客様の運用ルールに沿ってご対応ください。※2 システム管理者が事前に設定した解除コードを入力することで、ネットワーク遮断や画面ロックの解除が行えます。

深夜や休日のPC起動を制限し、長時間労働を抑止

定期電源OFF設定

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

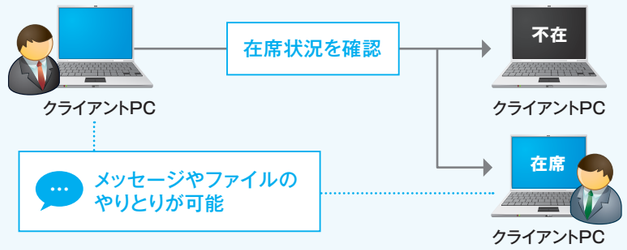
時間や曜日を指定し、その間のPCの電源を強制的にOFFにすることができます。電源OFFを実行することを、事前に従業員へメッセージ通知することも可能です。いつでもPCを起動させやすいテレワーク環境において、深夜や休日の起動を制限することで、サービス残業や長時間労働を抑止します。

PC操作から在席状況を把握、メッセージで手軽に情報共有

在席確認・インスタントメッセージ

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

PCへのログオンやキーボード・マウスの操作状態から、ほかの従業員の在席状況を自分のPCで確認することができ、メッセージを送り合うこともできます。コミュニケーションや情報共有が不足しがちなテレワークにおいて、在席状況を確認した上で、メッセージで手軽にやりとりすることができます。

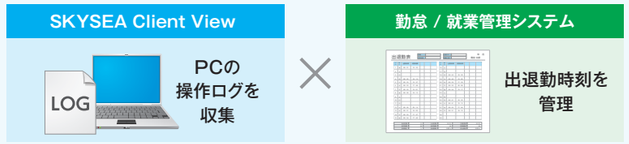


出退勤時刻とPC使用時間の差異をチェック

勤怠 / 就業管理システム連携

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

SKYSEA Client Viewで収集したログオン・ログオフや操作開始・終了ログを、各メーカー様の勤怠 / 就業管理システムへエクスポートし、システムで管理している出退勤時刻との差異を確認。労働時間の適正な把握を支援します。



オフィスのPCを持ち帰らず、手軽に・安全にリモートアクセス

SKYSEA Client View Remote Access Services

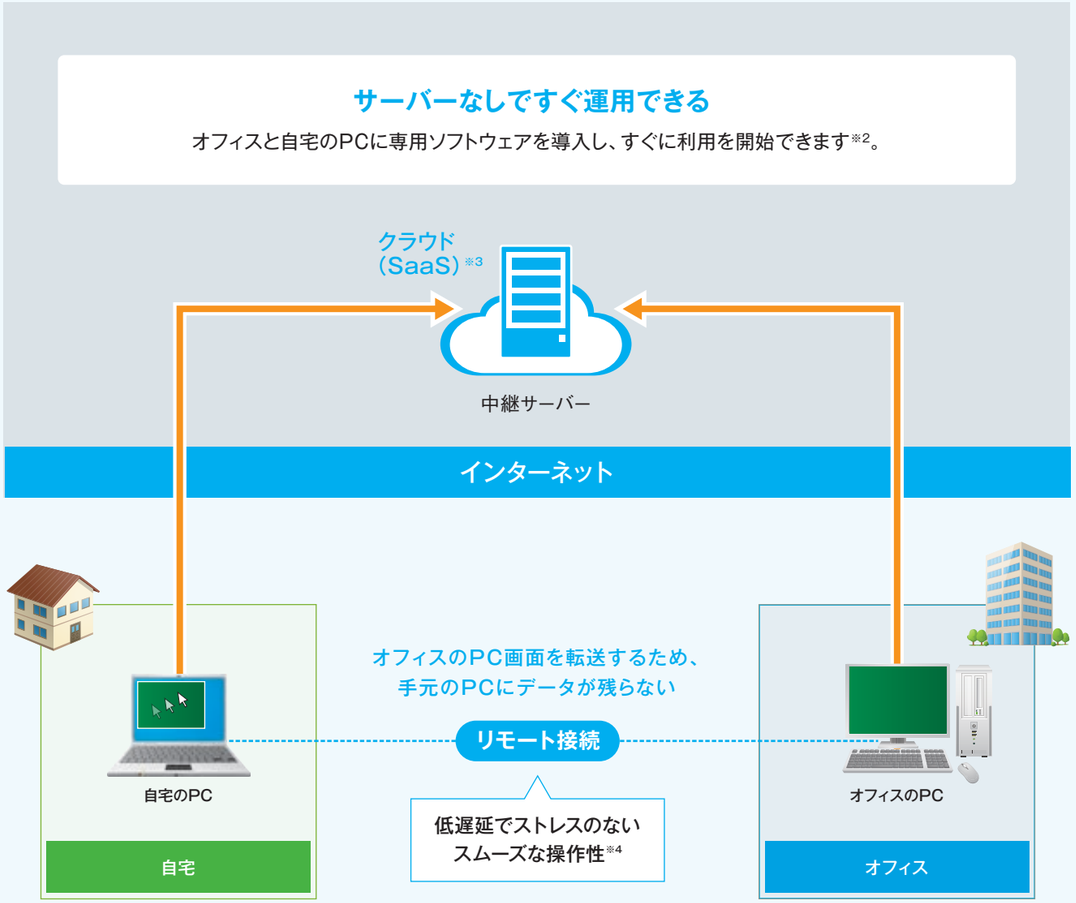
in SKYDIV Desktop Client Technology

オプション※1

出張先やテレワーク中に、手元のPCから手軽にオフィスのPCをリモート操作できる新サービスが登場。パブリッククラウドを経由する「SaaS版」に加えて、社内に設置したサーバーを介して利用できる「オンプレミス版」もご用意し、お客様の運用に合った方式をお選びいただけます。

サーバーなしですぐ運用できる

オフィスと自宅のPCに専用ソフトウェアを導入し、すぐに利用を開始できます※2。



※1 本サービスは、オプションでのご提供のほか、単体で購入してご利用いただくことも可能です。 ※2 利用者側のPCへの専用ソフトウェアのインストールが不要な「Webブラウザ版」もご用意しています。
※3 お客様の環境にサーバーを設置するオンプレミス版もご用意しています。※4 インターネットの回線速度が極めて遅い場合は、この限りではありません。

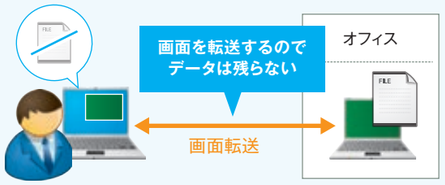
特長 1 オフィス側のネットワーク変更が不要

専用ソフトウェアを利用者側のPC、オフィスのPCの両方にインストールするだけで利用いただけます。VPN接続は不要で（HTTPS通信のみ）、ほとんどの場合でオフィス側のネットワーク機器の設定は不要です。

特長 2 利用者側のPCにデータを残さず安全

オフィスのPCの画面を利用者側のPCに転送して操作するため、利用者側のPCにデータは残らず、紛失や盗難などによる情報漏洩リスクを軽減できます。また、利用者側のPCのローカル環境にデータをコピーすることもできないため、データの持ち出しを防ぐことも可能です。

メンテナンス作業などでの利用を想定し、PC間でのデータ共有が行える機能もご用意していますので、ご利用の際は設定を十分に確認した上でお使いください。



特長 3 オフィスのPCをリモートで電源ON

利用者側のPC、オフィスのPCの両方で電源が入っていれば、すぐにサービスを利用できます。オフィスのPCの電源が入っていない場合でも、同一ネットワーク内に電源ONのPC※5が1台でもあれば、Wake On LAN機能で電源ONにし、リモート操作することが可能です。

特長 4 コスト削減につながるライセンス形態をご用意

「Remote Access Services」は、同時接続数ライセンスでの提供となります。例えば、従業員が交代で週1～2日ずつテレワークを実施する環境の場合、従業員の人数分のライセンスを用意するよりも、コスト削減につながります。

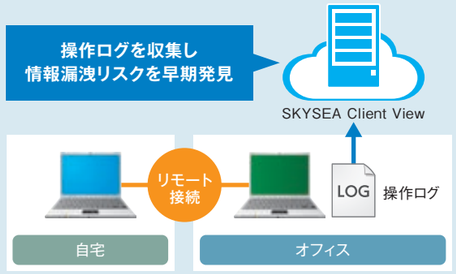
ご使用いただいたライセンス数に応じて利用料をお支払いいただく、従量課金の料金形態もお選びいただけます。

ライセンスは同時に接続する数だけでOK

管理者側で接続中のPCを切断し、割り振りを調整できる機能も搭載

テレワークと出社を組み合わせた働き方でも、「SKYSEA Client View」でオフィスPCの状況をしっかり把握

オフィスのPCの操作ログは、自宅からリモートで操作した場合でも、オフィスで直接操作した場合と同じように記録・管理できます※6。例えば週に数回のテレワークと出社を組み合わせて働く場合でも、常時出社している場合と変わらず「SKYSEA Client View」でPCの状況を把握でき、安心してご利用いただくことが可能です。

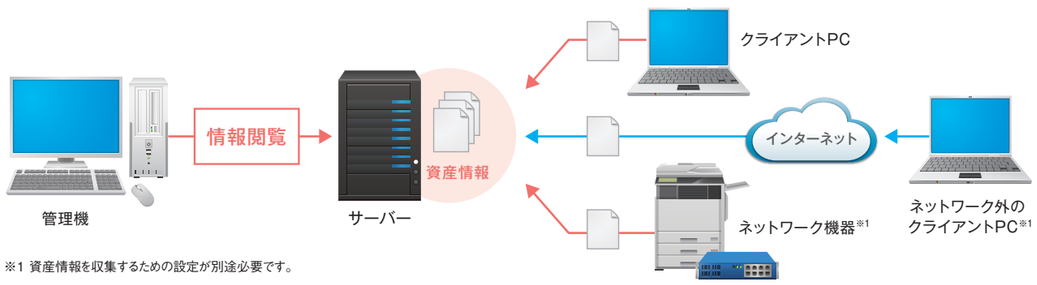


※5 本サービスの専用ソフトウェアがインストールされている必要があります。 ※6 リモートアクセスの場合は、専用ソフトウェアの起動・終了時にログが記録されるため、テレワーク時などのリモート操作だったかを判断する際にお役立ていただけます。

資産管理

日々変動する資産情報を自動収集、IT資産運用の最適化を支援

クライアントPCやサーバーのハードウェア情報、ソフトウェア情報、プリンターやルーターなどのネットワーク機器情報などを24時間ごとに自動収集し、1つの台帳で管理。組織内のIT資産の活用状況を的確に把握することで、各部署での運用の最適化やコストダウンなどに活用いただけます。



※1 資産情報を収集するための設定が別途必要です。

必要な情報を素早く検索、管理業務を効率化

ハードウェア一覧　標準搭載

検索条件を細かく指定し、条件にあった端末だけを表示できます。特定のOSを搭載したPCを抽出し、バージョンアップの検討に活用するなど、日々の管理の効率化にお役立ていただけます。

資産変更状況

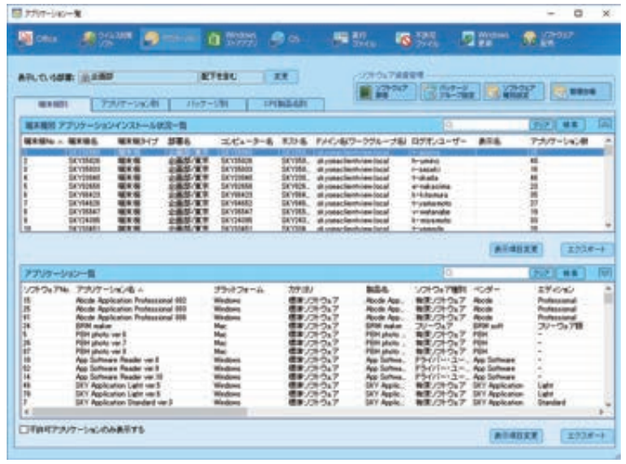
標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

事前に設定した資産情報の項目が変更されると、画面上に赤字で強調表示されます。気づきにくい、資産情報の小さな変化も適時把握できます。

インストール状況を把握し、ライセンス使用を最適化

アプリケーション一覧　標準搭載

ソフトウェアごとのインストール台数などの情報を表示。必要なソフトウェアが導入されているか、ライセンスが正しく使用されているかを確認できます。また、WindowsやMicrosoft　Officeの更新プログラムの適用状況も一覧で確認できます。



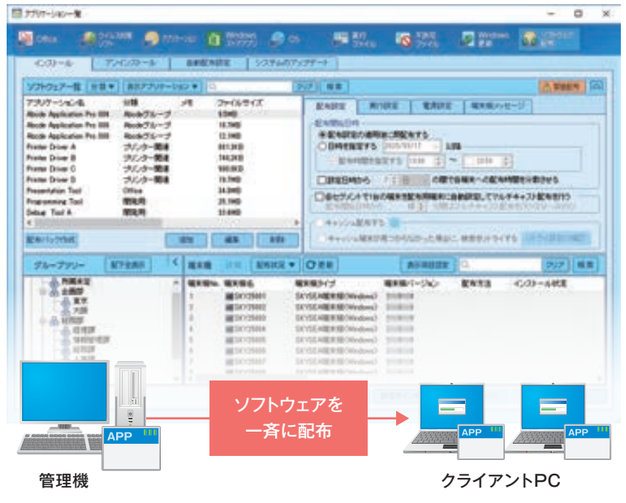
ウイルス対策ソフトウェア更新状況　標準搭載

クライアントPCごとにウイルス対策ソフトウェアのインストール状況・更新状況を確認できます。複数メーカー様のウイルス対策ソフトウェアに対応しています。

脆弱性対策を迅速に行うため更新プログラムを一斉配布

ソフトウェア配布　標準搭載

更新プログラムなどのソフトウェアを、管理機からクライアントPCへ一斉に配布、インストールできます。スケジュールを設定し、業務に支障が出にくい時間帯に実行することも可能です。



作業をまとめて一括処理も可能

複数のインストール、アンインストール処理をグループにまとめて一括で実行することも可能。業務ソフトウェアの入れ替え時などに役立ちます。

配布用スクリプトもご用意

保守契約ユーザー用Webサイト（https://sp.skyseaclientview.net/）にて、ソフトウェア配布を簡素化する各種スクリプトをご用意しています。

PCの情報を分析したダッシュボードから、リスクをひと目で把握

ダッシュボード

組織で管理するPCの資産情報やログを集約・分析し、数値やグラフで視覚的に確認できます。情報漏洩につながるさまざまなリスクを網羅的に把握することで、セキュリティ対策の抜け漏れ防止を支援します。

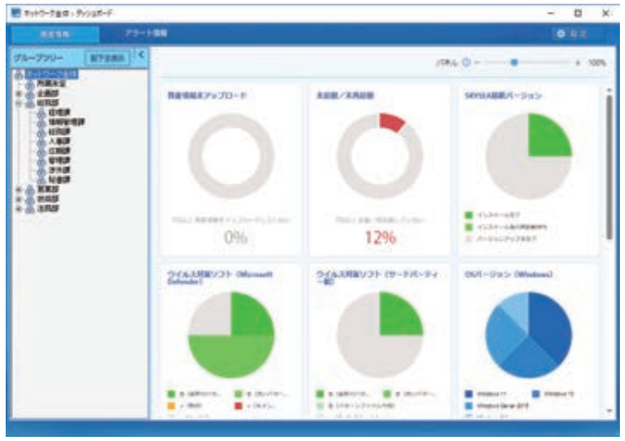
ソフトウェアの最新バージョンの適用状況を視覚化

標準搭載

組織内のPCで利用されているOSやソフトウェアについて、最新バージョンへのアップデート状況をグラフ表示。各OSバージョンの適用率、ウイルス対策ソフトウェアやWebブラウザごとの状況をひと目で把握でき、更新漏れの防止などにつなげられます。

分析可能な項目

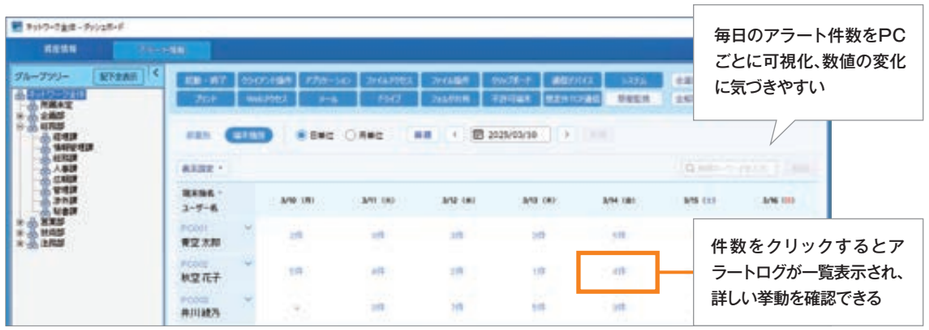
- ウイルス対策ソフトウェア、OSバージョン（Windows）のインストール状況
- Microsoft Edge、Google Chrome、Firefoxのアップデート状況
- PC環境総合診断結果※1　など



アラート件数をカレンダー形式で表示し、不審な挙動を早期把握

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

日々のアラート※2の発生件数を集計し、日ごとに比較できます。不自然に多いアラート件数を発見した際にはすぐにアラートログを確認でき、情報漏洩リスクのある挙動を洗い出すことができます。



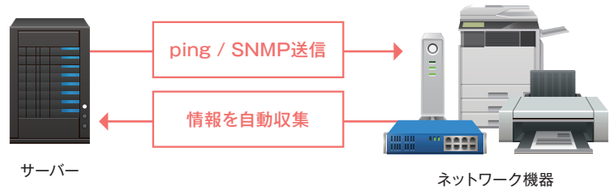
※1「PC環境診断」機能<Ent/Pro/Tel/LT/500/ST>と連携し、診断結果を色分けして表示します。「PC環境診断」機能についてはP.47をご覧ください。※2「注意表示（アラート）設定」機能についてはP.44をご覧ください。

オフィス機器情報を収集して一元管理

ネットワーク機器情報収集

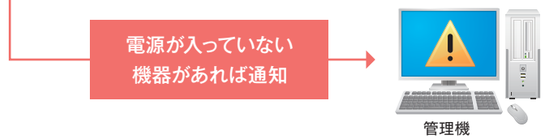
標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

プリンターやHUBなどのネットワーク機器の情報を収集し、台帳管理できます。SNMP対応機器であれば、詳細な情報も収集でき、オフィス内の機器の状況が細やかに確認できます。



ネットワーク機器の死活監視

管理下にあるネットワーク機器に電源が入っているかどうかを確認可能。電源が入っていない場合は、メールやポップアップで通知します。



社内ネットワークへの接続が困難なPCの運用管理に

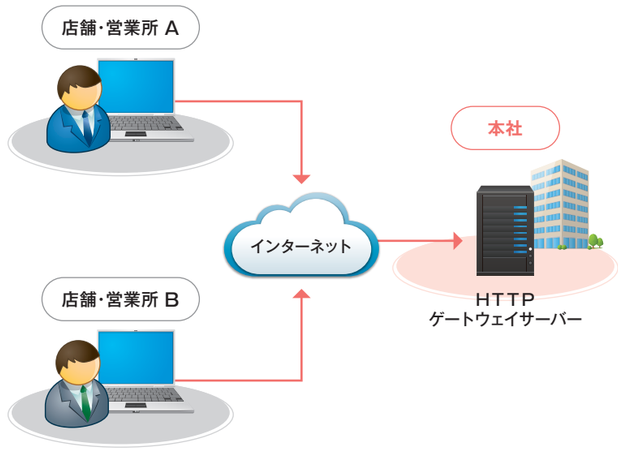
インターネット経由での資産情報収集

標準搭載

本社のネットワークとの接続が難しい他拠点のクライアントPCなどから、HTTP（S）通信による資産情報やログの収集が行えます。デバイス管理やリモート操作※3、各種セキュリティポリシーの設定も行えます。

HTTP（S）通信への自動切り替え

クライアントPCの通信状況に応じて、社内ネットワークとHTTP（S）通信とを自動で切り替えて資産情報が収集できます。社外に持ち出すノートPCなどの管理に便利です。

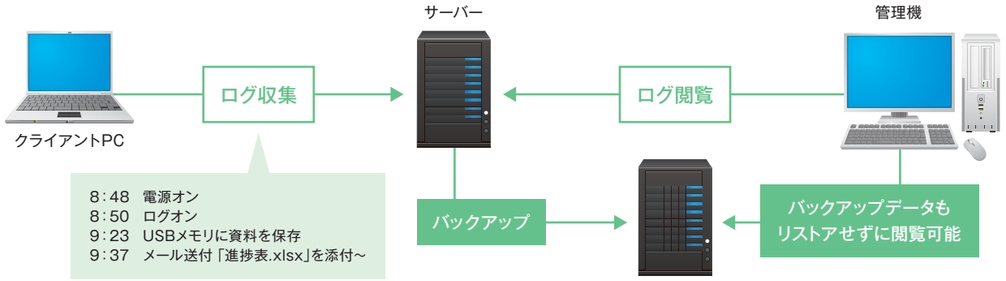


※3 リモート操作する側、操作される側の両方のPCで、別途ツールのインストールや起動が必要です。

ログ管理

日々のPCの挙動をログとして管理
情報漏洩リスクの早期発見などに活躍

クライアントPC上でのユーザーの操作や、外部との通信、ファイルへのアクセス状況など、PCのさまざまな挙動をログとして記録。膨大なデータから必要な情報を抽出することで、「いつ」「誰が」「何をしたのか」を正確に把握し、情報漏洩リスクの素早い発見を支援します。



特定のファイル操作などをログで確認、状況把握を支援

ログ閲覧

標準搭載

ログの種別、キーワードや期間などの条件を指定することで、重要データの取り扱いやアプリケーションの起動状況などを一連のログとして表示。PCの不審な挙動がないかを確認でき、状況の早期把握に役立ちます。

全データサーバー一括ログ出力

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

複数のデータサーバーでログを管理している場合でも、すべてのデータサーバーを検索範囲に指定して、一度にログ検索することができます。

別名保存されても、ファイル操作を徹底追跡

ファイル追跡

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

外部への情報流出が疑われる操作など、不審なファイル操作について、流出経路の特定が行えます。ファイルコピー、別名保存によって分岐したファイル操作の追跡も可能です。

アクセスログから不審な操作を確認

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

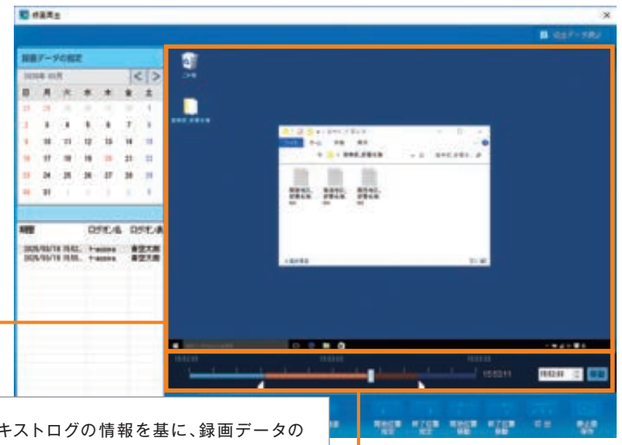
サーバーの共有ファイルへのアクセスログから、アクセス前後5分のクライアントPCでどんな操作が行われていたか、ファイルがどのように使われていたのかを確認できます。

重要データの取り扱い状況を視覚的に把握

画面操作録画

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

重要データを取り扱う担当者にとっては、それらデータを管理するシステム（データベース）にアクセスすることが業務上必要であり、その操作を制限するのは現実的ではありません。画面操作を録画しておくことで、操作の正当性の確認や、不注意による誤操作の早期発見にお役立ていただけます。



テキストログでは把握できないマウス操作や、アプリケーション上での文字入力など、詳細な操作内容を視覚的に把握できます。

テキストログの情報を基に、録画データの再生位置をピンポイントで指定し、チェックしたい操作を素早く表示できます。

注意すべき操作が行われると、自動で録画を開始

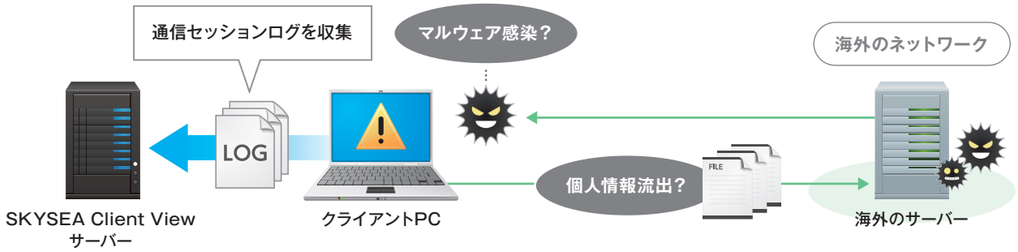
重要データを取り扱うシステムの起動時など、指定した操作が行われると自動的にPC画面の録画が開始されるように設定することもできます。

組織内にあるPCの外部との通信状況を把握

想定外TCP通信ログ

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

各サーバー、クライアントPCの通信セッションをログとして収集、管理。ログの詳細を確認することで、普段通信することのない海外の外部サーバーへのアクセス状況などをいち早く把握し、マルウェア感染などによる不正なデータ送信がないか察知することにお役立ていただけます。



サイバー攻撃の被害発覚時の調査に備え、ログの長期保存・バックアップを

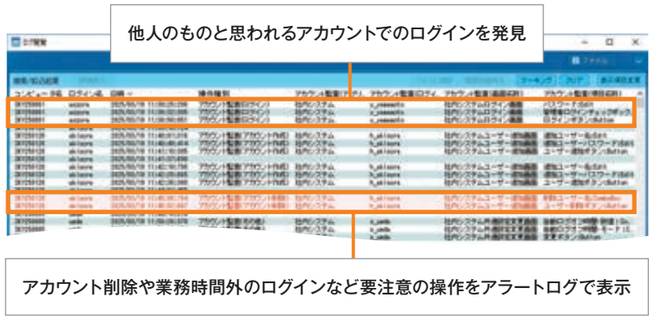
標的型攻撃では、マルウェアがPCに侵入してから、数か月後に情報漏洩の被害が発生しているケースもみられます。そのため、被害の発覚後にマルウェアの侵入経路などの調査を行うためには、ログを長期間保存しておくことが望まれます。SKYSEA Client Viewでは、ログを最大10年間保存するように設定できます。また、バックアップしたログデータをリストア（復元）せずに閲覧・利用でき、過去のログを調査する際もすぐに作業に取り掛かることができます。

業務基幹システムなどのアカウント利用状況を把握

Webアプリケーションアカウント監査

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

指定したWindowsアプリケーションやWebシステムごとに、アカウントの取り扱いに関するログを記録※1。不審なアカウントの追加や削除がないか、他人のアカウントを利用した「なりすましログイン」がないかなどの状況把握にご活用いただけます。



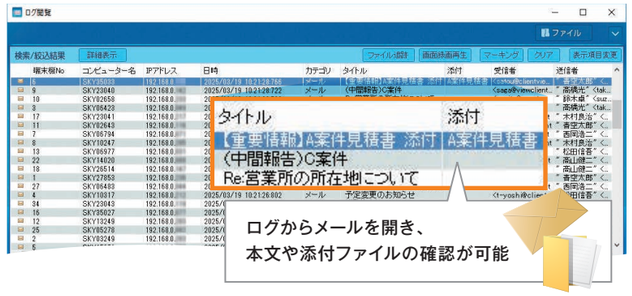
※1 事前にログ取得の対象画面、および対象操作（アカウントの入力、ログイン処理を行うためのボタン操作など）を登録する必要があります。登録できていない場合は、ログ取得が行えません。

メール経由での情報漏洩の防止に活用

送信メールログ

標準搭載 Ent/ST　オプション Pro/Tel/LT/500

送信メールとその添付ファイルをログとして記録します。また、メールの件名や本文も対象に含めたキーワード検索ができ、確認したい送信メールログを手間なく絞り込むことができます。



収集できる操作ログ一覧※2 …… SKYSEA Client Viewでは、種別ごとにカテゴリ分けしてログを管理しています。

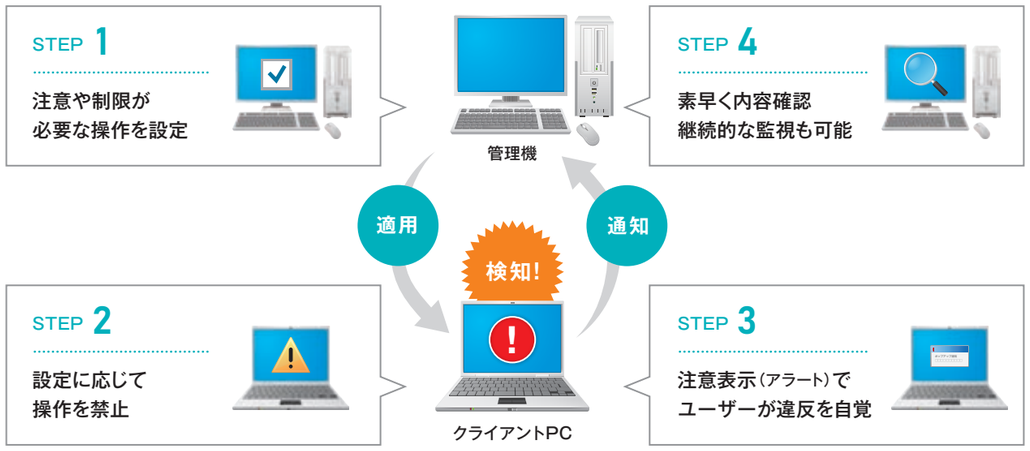
起動・終了ログ	ユーザーごとのログオン / ログオフや電源ON / OFF、操作開始 / 終了時刻など。
クライアント操作ログ	アクティブ状態のウィンドウタイトルと稼働時間、業務で使用するアプリケーションのログイン状況など。
アプリケーションログ※3	ユーザーが利用したアプリケーションの実行ファイル名や稼働時間、ファイルパス、ハッシュ値、実行コマンド、ファイルパス（起動元アプリ）、ハッシュ値（起動元アプリ）、プロセスIDなど。
ファイルアクセスログ	ローカルの共有フォルダへのアクセス、アクセスユーザー、操作種別など。
ファイル操作ログ	ファイルの作成、上書き保存、削除、コピー、名前変更、ライティングソフトウェアを用いたCD-R / DVD-Rへの書き込みなど、ファイル・フォルダ操作の履歴（MTP / PTP接続デバイスでファイルコピーしたログも取得）※4。
クリップボードログ	コピー&ペーストしたときのクリップボードの内容※5など。
システムログ	アラート設定変更を行った部署・変更内容、ログ未回収期間に達したクライアントPCのログ、リモート操作のログ（PC操作時、管理機操作時両方）など。
プリントログ	印刷したドキュメントのプリンター名、プリントタイトル、印刷枚数、印刷対象のファイルパス、IPアドレス、ポート名など。
Webアクセスログ※6	Mozilla Firefox、Google Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）でアクセスしたURL、ウィンドウタイトル、稼働時間、Gmail送信ログ、WindowsアプリケーションやWebシステムへのログイン状況など。 ● Webアップロード：対応するWebブラウザでアクセスしたURL、Dropbox等のWebサイトにアップロードしたファイル名などを記録。 ● Web書き込み：対応するWebブラウザでアクセスしたURL、Webメール・掲示板への書き込みログ、書き込んだ内容、Microsoft 365でのファイル作成ログなどを収集。 ● FTPアップロード：FTPへのファイルアップロードログなどを収集。
送信メールログ	送信メールの宛先（CC / BCCを含む）、件名、本文（一部）、添付ファイル名など。
ドライブ追加・削除ログ	USBデバイスなどのドライブの追加・削除、ドライブ種別などを記録。
フォルダ共有ログ	共有フォルダの作成・削除、共有元アドレス、共有名など。
不許可端末ログ（Windowsのみ）	登録されていないクライアントPCのMACアドレス・IPアドレスなどを検知。デフォルトゲートウェイを新規で利用、または変更されたログなどを収集。
通信デバイスログ	ネットワークカードやBluetooth等の通信デバイスによる接続に関するログなど。通信状況を基に、社内か社外どちらで操作していたかの参考情報となるログも記録。
想定外TCP通信ログ	実行ファイルのTCPによる通信に関するログなど。

※2 M1 Cloud Editionでは一部のログのみ対応しています。詳しくは「収集できるログ（P.82）」をご覧ください。 ※3 実行コマンドや起動元アプリに関する情報の収集は、「ITセキュリティ対策強化」機能＜標準搭載（Ent/Pro/Tel/S3H）、オプション（LT/500/ST）＞が必要です。 ※4 Mac端末の場合、ファイルコピー、ファイル上書き保存、フォルダコピーは対象外です。 ※5 Mac端末の場合、Print Screenは対象外です。 ※6 Mac端末の場合、Safariでの書き込みログは対象外です。

セキュリティ管理

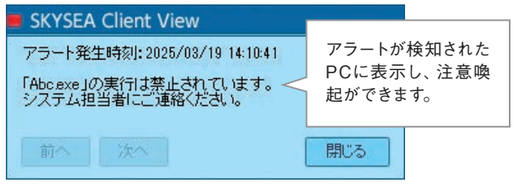
社内ポリシーに沿って不適切な操作を制限、ユーザーの情報セキュリティ意識向上に

業務と関係ないアプリケーションの使用や、Webサイトへの書き込みなど、組織のセキュリティポリシーに違反する行為に対して、注意表示（アラート）メッセージを通知したり、操作そのものを禁止するように設定できます。ポリシーに反する行為が行われたPCの画面を、自動的に録画することも可能です。



アラート検知時の通知（禁止）方法※1

ポップアップ通知
アラートが検知されたPC、管理機の画面にメッセージを表示。



メール
アラート発生時に管理者のPCにメールを送信。

画面録画
アラートが検知されたPCの画面を録画※2。

禁止
アラート対象の操作が行われた場合に、その操作を禁止。

アラートログ
アラート対象となった操作を「アラートログ」として記録。

※1 M1 Cloud Editionでは「ポップアップ通知」「禁止」「アラートログ」のみ対応しています。※2 「画面操作録画」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞が必要です。

重要データの漏洩を防ぐため、各種操作を制限

注意表示（アラート）設定　標準搭載

ファイルのWebアップロードやダウンロードなどの操作をクライアントPC単位で禁止でき、情報漏洩やマルウェア感染の防止にお役立ていただけます。一方的に禁止するだけでなく、メッセージでユーザーに注意を促すなど柔軟な運用も可能です。

■ 操作前後の様子をログでも確認

管理画面上で、ポリシーに反する操作が行われたときの画面の様子※2や、操作前後のログを確認することで、適切に状況を把握することが可能です。

■ 主なアラート項目※3

許可 / 不許可アプリケーション	● 許可していないアプリケーションのインストールを検知します。
アプリケーション実行	● 事前に指定したアプリケーション（またはそれ以外）の実行を禁止します。
業務外アプリケーション実行	● ゲームや動画など音声を出力するアプリケーションの実行を禁止します。
特定フォルダアクセス	● 指定したフォルダへのアクセスがあった場合に検知します。
禁止ファイル持ち込み	● 指定したキーワードを含むファイルやフォルダに対する操作を検知します。
記憶媒体 / メディア使用	● 指定したUSBデバイス、メディアの使用を禁止します。
印刷枚数	● 指定した枚数以上の印刷が一度に行われた場合に検知します。
電子メール送信宛先フィルタ※4【関連特許取得】	● 指定したアドレス以外へのメール送信を禁止します。
Web閲覧	● 指定したURLのWebサイトの閲覧を禁止したり、指定URLのみ閲覧を許可します。
Print Screenキーによる画面コピー※5	● 「PrintScreen」キーによる画面キャプチャーを禁止します。

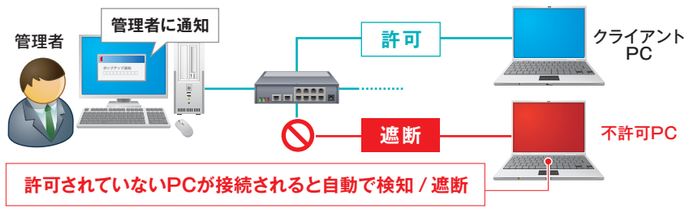
※3 M1 Cloud Editionでは一部のアラート項目のみ対応しています。詳しくは「設定できるアラート（注意表示）項目一覧（P.82）」をご覧ください。※4 「送信メールログ」機能＜標準搭載（Ent/ST）、オプション（Pro/Tel/LT/500）＞が必要です。※5 Enterprise Editionとテレワーク Editionでのみご利用いただけます。

社内ネットワークへの不許可PCの接続を遮断

不許可端末検知 / 不許可端末遮断

標準搭載 Ent/Pro/ST/S3H　オプション※1 Tel/LT/500/S1H

使用が許可されていない、社外からの持ち込みPCが社内ネットワークに接続されるとアラート検知し、管理者へ通知します。自動的に接続を遮断することもでき、マルウェア感染対策としてもご活用いただけます。



※1「不許可端末検知」は標準機能です。

PCの異常を検知し、障害発生前の早期対応を支援

端末機異常通知

標準搭載 Ent/Pro/S3H　オプション Tel/LT/500/ST

CPUの温度を計測することで、冷却ファンの動作不良による熱暴走などにつながる異常を把握。自己診断機能「S.M.A.R.T.」の情報を基にハードディスクドライブのヘッドの異常や、SSDのディスクセクタの異常を判定したり、バッテリーの充電性能の劣化を確認することもできます。

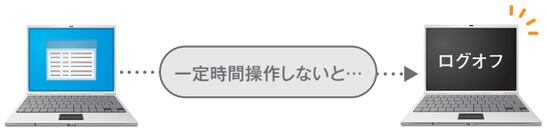
※2 異常と判断するためのしきい値を事前に設定しておく必要があります。

PCを自動でログオフし、第三者の不正利用を防止

ログオフし忘れ防止

標準搭載 Ent　オプション※3 Pro/Tel/LT/500/ST

マイナンバーなど個人情報を扱うアプリケーションを起動したまま一定時間操作が行われなかった場合に、PCのログオフやアプリケーションの強制終了を実行。第三者のPC操作や閲覧を防ぎます。



※3「ログオフし忘れ防止」は、「PC定期再起動(P.66)」とセットで購入いただくオプションです。

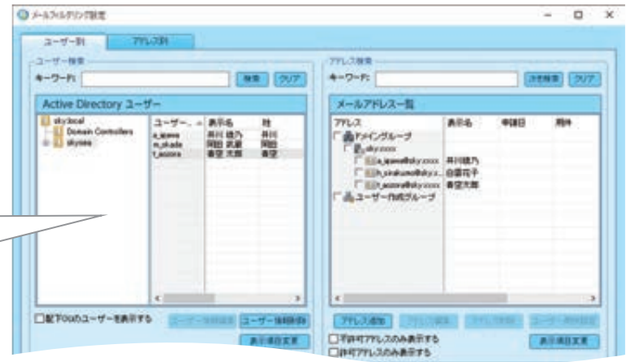
指定した宛先以外へのメール送信を制限

電子メール送信宛先フィルタ

標準搭載 Ent/ST　オプション Pro/Tel/LT/500

事前に指定したメールアドレス以外への送信を検知し、禁止します。管理者が把握していないアドレスに、重要データが送信されてしまうことによる情報漏洩リスクを軽減します。

Active DirectoryやMicrosoft Entra IDに登録されたユーザーごとに送信を許可するアドレスを指定したり、アドレスごとに送信を許可するユーザーの指定が可能。

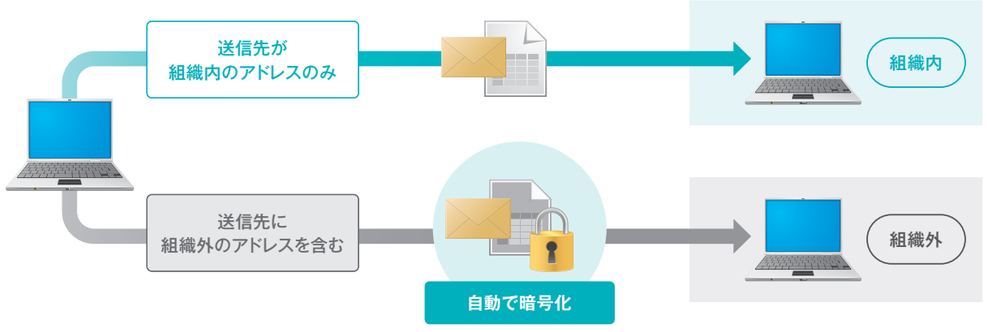


組織外へ送信するメールの添付ファイルを自動で暗号化

電子メール送信時の添付ファイル自動暗号化

オプション※4

組織内で使用しているメールアドレスやドメインを登録しておき、未登録の宛先を含むメールが送信される際に、添付ファイルを自動で暗号化します。組織外へ送信する添付ファイルの暗号化し忘れなどを防ぎます。



添付ファイルの自動削除も可能

■電子メール送信(添付ファイル付き)アラート※5

標準搭載 Ent/ST　オプション Pro/Tel/LT/500

未登録の宛先を含むメールが送信される際に、添付ファイルを自動で削除することも可能です。組織内の重要データを添付ファイルとして外部に持ち出す行為などを制限できます。

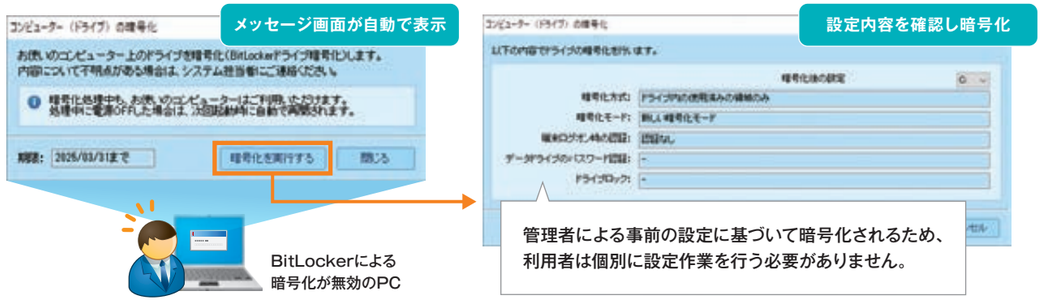
※4「送信メールログ」機能<標準搭載(Ent/ST)、オプション(Pro/Tel/LT/500)>と、「外付けデバイス&ファイル暗号化」機能<オプション(Ent/Pro/Tel/LT/500/ST)>が必要です。また、本機能は「Microsoft Outlook」にのみ対応しています。その他のメールクライアントや、「Outlook.com」などのWebメールには対応しておりません。※5 本機能は「Microsoft Outlook」の2003以降のバージョンにのみ対応しています。

暗号化を促すメッセージを表示し、組織内PCの暗号化徹底を支援

BitLockerローカルディスク暗号化管理

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

BitLockerによるドライブ暗号化が無効になっているPCに対して、暗号化を促すメッセージ画面を自動で表示。利用者は、管理者が事前に行った暗号化設定に基づいて、画面上で素早く暗号化を実行できます。設定した期限までに暗号化が実行されなかったPCをアラートで把握することも可能です。

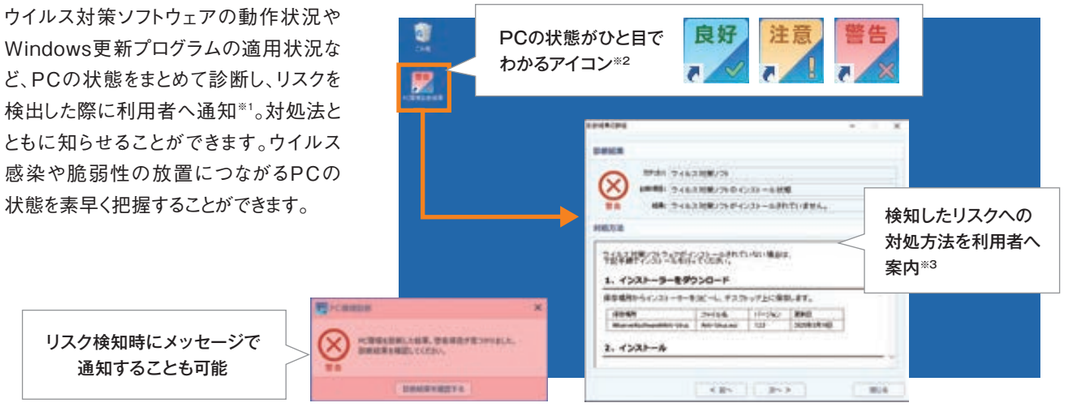


PCを自動診断、情報漏洩リスクを伴う状態を素早く通知

PC環境診断

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

ウイルス対策ソフトウェアの動作状況やWindows更新プログラムの適用状況など、PCの状態をまとめて診断し、リスクを検出した際に利用者へ通知※1。対処法とともに知らせることができます。ウイルス感染や脆弱性の放置につながるPCの状態を素早く把握することができます。



診断できる内容

- ウイルス対策ソフトウェアのインストール状況 / 有効化状況
- ウイルス対策ソフトウェアの定義ファイル更新状態
- Windows更新プログラムの適用状況 / 再起動待ち状況
- Windowsへのログオンパスワード設定状態
- 不許可アプリケーションのインストール状態
- WSUSサーバーの設定状況

など

※1 管理者にもアラートで通知します。※2 ログオン時に自動で診断し、事前に設定したレベルに応じて診断結果が表示されます。※3 管理者があらかじめ設定した診断項目ごとの対処方法を表示させることができます。

品質更新プログラムのスムーズな取得･適用を支援

更新プログラム配布管理

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

保守契約ユーザー用WebサイトからWindowsの更新プログラム情報を一覧で取得・インポートすることで、マイクロソフト社（Microsoft Corporation）が公開する更新プログラムのダウンロードから、PCへの配布・適用までを管理画面上で一括管理することができます※4。

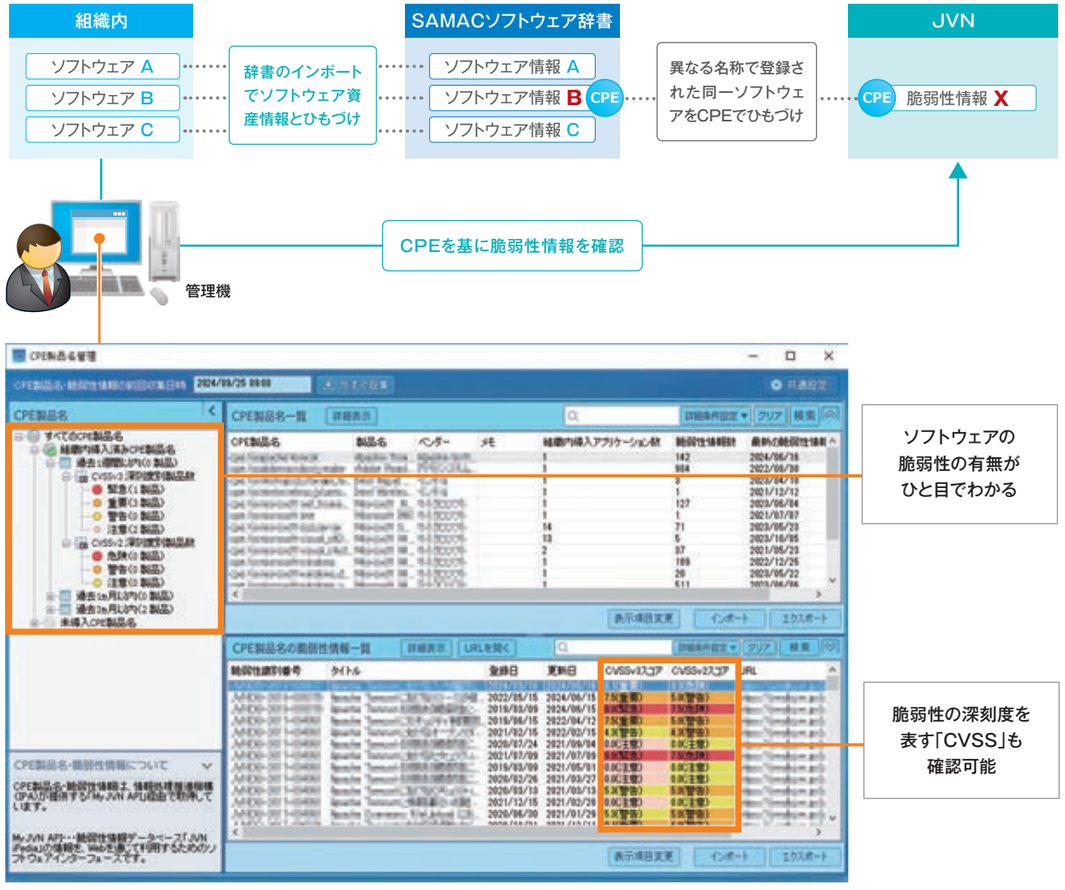
※4 Windows更新プログラムについては、品質更新プログラムに対応しています（2025年2月現在）。また、更新プログラム情報の一覧を取得する際は、初回のみWebサイトにて利用者情報の登録が必要です。

脆弱性情報を効率的に取得、迅速なアップデート対応をサポート

CPE製品名管理

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

SKYSEA Client Viewで管理するソフトウェアとJVN※1が提供する脆弱性情報を、SAMACソフトウェア辞書※2に含まれるCPE※3でひもづけ、まとめて表示。各ベンダーのWebサイトなどで情報収集する手間を減らし、速やかな修正プログラムの適用につなげていただけます。



最新の脆弱性情報はJVNから取得し確認

SAMACソフトウェア辞書は数か月ごとに更新されるため、本辞書のインポートだけでは、最新の脆弱性情報を把握することが困難な場合があります。そこで、JVNから最新の脆弱性情報を取得できる機能もご用意しています。そのほか、新たな脆弱性情報を取得した際に、管理機に通知することも可能です。

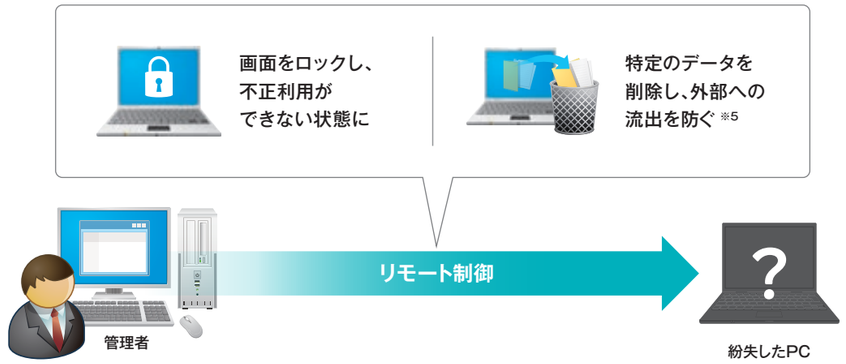
※1 日本で使用されているソフトウェアなどの脆弱性関連情報とその対策情報を提供し、情報セキュリティ対策に資することを目的とする脆弱性対策情報ポータルサイト。正式名称は「Japan Vulnerability Notes」。
※2 一般社団法人IT資産管理評価認定協会（SAMAC）が提供する、国内外で一般公開されているソフトウェアに関する情報を収録したマスターデータ。保守契約をいただいているユーザー様に向けて、保守契約ユーザー用Webサイトでご提供しています。※3 情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアなどを識別するための名称の基準。

紛失したPCをリモートロックし、情報漏洩を防ぐ

紛失端末制御※4

オプション

リモートワークなどで社外に持ち出したPCが紛失・盗難に遭った際、画面ロックやデータ削除をインターネット経由で実行でき、第三者の利用を防ぐことができます。また、PCが接続しているWi-Fi機器などを基に、大まかな位置情報を確認することも可能です。



PCの位置情報も確認可能

紛失したPCの位置情報を地図上で確認でき、捜索に役立てることができます。※6

地図データ©2025 Google

発見したPCはマルウェア感染を考慮し、オフラインでロックを解除

紛失したPCには、マルウェアなどが第三者に仕込まれている可能性があり、感染拡大を防ぐためにも発見時にオフラインでPCを調査する必要があります。本機能では、管理機で発行した解除用パスワードをPCに入力することで、オフラインのまま画面ロックを解除することができます。

閉域網の環境にも対応※7

インターネットから分離された閉域網の環境でも、本機能をご利用いただけます。その場合、紛失したPCの制御等は閉域網内にあるマスターサーバーを通じて行われます。

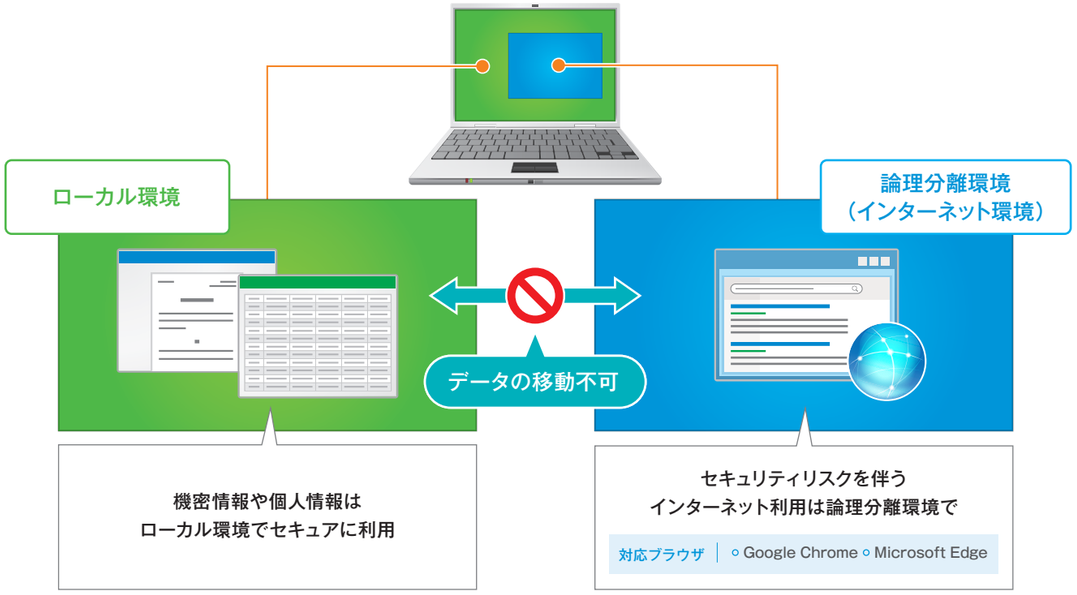
※4 紛失したPCがインターネットに接続できる状態であることが必要です。※5 削除対象はあらかじめ、フォルダ単位で指定します。※6 PCの位置情報は主に、使用しているWi-Fi機器やIPアドレスを基に取得します。Wi-Fi機器と位置情報がひもづけられたGoogleのデータベースの情報から位置を特定したり、IPアドレスを割り振るプロバイダの所在地情報から推定します。そのほか、携帯電話基地局からの取得も行えるため、SIMカードを利用したモバイル通信を行うPCの位置情報も取得可能です。加えてGPS機能を搭載したPCに限り、GPSを利用した位置情報も取得できます。※7 閉域網の環境で利用する場合は、紛失したPCに専用のSIMカードなどが挿入されており、閉域網内のマスターサーバーと接続できる状態であることが必要です。

インターネット環境をローカル環境から分離し、セキュリティを確保

ブラウザ環境分離

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

ローカル環境から分離させた別の環境（論理分離環境※1）をPC内に作成し、その環境でのみWebブラウザでインターネットが利用できます。インターネット経由のマルウェア感染などのセキュリティリスクをローカル環境から排除し、安全な作業環境を構築します。

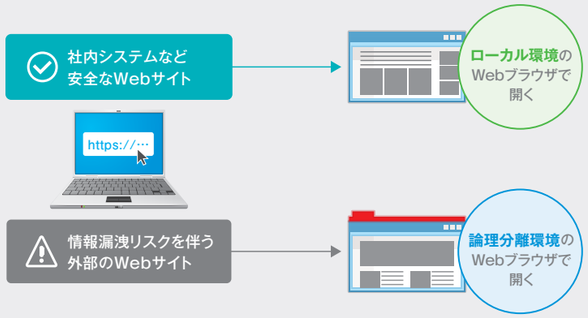


区別しやすいマーカー表示

ローカル環境のアプリケーションと区別しやすいように、論理分離環境で利用するWebブラウザにはマーカーを表示できます。

ローカル / インターネット環境を自動で切り替えて安全にアクセス

メールなどに記載されたURLをクリックして開く際、安全な社内Webシステムなどの場合はローカル環境のWebブラウザ、情報漏洩リスクを伴う外部のWebサイトの場合は論理分離環境（インターネット環境）に自動的に切り替えてアクセスできます。ユーザーは環境の使い分けを意識しなくても、状況に応じて安全なWebアクセスが行えます。



※1 コンテナ型の仮想化技術を用いた環境ではありません。

ネットワーク分離環境でのファイル共有を、専用Webシステムで安全に

ファイル受渡しシステム※2

オプション※3 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

インターネットを利用する情報系ネットワークと、機密情報などを扱う基幹系ネットワークの間で安全にファイル共有が行えます。ファイルの共有期限を設けたり、共有するユーザーを限定できるほか、基幹系ネットワークからのファイル持ち出し時に申請・承認を必須とするセキュアな運用※4も行えます。

システム上でアップロード・ダウンロードして共有

こんなシーンでのファイル共有をサポート

- メールで得た顧客情報を、基幹系ネットワーク上のデータベースに登録したい
- メールで受け取った請求書を、基幹系システムで処理したい
- ダウンロードした資料を基に、社内資料を作成したい
- 基幹系ネットワークで管理している製品データを、営業資料としてメールで送りたい

※2 ご利用にはActive Directory環境が必要です。※3「申請・承認ワークフローシステム」オプションでご利用いただけます。本システムについてはP.55をご覧ください。※4「申請・承認ワークフローシステム」から持ち出すファイルを添付して申請し、承認を得ることで、ファイル受渡しシステムからファイルがダウンロードできるようになります。

デバイス管理

デバイスやメディアの適正管理で、個人 / 機密情報の漏洩防止を支援

USBメモリなどの記憶媒体は大量のデータを手軽に持ち運ぶことができる反面、紛失などによって重要情報が漏洩し、企業の信用を失う危険性もはらんでいます。本機能を活用し、USBデバイスやメディアを1台ずつ適切に管理、細やかに使用制限を設定することで、組織の大切な情報を守るお手伝いをいたします。

対応デバイス / メディア※1 ※2

- USBメモリ / USBハードディスク
- カードリーダー / ライター
- CD / DVD / ブルーレイディスクドライブ
- イメージスキャナー / デジタルカメラ
- モバイル端末
- SDカード
- DVD-RAM
- MOディスク
- コンパクトフラッシュ
- メモリスティック　など

※1 PCに内蔵されているカードリーダーや、CD / DVD / ブルーレイディスクドライブを含みます。※2 M1 Cloud Editionではデバイスの管理のみ対応しています。※3 メディア登録時は別途、管理番号やメディア種別などの登録が必要です。また、台帳登録済みのメディアをフォーマットすると未登録のメディアと判断され、再度登録する必要があります。

使用不可、読み取り専用など実運用に合わせて柔軟に設定

USBデバイス / メディア使用制限 標準搭載

デバイスやメディア1つずつに対して使用制限を設定できます。データのやりとりが多い部署は「読み取り専用」、それ以外の部署は「使用不可能」にするなど、組織の運用に沿った管理が可能です※2。

デバイス種別制御

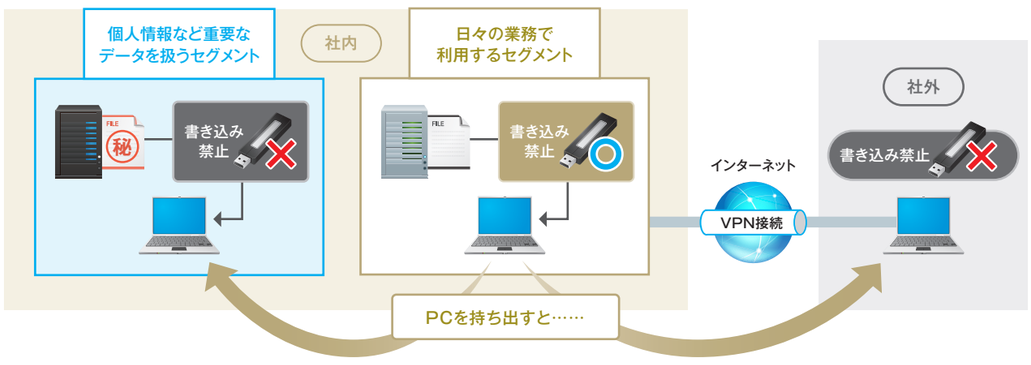
各イラストをクリックするだけで、デバイス種別ごとの使用制限が切り替えられます。個別のデバイスの設定と組み合わせることもできます。

セグメントごとにデバイス使用を制限、データの持ち出しを抑止

セグメントごとのデバイス制御 / 印刷禁止

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

ネットワークのセグメントごとに、USBデバイスやメディアの使用を制限できます。例えば、日々の業務で利用するセグメントではデバイスの使用を許可し、個人情報など重要なデータを扱う別セグメントでの使用を禁止することで、使用範囲を限定。データの不要な持ち出しを抑止します。また、社外からのVPN接続による社内データの書き込みも禁止できます。



セグメントごとに印刷の制限も可能

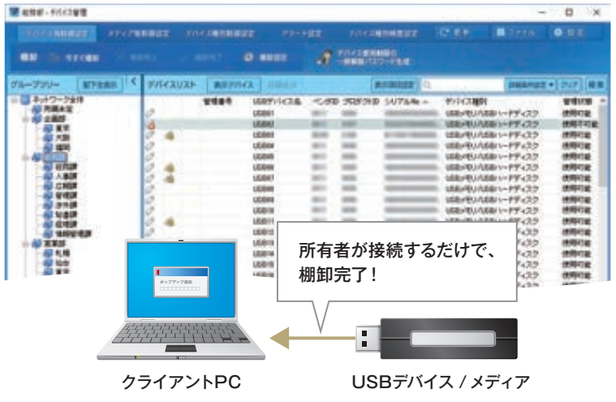
セグメントごとに印刷も制限できます。社外でPCを利用する場合などに、誤って社内のプリンターを指定して印刷してしまうことがないようにし、印刷物を放置することによる情報漏洩リスクを抑止します。

接続すると棚卸が完了、所有確認を効率的に

USBデバイス / メディア棚卸 特許取得

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

指定日時に棚卸依頼メッセージを各PCに送信。デバイス(メディア)をPCに接続するだけで所有確認が完了します。管理対象デバイス(メディア)の数が膨大な場合などに、棚卸の負担を軽減します。



USBデバイスファイル確認 【関連特許取得】

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

USBメモリなどの紛失時に、USBメモリ内に重要なデータが記載されていなかったかを素早く確認でき、初動対応を迅速に行えます。

USBデバイスの利用申請･承認をWebシステムで管理

申請･承認ワークフローシステム

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

USBデバイスの利用申請、承認がWebブラウザ上で管理できます。事前に設定したフローに沿って申請、承認を行うことで、煩雑になりがちな申請の流れを明確にし、日々の申請業務の効率化を支援します。

組織外のUSBデバイスは台帳登録なしで一時利用

取引先などから預かったUSBデバイスを、台帳登録せず一時的に利用を承認することもできます。組織で所有するUSBデバイスと、そうではないUSBデバイスの分別した運用が可能です。

USBメモリによるデータの持ち出しをより安全に

取り扱いファイル暗号化

標準搭載 Ent/Pro/S3H　オプション Tel/LT/500/ST

USBデバイスによる重要データの持ち出し時に、クライアントPC上でファイルを暗号化できます。読み取り専用デバイスに対しても、暗号化したファイルのみ保存できるように設定でき、持ち出し時のセキュリティ強化につながります。※1

暗号化ファイルの復号を組織内に限定　特許取得

暗号化ファイルの復号を、組織内のPCでしか行えないように設定し、使用範囲を限定することで、セキュリティをさらに強化します。

本機能はUSBメモリなどでのファイル持ち出しにご利用いただくことを想定したファイル暗号化機能であるため、ご利用を検討される際には、お客様の使用用途に適合しているかのご確認をお願いいたします。暗号化によるセキュリティをさらに重視される場合には、日本電気株式会社製「InfoCage ファイル暗号」や、富士通株式会社製「FENCE」シリーズなどの製品をお使いいただきますようお願いいたします。なお、「InfoCage ファイル暗号」および「FENCE」シリーズについては、SKYSEA Client Viewと共存してご利用いただくことが可能です。（メーカー様は五十音順にて記載しております）

※1 CRYPTREC暗号リスト（電子政府推奨暗号リスト）」で定義されている暗号技術を採用しています。

デバイスの書き込みやアップロードするファイルの暗号化を徹底

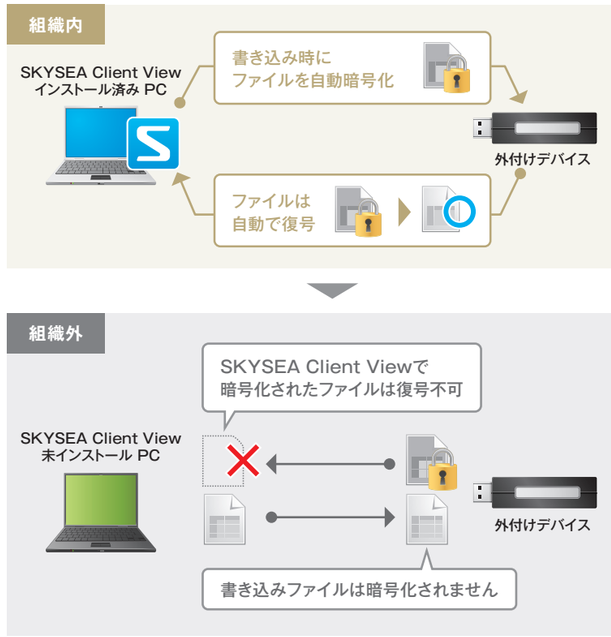
外付けデバイス&ファイル暗号化

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

外付けデバイスに書き込むファイルや、Webアップロードを行うファイルの暗号化を徹底し、万が一の情報漏洩に備えた対策を支援します。※2

紛失･盗難などのリスク対策に、外付けデバイス内のファイルを自動で暗号化※3

外付けデバイスを使って組織内でファイルをやりとりする際に、書き込んだファイルを自動で暗号化します※4。暗号化されたファイルは、組織外のPCでは復号できないため、セキュリティを強化できます。また、暗号化 / 復号は組織内のPC※5接続時に自動で行われるため、利用者は意識することなくデバイスを利用いただけます。



本機能のような暗号化に限らず、データの取り扱いに際しては、ソフトウェアのバグなどがなくてもハードディスクの破損などでデータを損失するリスクがあります。お客様の環境に合わせて、データのバックアップを取るなどの運用を行っていただくことをお勧めします。

※2 CRYPTREC暗号リスト（電子政府推奨暗号リスト）」で定義されている暗号技術を採用しています。
※3 外付けデバイス本体を暗号化するものではございません。
※4 事前に暗号化対象となる外付けデバイスを指定しておく必要があります。
※5 外付けデバイスのドライブを暗号化したPCと同一のマスターサーバーに所属するPCを指します。

暗号化されたファイルのみWebアップロードを許可し、セキュリティを強化

ファイルを保存すると自動的に暗号化が行われる「自動暗号化フォルダ」をPC上に作成し、フォルダ内の暗号化ファイルのみWebアップロードを許可できます。Webメールでファイルを送信する場合などに添付ファイルの暗号化を強制し、安全なデータ共有を支援します。

共有フォルダ上のファイルを自動で暗号化、ファイル流出時の被害を最小限に

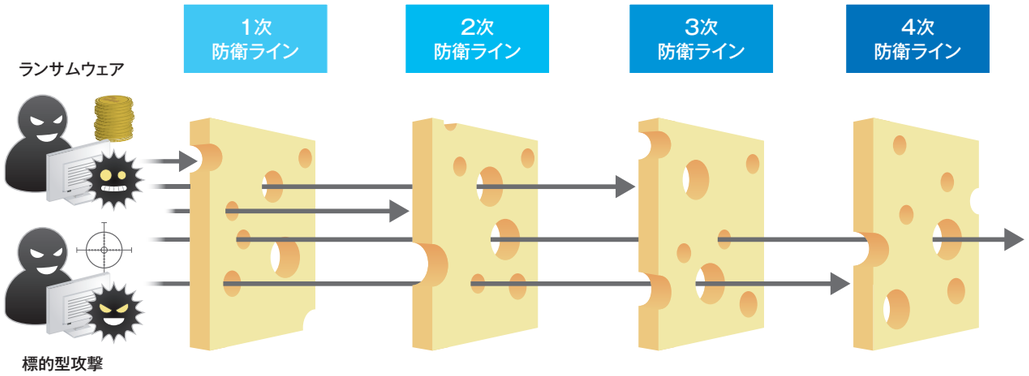
サーバー上の特定の共有フォルダを「自動暗号化フォルダ」として設定。個人情報など重要データをやりとりするフォルダでの暗号化を徹底できます。組織内のPCからフォルダ内のファイルを利用する場合は暗号化 / 復号が自動で行われるため、利用者は意識することなく利用できます。

ITセキュリティ対策強化

標準搭載 Ent/Pro/Tel/S3H　オプション LT/500/ST

猛威を振るうサイバー攻撃に
多層防御による情報漏洩対策を

日々進化し、悪質化が進む標的型攻撃やランサムウェアなどのサイバー攻撃。SKYSEA Client Viewでは、UTM※1製品などと連携してサイバー攻撃の早期把握を支援する機能や、共有フォルダへのアクセスを監視・制御する機能などの各種機能をまとめた「ITセキュリティ対策強化」機能をご用意。階層的な防御でサイバー攻撃のリスク最小化を支援します。



ファイアウォール / IPS / サンドボックスなど / UTM → SKYSEA Client View → エンドポイントセキュリティ（ウイルス対策ソフトウェアなど）

連携
- UTM製品と連携し、サイバー攻撃を早期把握

連携
- エンドポイントセキュリティ製品と連携、ウイルスなどを検知したPCを遮断

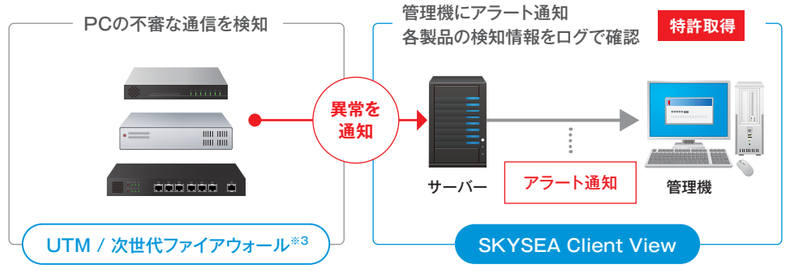
- 共有フォルダへのアクセスを検知・制御
- 社外での通信制限 / 手動でのネットワーク遮断
- アラート情報をsyslog出力し、他社製品で活用
- アプリケーションログで起動元プロセスを特定
- ソフトウェア配布で更新プログラムを強制実行※2
- Microsoft Officeのアップデートをスムーズに

※1 UTM（Unified Threat Management）：統合脅威管理。※2 本機能は、Professional Editionやテレワーク Editionにおいてはオプションとなります。

UTMが検知した異常をアラート通知、マルウェア侵入を早期把握

UTM / 次世代ファイアウォール連携

UTMや次世代ファイアウォールなど他社メーカー様の製品と連携。各製品がマルウェアによる不審な通信を検知した際に出力する「syslog」や「SNMPトラップ」を基に、素早くアラートで通知します。これらの通信が検知されたPCは、組織内ネットワークから自動的に遮断するように設定することもできます。

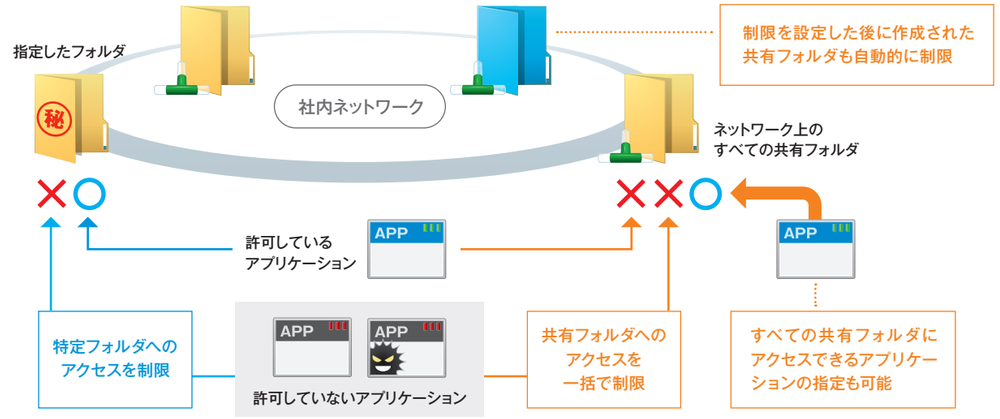


不審な通信の例
- ウイルスなどのマルウェアを拡散しようとする通信
- マルウェア感染などの可能性がある危険なWebサイトへのアクセス
- ボットネット※4やC&Cサーバー※5への通信 など

社内の共有フォルダへのマルウェアのアクセスを抑止

特定フォルダアクセス アラート設定※6

許可したアプリケーション以外による特定フォルダへのアクセスを制限したり、ネットワーク上に作成された共有フォルダへのアクセスを一括で制限できます。クライアントPC上に作成された共有フォルダに対するアクセスも制限でき、管理者が把握できていない共有フォルダからの情報漏洩の防止にお役立ていただけます。



※3 連携する各メーカー様の製品については、P.17をご覧ください。※4 ボットネット：ウイルスなどにより攻撃用プログラム（ボット）を送り込まれ、悪意ある攻撃者に遠隔操作されている多数のPC / サーバー群で構成されたネットワーク。※5 C&C（Command and Control）サーバー：サイバー攻撃において、攻撃者がインターネットからPC上のマルウェアに対して不正コマンドを送信し、PCを遠隔操作するために用いられる指令サーバー。※6「ITセキュリティ対策強化」機能を導入していない場合は、指定したフォルダへのアクセス検知のみ行えます。

社内外でのPCのネットワーク接続を制御

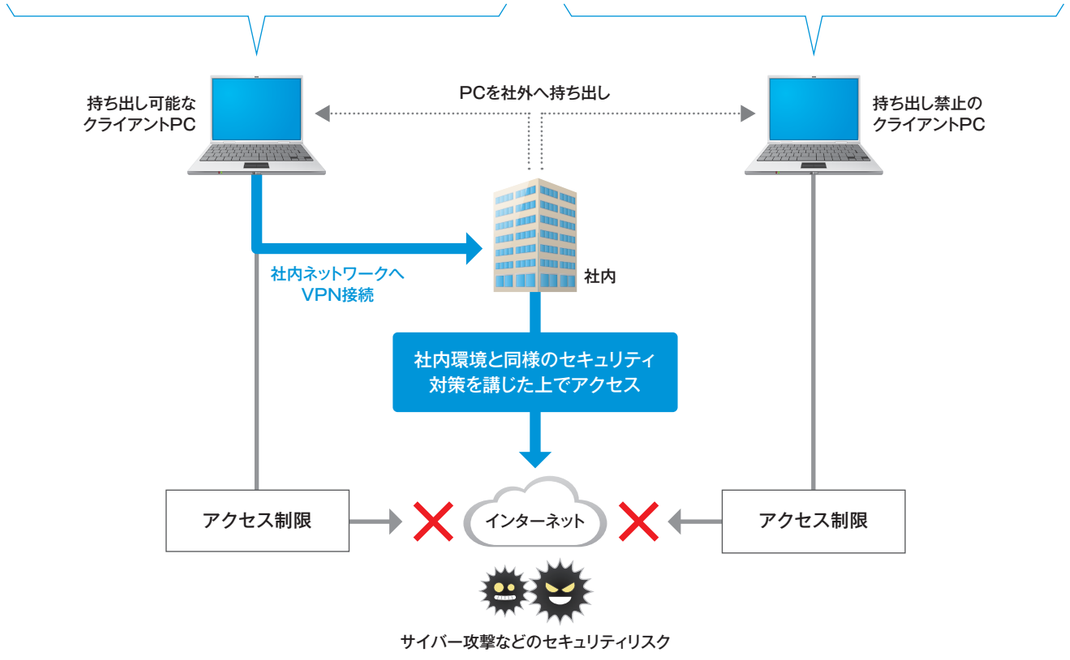
組織外ネットワーク接続（デフォルトゲートウェイ / VPN・プロキシサーバー）

社内ネットワークへ強制的にVPN接続、社外からのインターネット利用をよりセキュアに

公衆無線LANや出張先のホテルの有線LANなどを利用して、社外からインターネットにアクセスする場合は、社内に比べてマルウェア感染などのリスクが高まります。社外からインターネットにアクセスする際に、強制的に社内ネットワークを経由させることで、社内でPCを使用する場合と同様のセキュリティ対策を講じることができます。

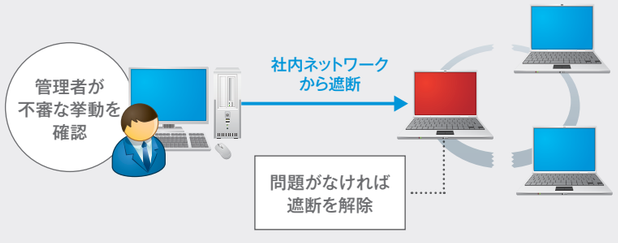
持ち出し禁止のPCに対して、社外でのインターネット利用を制限

PCが事前に指定したネットワーク外に持ち出された際に、自動的にインターネットへのアクセスを制限することができます。例えば、社外への持ち出しを禁止しているPCが万が一持ち出された場合でも、インターネットへのアクセスを制限することで、セキュリティリスクの軽減を支援します。



挙動が不審なPCに対し、管理者が手動でネットワークを遮断

負荷がかかる作業をしていないのにPCの通信速度が遅い、処理速度が遅いといった場合、何らかの問題が発生している可能性があります。そういったときに、まずは管理者が管理コンソール上で対象PCのネットワークを手動で遮断し、安全を確認した上で遮断を解除することができます。

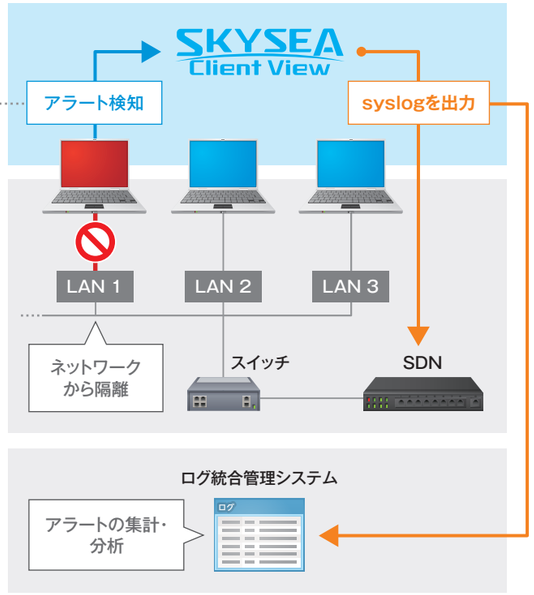


各種ログをsyslog出力し、他社製品で情報漏洩対策などに活用

syslog送信

SKYSEA Client Viewが収集した各種ログをsyslogとして出力し、他社製品で活用できます。例えば、SKYSEA Client Viewが情報漏洩リスクを伴う操作をアラート検知した際、そのログをSDN製品へsyslog出力することで、該当する端末をネットワークから自動で隔離できます。また、ログ統合管理システムがsyslogを基に、ログの集計や分析を行うこともできます。

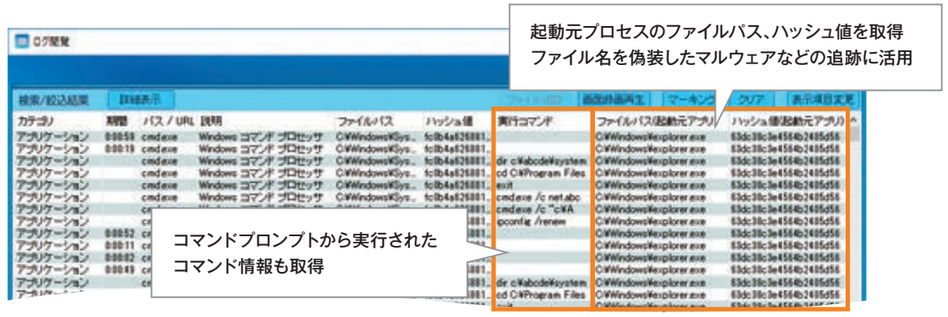
（ UTMやウイルス対策ソフトウェアなどの連携製品が検知したアラートにも対応 ）



起動元プロセスを特定しマルウェアの追跡に活用

アプリケーションログの取得

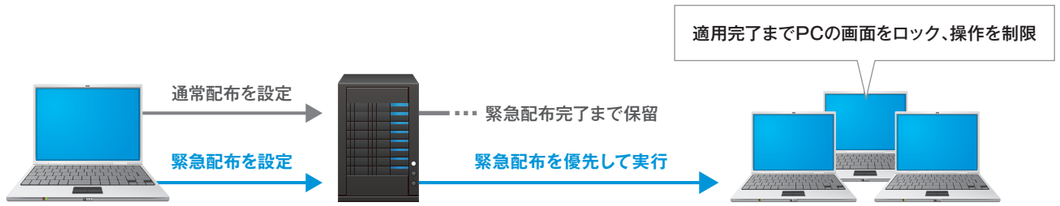
標的型攻撃で使われるマルウェアは、侵入したPC内のアプリケーションを利用して情報を抜き出すことが多いため、起動されたアプリケーションだけでなく、起動元まで特定できなければ、マルウェアによるものなのかを判断できません。アプリケーションログとして起動元プロセスに関する情報（ファイルパス、ハッシュ値など）や、コマンドプロンプトから実行されたコマンドに関する情報を取得することで、マルウェアの追跡にお役立ていただけます。



緊急性の高い更新プログラムを優先的に強制配布

ソフトウェアの緊急配布※1

事前に予約したソフトウェア配布を保留にし、更新プログラムなどを最優先で配布。脆弱性を突いた外部からの攻撃やマルウェア感染のリスクを最小限にするために、ベンダーから提供された更新プログラムを速やかに適用するお手伝いをいたします。

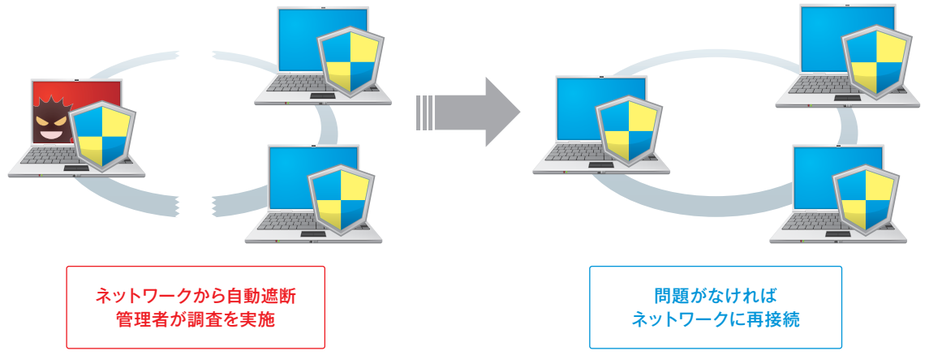


※1 本機能は、Professional Editionやテレワーク Editionにおいてはオプションとなります。

ウイルスを検知したPCを遮断、速やかな調査の実施を支援

検疫ソフトウェアイベントログ監視 / 検疫ソフトウェアレジストリ監視 / 検疫ソフトウェアログファイル監視

ウイルス対策ソフトウェアなどの各種エンドポイントセキュリティ製品と連携し※2、ウイルス感染などの異常を検知したPCをネットワークから自動的に遮断※3。速やかな調査と安全性の確保を支援します。PCに問題がないことを確認できれば、ネットワークへ再接続することも可能です。



特定の通信先のみ接続も可能

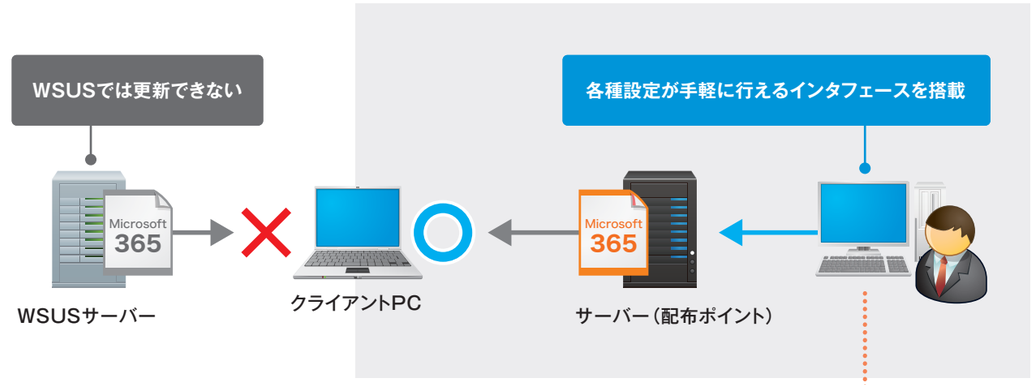
ネットワークから遮断する際に、SKYSEA Client Viewのサーバーなど、特定の通信先との接続のみを維持させることで、ログを活用してウイルスの侵入、感染原因の調査などを行っていただけます。

※2 連携する各メーカー様の製品については、P.17をご覧ください。※3 ネットワークから遮断せず、アラート通知のみ行うように設定することもできます。

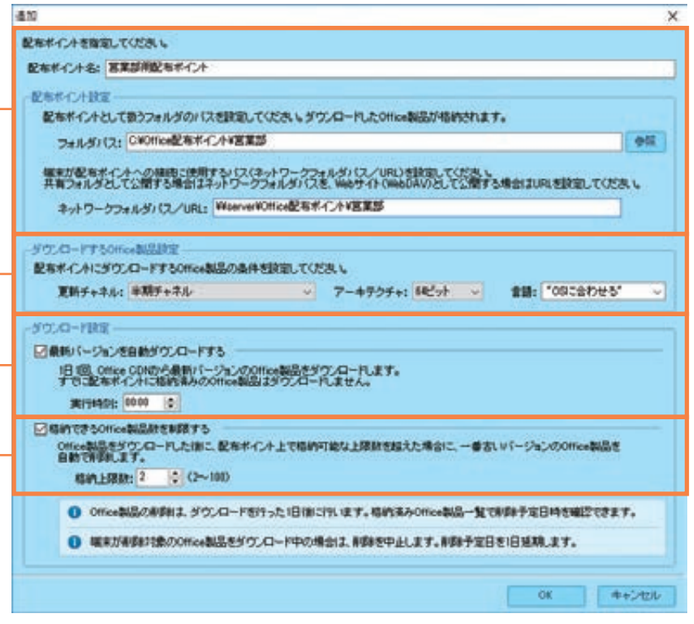
Microsoft Officeのアップデートをよりスムーズに

Microsoft Office更新制御

Microsoft 365やOffice 2019 / 2021 / 2024は、Windows OSと違い、WSUSサーバーからの更新プログラムの配布は行えません。代わりに、「配布ポイント」に指定されたサーバーから配布する方法が用意されていますが、この方法は複雑で設定にある程度のIT知識を要します。SKYSEA Client Viewは、配布に関するこれら設定が手軽に行えるインタフェースを搭載。部署ごとに複数の配布ポイントを設けることで、大規模環境でのアクセス負荷を分散させる運用も可能です。



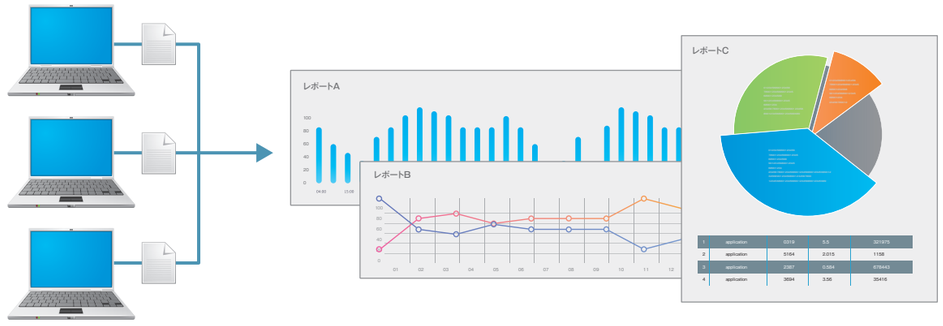
- アクセス負荷の分散のために、部署ごとなどに配布ポイントが指定可能
- ダウンロードする更新プログラムの種類を選択可能
- 最新バージョンの更新プログラムは自動でダウンロード
- 配布ポイントにある古いバージョンの更新プログラムは自動で削除



レポート

日々蓄積されるデータを活用し、IT資産運用の傾向を適切に把握

資産情報やログデータは、トラブルの原因特定や個別の操作の監視だけでなく、具体的な目的に応じてレポートとして集計することで、傾向を把握しながら変化を察知するツールとしても活用できます。各種レポートを分析することで、コスト削減やセキュリティポリシーの改善などにお役立ていただけます。

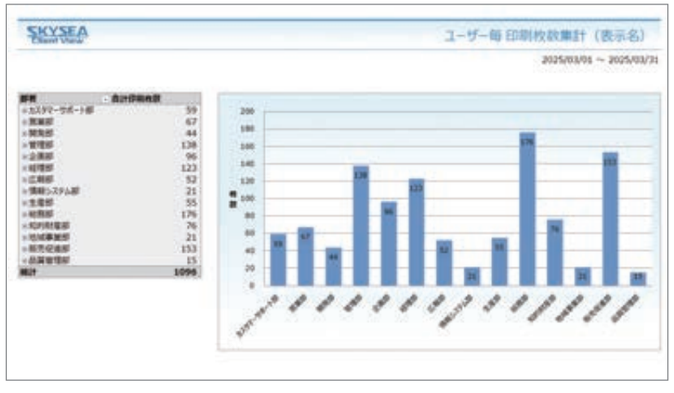


必要なレポートをダウンロードして活用

資産・ログ利活用レポートライブラリ

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST
オプション S1H/S3H

保守契約ユーザー用Webサイトから、必要な情報を含む最適なテンプレートをダウンロードし、レポートに集計。IT資産運用の傾向把握に活用いただけます。



組織のさまざまなニーズに対応する各種レポートをご提供

社外秘、部外秘ファイルなどの出力状況の確認に

ドキュメント別プリント出力比較レポート

ドキュメントごとに、印刷枚数をグラフ表示。「社外秘」など、あらかじめ設定したキーワードを含むドキュメントに絞り込んで集計することも可能です。

長期間利用されていないPCの洗い出しに活用

未稼働端末一覧

1週間、1か月といった期間を指定して稼働していないPCをリストアップ。不要なPCの洗い出し、IT資産の有効活用にお役立ていただけます。

No.	コンピューター名	部署名	前回起動日時
1	SkyPC00001	企画部	2025/03/13
2	SkyPC00002	企画部	2025/03/13
3	SkyPC00003	企画部	2025/03/07
4	SkyPC00004	企画部	2025/03/17
5	SkyPC00005	企画部	2025/03/24
6	SkyPC00006	企画部	2025/03/25
7	SkyPC00007	企画部	2025/03/12
8	SkyPC00008	企画部	2025/03/13
9	SkyPC00009	企画部	2025/03/07
10	SkyPC00010	企画部	2025/03/10
11	SkyPC00011	企画部	2025/03/10
12	SkyPC00012	企画部	2025/03/12
13	SkyPC00013	企画部	2025/03/13
14	SkyPC00014	企画部	2025/03/19
15	SkyPC00015	企画部	2025/03/13

指定した期間内のユーザーの印刷枚数を集計

プリンター印刷状況レポート※1

大量に印刷を行っているユーザー（PC）を確認することで、コスト削減の検討などにお役立ていただけます。

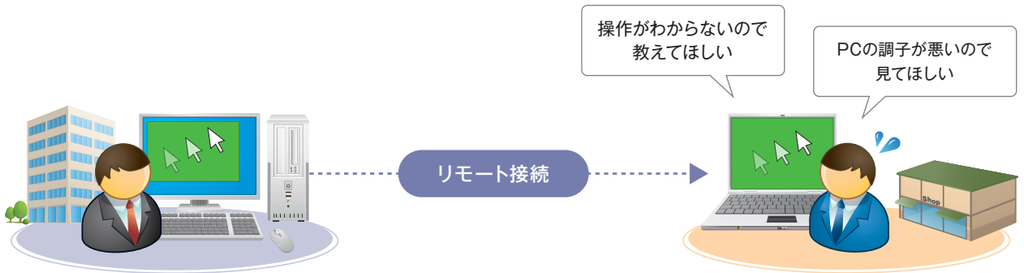
レポート一覧　集計・出力できるレポートの一覧は、SKYSEA Client View Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/product/function/rep/）をご覧ください。

※1 オンプレミス版（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）のみ対応しています。

メンテナンス

離れた拠点のPCをリモート操作、メンテナンスや問い合わせ対応を効率的に

オフィスの各フロアに部署が点在する場合や、事業所が複数存在する場合などに、PCのメンテナンスや問い合わせ対応を行う際、自席の管理機から対象PCをリモート操作でき、作業の効率化にお役立ていただけます。

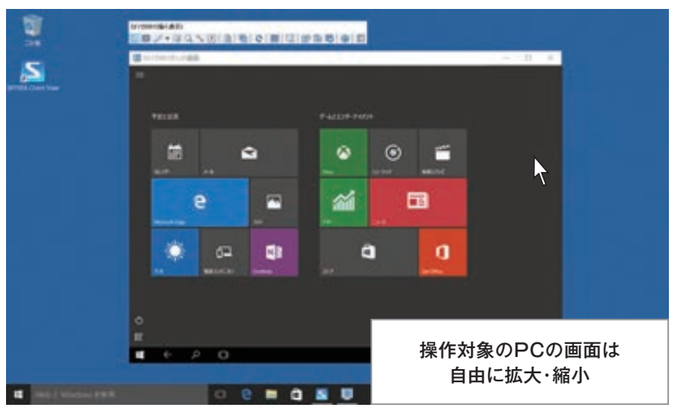


メンテナンス作業に欠かせない、PC間のデータ転送も可能

リモート操作

標準搭載 Ent/Pro/Tel/500/ST/S3H　オプション LT/M1/S1H

管理機のデスクトップにクライアントPCの画面を表示。リモート操作やファイル・テキスト・画像などの転送が行えます。



■ キーボード・マウス転送【関連特許取得】

標準搭載 Ent/Pro/Tel/500/ST/S3H
オプション LT/S1H

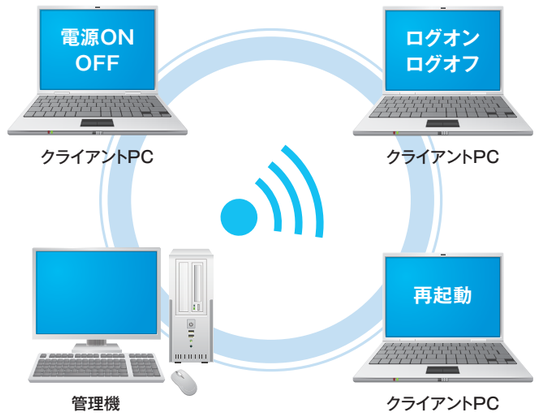
同じ作業を複数のPCで繰り返し行う場合に、管理機のキーボード・マウス操作を各PCで一斉に実行できます。

メンテナンス中の再起動や、電源切り忘れ時の対応に

電源制御

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

管理機から、電源のON / OFFや、ログオン / ログオフ、再起動がリモートで行えます。管理機から各クライアントPCの電源状況を確認した上で、切り忘れ対応に活用したり、メンテナンスで再起動が必要な場合などに役立ちます。



■ PC定期再起動

標準搭載 Ent　オプション※1 Pro/Tel/LT/500/ST

スケジュールを設定することで定期的に自動でPCを再起動させ、ウイルス対策ソフトウェアや、ソフトウェアのアップデート漏れを防止します。

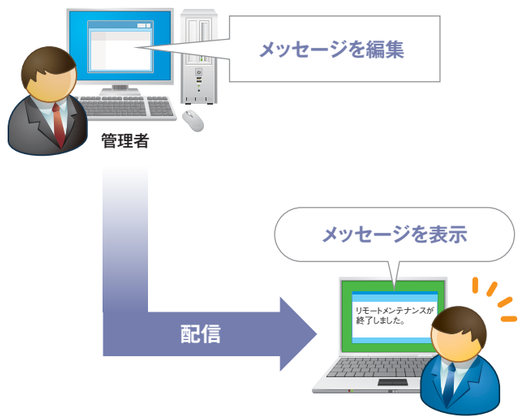
※1「PC定期再起動」は、「ログオフし忘れ防止（P.45）」とセットで購入いただくオプションです。

メンテナンス作業に関する従業員への連絡を効率的に

メッセージ

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

クライアントPCのデスクトップ画面に、メッセージを配信できます。リモート操作によるメンテナンスの開始 / 終了の連絡などに活用いただけます。



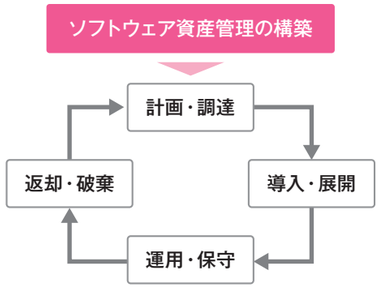
■ メッセージは自由に編集可能

文字色やフォントサイズを自由に変えられるほか、リンクや画像を挿入したり、メッセージの表示位置を指定したりすることも可能です。

ソフトウェア資産管理（SAM）

管理台帳でソフトウェア資産を複合的に管理し、導入・運用などの各フェーズでの業務を支援

「ソフトウェア資産管理（SAM）」に必要な管理台帳を用意し、ソフトウェア資産の適切な管理を支援。ソフトウェアメーカー様による監査への対応など、国際規格（ISO/IEC 19770-1:2006）などに準拠した適切なSAM計画に活用いただけます。



SKYSEA Client View が支援できること

- 資産対象範囲の特定
- 情報収集、調査（管理台帳の整備）
- リリース（配布、インストール）
- ソフトウェア情報（管理台帳）の更新
- ライセンス情報の登録
- ライセンスの割り当て
- 定期的な棚卸
- 廃棄PCのライセンス情報（台帳）の更新
- 不要ソフトウェアの廃棄（アンインストール）

ソフトウェアの導入状況を端末ごとに詳しく管理

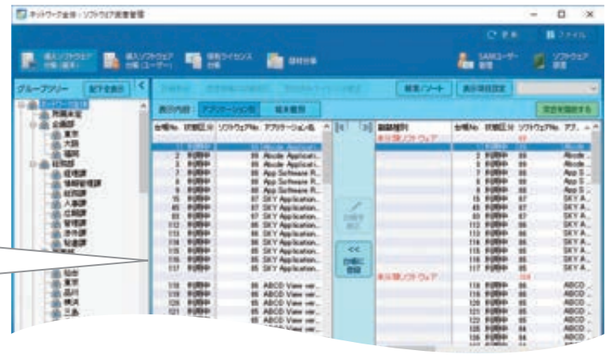
導入ソフトウェア台帳

標準搭載 Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/S1H/S3H

ハードウェア、ソフトウェア、ライセンス（部材）情報をひもづけることで、ソフトウェアがどの端末（ユーザー）でインストールされ、各端末（ユーザー）にどのライセンスが割り当てられているかを記録、管理します。

突合（とつごう）による齟齬（そご）の確認

台帳上の記録と、自動収集されたIT資産情報を突合※1し、齟齬※2を抽出して表示。棚卸などに活用でき、適切なソフトウェアライセンスの割り当てに役立ちます。



※1 突合（とつごう）：SAMにおいて、ソフトウェア利用状況や保有ライセンス数と、台帳の記録を照合すること。※2 齟齬（そご）：SAMにおいて、突合（※1）によって明確になった相違点。

サーバー監査

オプション Ent/Pro/Tel/LT/500/ST

重要データが集まるサーバーのアクセス状況の把握を支援

サーバーには個人情報や社外秘ファイルなど、重要なデータが集約されており、万全の情報漏洩対策が必要です。本機能では、各サーバーのイベントログを集積し、一括管理。権限のないユーザーからのアクセス状況や、データベースの取り扱い状況などの把握にもお役立ていただけます。

複数サーバーのログを1つの管理画面で検索・閲覧

OSログ閲覧

複数サーバーのイベントログをデータサーバーに集約。監査ログと併せて管理できます。操作の種類ごとに条件を絞って検索ができるため、必要なログが見つけやすく、調査がスムーズに行えます。

監査ログとは?

Windowsイベントログの一種で、主にセキュリティに関するログです。管理者が設定した監査ポリシーに従って書き出されます。

管理できるイベントログ種別

- アプリケーション
- セキュリティ
- システム など

管理できる監査ログ種別

▸ 管理者操作
- アカウント操作
- パスワード操作
- グループ操作
- 監査ポリシー操作 など

▸ クライアント操作
- ログオン
- ログオフ など

モバイル機器管理（MDM）

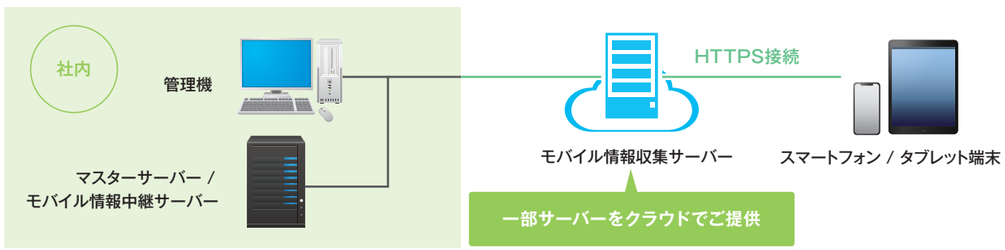
オプション

スマートフォン、タブレット端末のビジネス活用を支援

スマートフォンやタブレット端末※1を安全に運用管理するために、一般的なモバイルデバイスマネジメント（MDM）の一部である資産管理機能をご用意。BYOD※2の今後の普及を考え、またプライバシーにも配慮し、ログ管理機能は搭載しておりません。

クラウドで手軽に利用可能

本機能に必要なモバイル情報収集サーバーの環境をクラウドでご提供。サーバーの調達・構築など導入の手間を軽減できます※4。



MDM Services（A）およびSKYSEA Client View for MDM（iPhone / iPad対応）において、iOS / iPadOSデバイスに対するすべての機能を利用いただくには、各デバイスを監視対象モードに設定する必要があります。監視対象モードには「Apple Business Manager」に登録して設定する方法と、Apple社製のMac端末に各デバイスをUSB接続して「Apple Configurator」より設定する方法があります。

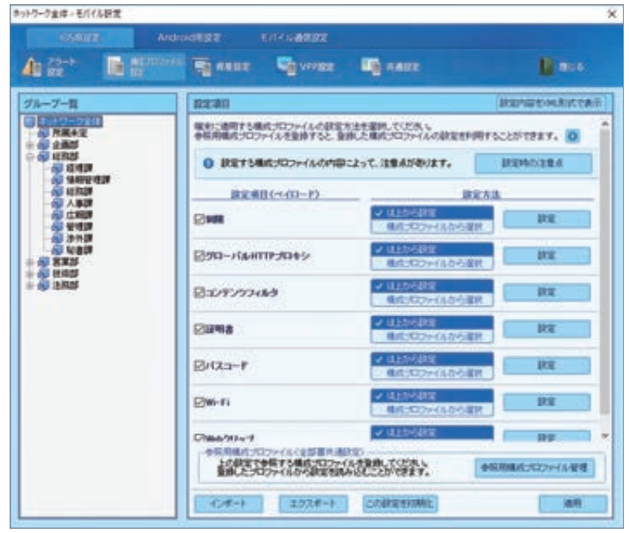
- 監視対象モード設定時には、各デバイスが初期化されます。
- Apple ConfiguratorはWindows端末では利用できません。

※1 対応する機種情報は、SKYSEA Client View Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/ver20/mobile/）をご覧ください。※2 BYOD（Bring Your Own Device）：個人保有のモバイル端末を職場に持ち込み、業務で使用すること。※3 あらかじめ管理機上で設定しておくことで、新規に導入する端末は電源を入れるだけで自動でキッティングを完了させることも可能です。※4「MDM Services（A）/（G）」オプションのサービスとして提供しています。オンプレミス環境で運用いただける「SKYSEA Client View for MDM」オプションもご用意しています。

業務での必要性を考慮し、カメラなどの機能を制限

セキュリティ管理※5

組織での使用ルールを考慮し、日々の業務で必要がない、情報漏洩のリスクがある機能などを、あらかじめ使用禁止に設定できます。



制限できる機能例

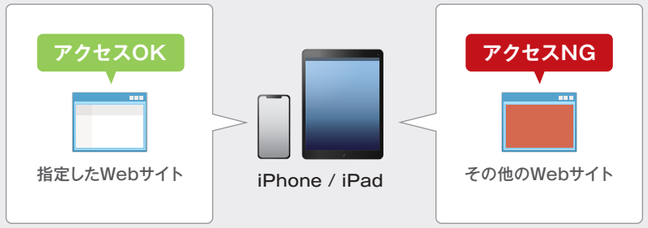
- カメラ
- スクリーンショット
- オンラインストレージ
- メディア（MicroSDカード等）の利用
- Bluetooth
- テザリング
- ショートメッセージ
- アプリケーション内課金
- マルチプレーヤーゲーム

など

Webフィルタリングの適用

iPhone / iPadのみ対応

業務に必要ないWebサイトの閲覧を一括で禁止できます。指定したWebサイトのみ閲覧を許可したり、他社のWebフィルタリング製品との連携も可能です。



パスコードポリシーの設定

パスコードの最小文字数や必要な文字種別、有効期限や入力を失敗できる回数など、パスコードに関するポリシーを設定できます。

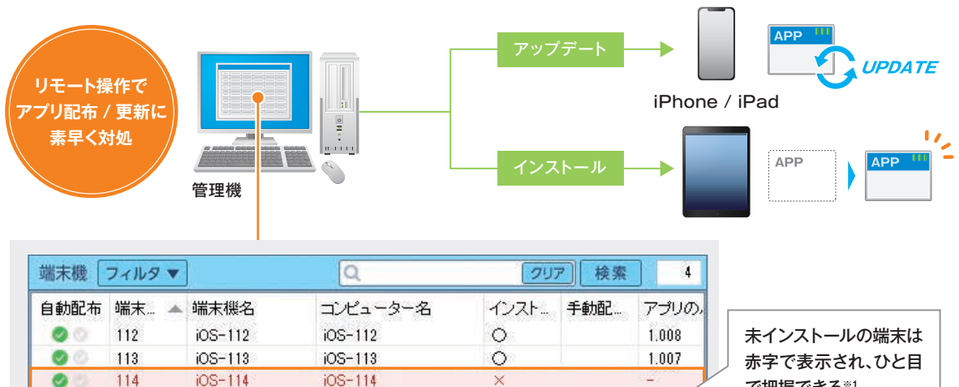
※5 Windows端末に対して行えるセキュリティ管理でも、スマートフォン / タブレット端末では行えないものがあります。

業務に必要なアプリの導入を効率化し、セキュアな運用を支援

アプリ配布

iPhone / iPadのみ対応

指定したアプリをモバイル端末にリモートで配布・インストールしたり、アップデートを実行できます。各端末のインストール状況は一覧で表示されるため、最新バージョンのアプリが導入されていない端末の把握と迅速な対処が可能です。一部の端末のみ試験的にアップデートし、動作に問題がなければすべての端末に適用するなど、柔軟かつセキュアな運用をサポートします。



※1 最新バージョンにアップデートされていない端末を絞り込んで一覧表示することも可能です。

アプリのインストール / アンインストールを制限

業務に必要のないアプリのインストールを制限したり、マルウェア対策など全社的に導入必須としているアプリのアンインストールを制限できます。

アプリカタログ

iPhone / iPadのみ対応

利用を許可するアプリをあらかじめ「アプリカタログ」に登録しておくことで、端末側が任意のタイミングでインストールやアップデートを自由に実行できるようになります。また、アプリの導入作業を端末使用者に委ねられるため、セキュリティを確保しつつ管理者の運用負担を軽減できます。

紛失盗難に備えて、リモートで画面ロック・データ削除

モバイル端末制御

モバイル端末に対して、リモートで画面ロックやデータ削除が行えます。紛失・盗難に遭った際の、第三者の不正利用や機密データの流出を防ぎます。

紛失モードの一括制御に対応

紛失した端末を保護するための「紛失モード」をSKYSEA Client Viewで一括制御できます。紛失モードによるロックやメッセージ表示で、セキュリティの強化と紛失時の対応をサポートします。

より強固なロック

紛失モードを無効にしない限りパスコードなどでも解除できない、より強固なロックを実行可能

メッセージ表示

メッセージを設定して紛失端末の画面に表示、拾得者に連絡を促したい場合などに活用

サウンド再生

音を鳴らして周囲に気づかせたり、捜索に活用

iPhone / iPadのみ対応

モバイル端末位置情報管理

端末の位置情報を地図上で確認できます。紛失してしまった際の捜索の手掛かりなどにお役立ていただけます。

オプションのご紹介

SKYCEB

MDM+クラウド電話帳でスマートに管理

企業・組織で電話帳を安全に共有できる「SKYCEB（スカイセブ）」登場!

「モバイル機器管理（MDM）」機能をご利用の方に向けて、クラウド電話帳アプリ「SKYCEB」をご用意。「MDM Services（A）」もしくは「MDM Services（G）」のオプションとしてご購入いただけます。モバイル端末とともに、従業員の連絡先などの情報も一括でスマートに管理・活用いただけます。

※記載の電話帳は架空のものであり、実在の人物や団体などとは関係ありません。

機能一覧

Win＝Windows 端末　Mac＝Mac 端末　Lin＝Linux 端末　iOS＝iPhone / iPad　And＝Android　Ent＝Enterprise Edition
Pro＝Professional Edition　Tel＝テレワーク Edition　LT＝Light Edition　500＝500 Clients Pack　ST＝Standard Edition
M1=M1 Cloud Edition　S1H=S1H Cloud Edition※1※2　S3H=S3H Cloud Edition※1※2　OP=オプション

資産管理 ｜ 収集できる資産情報については、P.80をご覧ください。			対応OS			オンプレミス							クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
資産情報収集	収集方法	● 資産情報インポート	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●※3	●	●
		● スタンドアロン端末資産情報収集　● Active Directoryからの情報取得 ● アンケート	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
ネットワーク機器情報収集	収集方法	● IPアドレス指定によるネットワーク機器情報収集（手動、または定期自動収集） ● NetBIOS検索によるネットワーク機器情報収集（手動での収集）	○	○	○	●	●	●	●	●	●	—	●※5	●※5
		● 収集した機器情報を資産情報として登録										—	●	●
		● 不許可端末情報収集（ネットワーク接続時に自動収集） ● MIB情報更新（定期的に自動更新、または手動更新）										—	●※6	●※6
	自動判別できる機器種別	・機器（Windows）　・サーバー（Windows AD Server） ・機器（非Windows）　・プリンター ・機器（Mac）　・複合機 ・機器（Linux）　・HUB ・サーバー（Windows Server）										—	●※5	●※5
	手動設定できる機器種別	・ネットワーク機器　・ソフトウェアインストールメディア ・機器（Intel vPro テクノロジー対応）　・プロジェクター ・サーバー（非Windows Server）　・IP電話 ・ルーター　・CDメディア ・Firewall　・DVDメディア ・周辺機器　・Blu-rayメディア ・その他	○	—	—							—	●	●
資産情報管理	ハードウェア一覧	● ハードウェア情報の一覧表示（※7※8）（ネットワーク機器情報、レジストリ情報を含む）　● 資産情報の検索 / 検索条件保存 ● 資産情報の表示設定　● CSVファイル入力（インポート） ● 資産情報の詳細表示 / 編集　● CSVファイル出力（エクスポート）	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●※3	●	●
		● 資産情報の検索グループ作成　● 重複条件設定										—	●	●
		● MIB情報を手動で更新										—	●※5	●※5
		● ネットワーク機器の死活監視設定　● MIB情報更新設定										—	●※6	●※6
		● BitLockerやその他サードパーティ製品によるドライブ暗号化情報を収集 / 確認 / 出力	○	—	—	●	●	●	●	●	●	●※9	●	●
	資産変更状況	● 変更状況の表示設定　● CSVファイル出力（エクスポート） ● 絞り込み表示設定										—	●	●
	アプリケーション一覧	● ウイルス対策ソフトウェアインストール状況　● OSインストール状況 ● アプリケーションインストール状況　● CSVファイル出力（エクスポート）	○	○	○							●※3	●	●
		● Officeインストール状況	○	○	—							●	●	●
		● Windows ストアアプリインストール状況　● Windows更新プログラムインストール状況	○	—	—							●	●	●
		● Office展開 / 更新設定適用状況　● 不許可ファイル検出状況 ● 実行ファイルインストール状況										—	●	●
資産情報運用	省電力支援	● 省電力設定状況表示　● 電源切り忘れプリンター検索 ● 省電力設定を強制配布	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	定期電源ON	● 電源ONスケジュールの設定（部署ごと、または端末機ごと） ● 電源ONスケジュール除外設定										—	●※6	●※6
	定期電源OFF	● 電源OFFスケジュールの設定（部署ごと、または端末機ごと）										—	●	●
	ソフトウェア配布・インストール（※10）	● ソフトウェア配布										●※11	●※11	●※11
		● ソフトウェア配布（即時配布）										—	●※5※11	●※5※11
		● キャッシュ配布　● 実行ファイル / Windows更新プログラム配布 ● 配布したソフトウェアのインストール状況確認										●	●	●
		● ソフトウェア配布スケジュール設定　● ソフトウェア配布中継 ● 配布するソフトウェアの分類登録　● ソフトウェア配布パック ● ソフトウェア配布自動実行設定　● 端末機側での配布ソフトウェア優先実行 ● ソフトウェア配布スクリプト自動生成ツール										—	●	●
		● 配布 / 実行状況の確認 ● 実行ファイル / Windows更新プログラム配布（即時配布）										—	●※5	●※5
		● マルチキャスト配布 ● キャッシュ配布（キャッシュ端末検索期間中のダウンロード開始） ● 配布 / 実行前後の電源ON / OFF / スリープ状態の切り替え										—	●※6	●※6
	Windows更新	● Windows更新プログラム配布実行 ● Windows更新プログラム配布状況の確認										—	●	●
		● Windows更新プログラム配布実行（即時配布）										—	●※5	●※5
	Intel vPro テクノロジー対応	● 電源制御（強制シャットダウン / 強制再起動 / 無線LANでの電源ON） ● ブルースクリーン状態のリモート操作 ● リモート操作中のBIOS設定										—	●※5	●※5

資産管理 ｜ 収集できる資産情報については、P.80をご覧ください。			対応OS			オンプレミス							クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
資産情報運用	その他	● Webブラウザ上での資産情報閲覧	○	—	—	●	●	●	●	●	●	●	—	—
		● ダッシュボード上での資産情報閲覧				※12	※12	※12	※12	※12	※12	●※13	●	●
		● 資産情報の自動定期バックアップ	○	○	○							—	—	—
		● 部署インポート　● IPアドレスの使用状況管理 ● 端末機振り分け　● 廃棄済み端末機の資産情報を個別管理 ● 端末機No.の重複検知				●	●	●	●	●	●	—	●	●
		● インターネット経由での資産情報収集・管理	○	○	—							●	●	●

ログ管理※14 ｜ 収集できるログについては、P.82をご覧ください。			対応OS			オンプレミス							クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ログ収集	収集方法	● 時間指定ログ収集　● ネットワーク接続端末ログ収集 ● リアルタイムログ収集	○	○	—							●	●	●
		● スタンドアロン端末機ログ収集	○	—	—							—	●	●
	ログ閲覧（ビューアー）	● 検索　● CSVファイル出力（エクスポート） ● 検索条件保存　● ログ情報の詳細表示	○	○	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		● ファイル追跡　● 全データサーバーからログを検索 ● 操作ログ追跡（※15）　● 古いログから検索										—	●	●
ログデータ保存		● ログデータのバックアップ	○	○	—	●	●	●	●	●	●	●※16	●※17	●※17
		● バックアップデータ閲覧　● ログデータ保存先を端末機ごとに設定する ● バックアップ時のデータ圧縮 ● 保存済みのログ、バックアップログを圧縮　● ログデータの再回収										—	●	●
		● ログデータの自動定期バックアップ										—	●※17	●※17
		● 削除された端末機のログを閲覧（※18）　● ログデータを圧縮して保存										●	●	●
画面操作録画	録画方法	● スケジュール録画　● 検知録画　● ワンタッチ録画	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
	再生・保存	● 順再生 / 逆再生　● マルチディスプレイ録画データの保存・再生（最大4画面まで） ● 等速・2倍速・4倍速 ● 録画画像の切り出し / 静止画保存　● マイナンバー取扱端末の録画データを個別に保存 ● 録画データとログデータの個別保存、保存期間を別々に設定　● スタンドアロン端末機の録画データ収集													
	検索	● テキストログとの連動												
送信メールログ	送信メールログ	● 送信メール保存　● 添付ファイル保存	○	○	—	●	OP	OP	OP	OP	●	—	—	—
	一覧表示	● メール件名 / 送信者アドレス / 受信者アドレス / 添付ファイル有無 / メール本文												
	注意表示	● 管理機の画面にメッセージを表示（ポップアップ通知） ● 許可ドメイン以外への送信を検知 ● 管理者へのメール通知												
	設定	● メールサイズにより添付ファイルの保存、破棄を選択	○	○	—									
	検索	● 送信メールログ本文検索												
その他		● Web利用状況	○	○	—							—※6	●※6	●※6
		● インターネット経由でのログ収集・管理				●	●	●	●	●	●	●	●	●
		● 残業管理　● 端末機の電源状態を操作し、ログを強制アップロード ● Web / アプリケーションアカウント利用状況										—	●	●
		● 残業管理（残業申請Web承認（※19））										—	—	—
		● Webブラウザ上でのログ閲覧	○	—	—	●※20	●※20	●※20	●※20	●※20	●※20	—	—	—
		● ダッシュボード上でのアラート情報閲覧（カレンダー形式）										—	●	●
		● ダッシュボード上でのアラート情報閲覧				—	—	—	—	—	—	●※20	—	—
		● Log Analyticsワークスペース連携	○	○	—	●	●	●	●	●	●	—	—	—

セキュリティ管理 ｜ 設定できるアラート（注意表示）項目については、P.82をご覧ください。			対応OS			オンプレミス							クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
注意表示通知	通知方法	● 管理機の画面にメッセージを表示（ポップアップ通知） ● キーワードごとにアラート通知のON / OFFを設定 ● アラート端末の自動解除設定	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
		● 端末機の画面にメッセージを表示（ポップアップ通知）（※14※21）	○	○	—							●	●	●
		● メールによる通知（※14※21） ● 注意表示ログ出力（※14※21） ● 一定時間内のアラート / メールの集約（※14※21） ● アラート優先順位別表示設定										—	●	●
注意表示設定	設定	● 端末機 / ユーザーごとの個別設定（※14※22） ● グループごとの設定（※14※22） ● 設定内容の一覧表示	○	○	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
		● アラート項目別優先順位設定　● アラート優先順位別表示設定	○	○	○									
		● アラート項目別定期検知設定　● 検知時に実行するファイル（コマンド）の設定 ● スタンドアロン端末機の設定	○	—	—									

セキュリティ管理 | 設定できるアラート（注意表示）項目については、P.82をご覧ください。

			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
不許可端末検知 / 遮断	注意表示	● 不許可端末を一覧表示 ● 管理者へのメール通知 ● 管理機の画面にメッセージを表示（ポップアップ通知）	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	● ※6	● ※6
	遮断（※23）	● 検知した不許可端末をネットワークから遮断				●	●	OP	OP	OP	●	—	OP ※6	● ※6
WSUS連携		● Windows Updateの実行スケジュール設定（部署ごと、または端末機ごと） ● WSUSクライアント設定	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
Windows 10以降更新制御		● 機能更新プログラムの自動適用を制御 ● 通信カード（モデム）/ Wi-Fi接続 / テザリングによるWindows Update 制御設定	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
更新プログラム配布管理		● Windows更新情報ファイルの取得 ● PC全台への自動配布・適用 ● 指定したPCへの手動配布・適用	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	—	—
端末機異常通知		● CPU / HDD / SSD / バッテリー情報収集設定 ● CPU / HDD / SSD / バッテリー稼働状態表示 ● 異常検知設定 ● 異常検知の通知設定 ● 異常検知履歴表示 ● 異常端末表示（異常端末のデスクトップ画像のみ表示）	○	—	—	●	●	OP	OP	OP	OP	—	—	●
CPE製品名管理		● CPE製品名の登録 ● CPE製品名ごとの脆弱性情報の確認	○	○	○	●	●	●	●	●	●	—	●	●
紛失端末制御		● 画面ロック ● 特定フォルダ削除 ● 位置情報表示	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
組織内マルウェア情報（EDRプラスパック）		● 検知ファイルの隔離・収集 ● 他端末の感染有無の調査 ● 隔離ファイルの復旧	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	OP	OP
		● 他端末の感染有無の調査（他端末への即時反映）										—	OP ※6	OP ※6
ブラウザ環境分離		● ダウンロードしたファイルの保存先設定 ● ダウンロードしたファイルの無害化設定 ● アクセス可能なファイルサーバー設定 ● クリップボード共有設定 ● 印刷設定 ● プロファイル設定 ● 識別用マーカー設定 ● Webアクセスログ取得 ● Webサイトに応じて起動するブラウザの自動切替設定 ● 環境分離ブラウザ上の日本語入力システム（ATOK）利用設定	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
ファイル受渡しシステム		● 利用ユーザー設定 ● 利用ネットワーク設定 ● 申請・承認ワークフローシステムからのファイル登録	○	○	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
		● システムへの自動ログイン ● システムHDD空き容量不足の通知	○	—	—									
その他		● SKYSEA Client Viewの通信セキュリティ設定（電子証明書発行 / 登録） ● Windowsファイアウォールの例外設定 ● SKYSEA Client Viewの通信受け付けネットワーク設定 ● SKYSEA Client Viewの不正停止監視	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
		● PC環境を自動で診断	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
		● ワンタイムパスワードを利用した二要素認証	○	○ ※24	○ ※24	●	●	●	●	●	●	●	●	●

デバイス管理※14※25 | 設定できるアラート（注意表示）項目については、P.82をご覧ください。

			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
デバイス管理	登録・管理・棚卸	● USBデバイスの台帳自動登録 ● USBデバイス台帳管理	○	○	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		● USBデバイス棚卸										—	●	●
		● USBデバイスファイル確認（※25※26） ● スタンドアロン端末への管理情報設定 ● 接続時のウイルスチェック	○	—	—							—	●	●
		● Webブラウザ上での情報閲覧	○	—	—	● ※20	● ※20	● ※20	● ※20	● ※20	● ※20	●	—	—
	管理者設定	● USBデバイス登録設定 ● USBデバイス管理者承認	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	使用制限（※14）	● 部署別使用制限 ● デバイス種別制御	○	○	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		● USBデバイスの複数部署管理設定 ● ユーザー / 権限グループ / 端末機別使用制限										—	●	●
		● USBデバイスのパスワード設定解除検知 ● 使用制限の一時解除	○	—	—							—	●	●
	PCログオン認証	● USBメモリによるコンピューター使用制限										—	●	●
メディア管理（※27）	登録・管理・棚卸	● メディア棚卸 ● メディアの台帳登録（※28） ● メディア台帳管理 ● スタンドアロン端末への管理情報設定 ● 接続時のウイルスチェック	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
		● Webブラウザ上での情報閲覧（※20）										—	—	—
	管理者設定	● メディア登録設定										—	●	●
	使用制限	● 部署別使用制限 ● ユーザー / 権限グループ / 端末機別使用制限 ● メディア種別制御										—	●	●
申請・承認ワークフローシステム		● デバイス利用申請（管理デバイス）	○	○	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
		● デバイス利用申請（非管理デバイス） ● ファイル持ち出し申請（デバイス / フォルダ）（※29）	○	—	—									
取り扱いファイル暗号化		● ファイルの暗号化、読み取り専用デバイス / 光学メディアへの書き込み ● ファイルの復号	○	—	—	●	●	OP	OP	OP	OP	—	—	●
外付けデバイス暗号化（※30）		● デバイス内のデータの暗号化 / 復号 ● 特定フォルダ内のデータの暗号化 / 復号 / 一括復号	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—

ITセキュリティ対策強化 | 設定できるアラート（注意表示）項目については、P.82をご覧ください。

				対応OS			オンプレミス						クラウド		
				Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
セキュリティ管理		● 端末機ごとに手動でネットワーク遮断		○	—	—							—	—	● ※5
		● 各種操作ログのsyslog出力		○	○ ※31	○ ※31							—	—	● ※6
	Microsoft Office更新制御	● 配布ポイントの管理 ● Microsoft Officeの更新（アップデート）設定の適用 ● Microsoft Officeの展開（インストール）設定		○	—	—	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
		● 配布ポイントの管理（管理機からの即時ダウンロード）											—	—	● ※5
資産管理	資産情報運用	ソフトウェア配布・インストール（※10）	● ソフトウェアの緊急配布	○	—	—	●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	●
			● ソフトウェアの緊急配布（即時反映）										—	—	● ※5

レポート※32

		対応OS			オンプレミス						クラウド		
		Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ログ解析レポート	● ユーザー作業状況 ・ユーザー別作業時間解析 ・部署別作業時間解析 ● ファイルサーバーアクセス解析 ・時間帯別推移 ・端末別比較 ・ファイル名別比較 ● セキュリティ ・端末別アラート比較 ・日別アラート件数推移	○	—	—									
	● 端末機稼働状況 ・稼働時間比較 ・時間帯別使用状況解析 ・日別稼働台数推移 ・未稼働端末一覧 ・端末別デバイス書き込み比較 ● プリント出力解析 ・ドキュメント別比較 ・端末別比較 ・プリンター別比較 ・IPアドレス別比較 ● アプリケーション解析 ・端末別比較 ・日別比較 ● Webアクセス解析 ・時間帯別推移 ・端末別比較 ・Web別利用時間推移	○	○	—	●	●	●	●	●	●	—	OP ※6	OP ※6
資産レポート	● ライセンス利用状況 ● 不許可アプリケーションインストール状況 ● 不許可アプリケーションインストール状況（Windows ストアアプリ） ● 必須アプリケーション未インストール状況	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	OP ※6	OP ※6
	● 端末利用状況	○	○	○									
PC活用状況分析	● レポート閲覧 ・PC操作率 ・PC操作時間	○ ※33	—	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	● レポート出力 ・PC操作率 ・PC操作時間	○	○	—									
その他	● 資産・ログ利活用レポートライブラリ（※34）	○	○	—	●	●	●	●	●	●	—	OP ※6 ※35	OP ※6 ※35

メンテナンス※14

		対応OS			オンプレミス						クラウド		
		Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
リモート操作	● リモート操作 ● リモート操作中のカーテン機能 ● 全画面表示 ● 全画面表示（拡大表示） ● 縮小表示（ズーム 0～100%） ● 等倍表示（手動スクロール） ● 画面確認・リモート操作開始時、端末機側に許可を要求 ● リモート操作時の画面転送設定（※36） ● 端末機画面を管理機で表示 ● マルチディスプレイ時の操作画面の切り替え	○	○	—	●	●	●	OP	●	●	OP ※37	OP ※38	● ※38
	● 複数同時リモート接続 ● 操作対象の端末機上に、操作中である旨のメッセージを表示 ● 記号入力ソフトウェアキーボード ● 等倍表示（自動スクロール）										—	OP ※38	● ※38
	● リモート操作中のファイル転送 ● リモート操作中のクリップボード連携	○	—	—	●	●	●	OP	●	●	OP	OP ※38	● ※38
	● 管理機画面を端末機で表示										—	OP ※5	● ※5
	● 特定アプリケーションの画面をマスクして表示 ● 端末機側のデスクトップへ描画 ● ミラードライバー設定										—	OP ※38	● ※38
	● リモート操作時の自動画面録画（※39）										—	—	—
	● 複数端末機画面を管理機で巡回表示				●	●	●	●	●	●	—	● ※5	● ※5
	● リモート操作（インターネット経由）				OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
キーボード・マウス転送	● 複数端末機を一斉操作 ● 一斉操作 / 単体操作の切り替え ● 複数端末機のウィンドウ画面をセンタリング / 左上にそろえる ● 複数端末機のウィンドウ画面を代表画面にそろえる ● 操作中の端末機ロック	○	—	—	●	●	●	OP	●	●	—	OP ※5	● ※5
端末機制御	● アンケート配信 ● メッセージ配信 ● クライアントPC環境保護	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	● 電源制御（電源ON・OFF / ログオン / ログオフ / 再起動） ● アンケート配信（即時配信） ● メッセージ配信（即時配信） ● 資料配布 ● 実行ファイルの配布と実行 ● マクロ実行										—	● ※5	● ※5
	● 電源ON・OFFスケジュール設定										—	● ※6	● ※6
	● 電源制御（定期再起動）				●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
	● クライアントPCドライブ保護 ● ディスクメンテナンス ● ディスクイメージ配信	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—

ソフトウェア資産管理（SAM）

			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ソフトウェア資産管理（SAM）	運用ルール策定	● ソフトウェア資産管理台帳 ● ソフトウェア情報登録支援 ● 管理対象ソフトウェアの策定	○	○	○	●	●	●	●	●	●	–	●	●
	ライセンスの記録・管理	● 保有ライセンスの記録・割り当て ● ライセンス部材の記録 ● 台帳と実際のライセンス利用状況を照合（突合） ● 突合を自動で実行（※40）												
	台帳の更新	● 台帳更新履歴の保存・閲覧												
	登録可能なライセンス形態	● 対応ライセンス種別 ・パッケージライセンス ・プリインストール ・ユーザー固定ライセンス ・プロセッサライセンス ・サーバーライセンス ・同時接続ライセンス ・監視対象マシン数ライセンス ・サイトライセンス ・規模ライセンス ● ライセンスに付帯される契約・権利 ・アップグレード版 ・ダウングレード使用権 ・重複インストール権 ・使用期限契約ライセンス ・アップグレード使用権 ・セカンドライセンス												
申請・承認ワークフローシステム		● ソフトウェア利用申請 ● 利用中ソフトウェア移動申請 ● 利用中ソフトウェア廃棄申請 ● コンピューター移動申請 ● コンピューター廃棄申請 ● 管理ソフトウェア追加申請 ● ファイル持ち出し申請（Webダウンロード） ● 任意定義申請	○	○	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	–	–	–

サーバー監査 ｜ 収集できるログについては、P.82をご覧ください。

			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
アクセスレポート	サーバーアクセス状況	● サーバー別アクセス比較 ● フォルダ別アクセス比較 ● ファイル別アクセス比較 ● ユーザー別アクセス一覧 ● 端末別アクセス一覧 ● 時間帯別アクセスグラフ	○	–	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	–	–	–
OSログ閲覧	サーバー監査ログ閲覧 / Windowsイベントログ閲覧	● イベントログ蓄積 ● イベントログバックアップリストア ● 取得対象イベントログ設定	○	–	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	–	–	–
		● 監査対象サーバーごとに条件を指定してアラート検知	○	–	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	–	–	–

モバイル機器管理（MDM）※41 ｜ 収集できる資産情報については、P.81をご覧ください。

			対応OS		オンプレミス							クラウド		
			iOS	And	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST		M1	S1H	S3H
セキュリティ管理	制限（機能）	● カメラの使用 ● スクリーンショットと画面収録 ● AirDrop ● iMessage ● Apple Music ● ラジオ ● デバイスロック中の音声ダイヤル ● Siri / Siriの検索候補 ● Apple Books ● アプリケーションのインストール / 削除 ● システムアプリケーションの削除 ● App Clip ● アプリケーション内課金 ● 購入時に常にiTunes Storeパスワードを要求 ● iCloud（バックアップ / 書類とデータ / キーチェーン / 写真） ● 管理対象アプリケーションのiCloudへのデータ保存 ● エンタープライズブックのバックアップ / メモとハイライトの同期 ● 共有アルバム ● マイフォトストリーム ● ローミング中の自動同期 ● 「ファイル」アプリケーションのUSBドライブ / ネットワークドライブへのアクセス ● 暗号化バックアップの強制 ● アプリケーションからのトラッキング要求 ● Appleによるパーソナライズされた広告の配信 ● すべてのコンテンツと設定を消去 ● 信頼されていないTLS証明書の受け入れ ● 証明書信頼設定の自動アップデート ● 新しいエンタープライズアプリケーション作成者の信頼 ● 構成プロファイルのインストール ● VPN構成の追加 ● 日付と時刻の強制的な自動設定 ● 「クラスルーム」のプロンプトなしでの、アプリケーションの制限とデバイスのロック / 自動的に参加 ● 「クラスルーム」の管理対象外クラスを退席するときに教師の許可を要求 ● Wi-Fiの電源を強制的にオン ● アカウント設定の変更 ● Bluetooth設定の変更 ● モバイルデータ通信アプリケーション設定の変更 ● モバイルデータ通信プラン設定の変更 ● eSIM設定の変更 ● デバイス名の変更 ● 通知設定の変更 ● パスコードの変更 ● Touch IDの指紋 / Face IDの顔の変更 ● スクリーンタイム ● 壁紙の変更 ● インターネット共有設定の変更 ● 友達を探す / デバイスを探す ● デバイスロック中のUSBアクセサリの接続 ● Configurator以外のホストとのペアリング ● ペアリングが解除されたデバイスのリカバリモードへの移行 ● 管理対象外出力先で管理対象ソースからの書類 ● 管理対象出力先で管理対象外ソースからの書類 ● AirDropを管理対象外の出力先とみなす ● Handoff ● Appleへの診断情報と使用状況データの送信 ● Touch ID / Face IDによるデバイスロック解除 ● パスワードの自動入力 ● 自動入力の前にTouch ID / Face ID認証を要求 ● Apple Watchによるロック解除 / 手首検出 / ペアリング ● 最初のAirPlayペアリングでのパスコード要求 ● Wi-Fiペイロードによってインストールされたwi-Fiネットワークのみに接続 ● 近くのデバイスの新規設定 ● 近接通信に基づくパスワード共有要求 ● パスワードの共有	○	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP

モバイル機器管理（MDM）※41 ｜ 収集できる資産情報については、P.81をご覧ください。

			対応OS		オンプレミス						クラウド		
			iOS	And	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
セキュリティ管理	制限（機能）	● AirPrint ● 予測表示キーボード ● キーボードショートカット ● なぞり入力キーボード ● 自動修正 ● スペルチェック ● 定義 ● 音声入力 ● ロック画面でのウォレット通知 ● ロック画面にコントロールセンター / 通知センター / "今日"を表示 ● ソフトウェア・アップデートの遅延	○	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
		● メディア（MicroSDカード等）の利用を禁止する ● USBによるデータ転送 / 記録媒体の利用を禁止する ● カメラの利用を禁止する ● スクリーンショットを禁止する ● ショートメッセージサービス（SMS）の利用を禁止する ● テザリングを禁止する ● Bluetoothの利用を禁止する ● NFCの利用を禁止する ● 端末のリセット（すべてのデータを消去）を禁止する ● Wi-Fi、モバイル、Bluetoothのリセットを禁止する ● 日付と時刻の変更を禁止する ● 位置情報の無効化を禁止する ● 充電中の自動的なスリープを禁止する ● 開発者向けオプションを禁止する ● 複数ユーザー設定の利用を禁止する ● アカウントの追加 / 削除を禁止する ● システムアップデートの適用を制御する ● システムアップデートの適用を停止する期間を設定する	–	○									
	制限（App）	● iTunes Store ● News ● Podcast ● Game Center ● Safari ● Cookieの受け入れ ● その他特定のアプリケーション	○	–									
		● ユーザーによるアプリケーションのインストールを禁止する ● ユーザーによるアプリケーションのアンインストールを禁止する ● 不明なアプリケーションのインストールを禁止する ● アプリ配布 ● 自動更新 ● 一時利用停止 ● アクセス権限 ● 管理設定	–	○									
	制限（メディアコンテンツ）	● 許可されるコンテンツレーティング ● 不適切なミュージック、Podcast、iTunes U メディアの再生 ● Apple Booksで不適切な性的描写のあるブックの閲覧	○	–									
	グローバルHTTPプロキシ	● プロキシタイプ（手動 / 自動） ● プロキシサーバとポート ● ユーザ名・パスワード ● プロキシPACのURL	○	–									
	コンテンツフィルタ	● 有害なWebサイトの閲覧を制限	○	–									
	パスコード設定	● パスコード設定の構成	○	○									
	Webクリップ	● ラベル ● URL ● アイコン	○	–									
運用支援・紛失対策	Wi-Fi設定	● SSID ● プロキシ設定 ● セキュリティの種類	○	–									
		● 接続するWi-Fiネットワークの選択を禁止する ● SSID ● セキュリティ ● パスワード ● メモ	–	○									
	証明書設定	● 証明書のインストール	○	–									
	モバイル端末制御	● ロック ● 端末内データ消去（ワイプ） ● パスコード / パスワード消去 ● 紛失モード有効化 ● 紛失モード解除 ● 端末でサウンド再生（※42）	○	○									
	検知・アラート	● 許可 / 不許可アプリケーション（※43） ● モバイル端末情報未アップロード期間設定	○	–									
	アプリ管理	● アプリ配布 ● アプリカタログ ● アンインストール ● Managed App Configuration設定	○	–									
		● 利用を許可するアプリケーションを設定（ホワイトリスト方式） ● 利用を禁止するアプリケーションを設定（ブラックリスト方式）	–	○									
	iOSアップデート	● iOS / iPadOSのアップデート実行	○	–									
	ゼロタッチ登録設定	● Automated Device Enrollmentプロファイル設定	○	–									
		● ゼロタッチ登録（Android Zero-touch）ポータルを利用した登録設定	–	○									
	モバイル端末位置情報管理	● 位置情報確認 ● 位置情報取得スケジュール ● 位置情報未アップロード検知	○	○									
	資産設定	● 端末初期化時の資産情報「デバイス名」設定	○	–									
	VPP設定	● VPPトークンの登録・更新・削除（全部署共通、または部署ごと） ● VPPライセンス管理	○	–									
	モバイルデバイス応急対策ツール	● モバイル端末制御 ● モバイル端末位置情報確認	○	–	OP	OP	OP	OP	OP	OP	–	OP	OP

インストーラー

	対応OS			オンプレミス						クラウド		
	Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
● 部署情報付きインストーラー作成	○	○	○※44							●※3	●	●
● リモートインストールツール	○	–	–	●	●	●	●	●	●	–	●※5	●※5
● 端末機No.が未割り当ての状態でのアラート検知										–	●	●

操作画面			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
端末機閲覧画面	● 端末表示 ● アラート端末表示（アラート端末のデスクトップ画像のみ表示）（※45） ● オンラインマニュアル		○	—	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	● リスト表示											●	●※5	●※5
	● ユーザー表示	● デスクトップ表示										—	●※5	●※5
	● 操作画面の折りたたみ表示 ● お気に入りタブ ● 機能ガイド	● ふきだしヒント ● 端末機閲覧画面検索機能 ● 重要なお知らせ										—	●	●
エンタープライズモード	● 端末選択時資産情報詳細表示 ● ソフトウェア一覧のマトリックス表示 ● 端末検索	● 各画面設定の保存復帰 ● ドッキングウィンドウ	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●

その他		対応OS			オンプレミス						クラウド		
		Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
● 通信帯域制限		○	○	○							—	●	●
● 通信帯域制限（端末間）											—	●※5	●※5
● 管理サーバー切り替え	● データサーバーの中継構成	○	—	—							—	—	—
● サーバー間の端末機移動		○	—	—							—	●※6	●※6
● SKYSEA Client Viewリモートアップデート		○	○	○							●※3	●	●
● 管理機のパスワード認証		○	—	—							●※46	●	●
● 管理機ごとの使用機能の利用設定 ● 管理機ごとの管理権限部署設定 ● 管理機の起動抑止設定 ● マイナンバー取扱端末設定 ● マイナンバー取扱管理機設定（専用のパスワード認証） ● 複数マスターサーバー連携による一元管理	● Active Directoryユーザー連携 ● アンインストーラー用期限付きパスワード発行 ● 管理コンソールの各種設定情報バックアップ / リストア ● 通信に使用しないネットワークカードを設定 ● シンクライアントライセンス数設定 ● 管理機のインターネット接続用プロキシ設定	○	—	—							—	●	●
● 端末機インストール時に所属先マスターサーバーを自動で設定		○	○	○							—	●	●
● 端末機インストール時に保存先データサーバーを自動で設定		○	○	—							—	●	●
● メール添付ファイルの自動暗号化		○	—	—	※47	※47	※47	※47	※47	※47	—	—	—
● 在席状況を確認しメッセージで情報共有		○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
● 組織外にあるPCからオフィスのPCをリモート操作		○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
● 管理者ごとの使用機能の利用設定	● 管理者ごとの管理権限部署設定	○	○	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—
● 管理者向けコミュニティサイト		○※4	○※4	○※4	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4

・医療機関向けオプション機能も別途ご用意しております。詳しくは、SKYMEC IT Managerのカタログをご参照ください。

※1 管理機とクライアントPCが直接通信できない環境では一部利用できない機能があります。※2 クラウド上のサーバーとクライアントPCとの接続にはHTTPSを利用します。また、VPN接続を利用いただくことも可能です。※3 Linux端末は対応していません。※4 ご契約内容等により、一部のお客様はご利用いただけない場合がございます。※5 管理機とクライアントPCが直接通信できない環境ではご利用いただけません。※6 VPN接続環境下においてのみ利用いただけます。※7 Mac端末、Linux端末の場合、レジストリ情報の表示はできません。※8 M1 Cloud Editionでは、ネットワーク機器情報・レジストリ情報の収集は行えません。※9 BitLockerの暗号化状態のみ収集できます。※10 Mac端末、Linux端末ではアップデーターの配布・実行のみ対応しています。※11 配布できるソフトウェアの合計サイズの上限は20GBです。※12 対象となる資産情報は、Windows端末、Mac端末、Linux端末から収集できます。※13 対象となる資産情報は、Windows端末、Mac端末から収集できます。※14 Mac端末の対応OSは、Mac OS X 10.5以降のバージョンとなります。※15「アクセスPCの前後の操作ログを追跡」は、端末機（Mac）で共有フォルダにアクセスした場合には追跡できません。※16 収集したログはクラウド上に2年間（731日）保管されます。ログはWeb管理コンソールから月単位でダウンロードすることも可能です。※17 収集したログはクラウド上に3か月間保管されます。また、クライアントPC1台あたりの規定保管容量は、S1H Cloud Editionが92MB、S3H Cloud Editionが552MBです。保存期間の延長や規定保存容量を超過される場合は「ログ保管容量追加オプション（1TB単位）」が必要です。※18 データサーバーに保存されたログを閲覧できます。※19 残業申請Web承認における承認処理は、iOSではSafari、AndroidではGoogle Chromeで行えます。※20 対象となる資産およびログ情報は、Windows端末、Mac端末から収集できます。※21 Mac端末には、「記憶媒体 / メディア使用」アラート、「記憶媒体 / メディア使用（棚卸期間超過）」アラートの場合のみ対応します。※22 Mac端末に対しては、端末機デバイスアラートのみ設定できます（ユーザーごとの設定はできません）。※23 Windows Vista / Windows Server 2008以降のOSのみ遮断できます。※24 M1 Cloud Editionのみ対応しています。※25 eSATA接続ハードディスクの管理は、端末機（Windows）に接続されたものに対してのみ行われます（ただし、Windows 2000は除く）。端末機（Linux）は非対応です。※26 eSATA接続ハードディスクは管理対象外です。※27 Windows端末では、Windows 2000は管理対象外です。※28 メディア登録時は別途、管理番号やメディア種別などの登録が必要です。※29 特定フォルダへのファイル持ち出しは、「ITセキュリティ対策強化」機能＜標準搭載（Ent/Pro/Tel/S3H）、オプション（LT/500/ST）＞が必要です。※30「外付けデバイス&ファイル暗号化」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞として提供します。※31 Mac端末、Linux端末で検知できないアラートについては、syslogが出力できません。※32 各レポートへのアクセスはWindows端末のみ対応しています。※33 Windows 10以降、またはWindows Server 2016以降のOSで利用いただけます。※34 ダウンロードしたテンプレートによっては、Mac端末のログ集計が行えないものもあります。※35「アプリケーション利用 / Webシステム用グループ集計」「プリンター印刷 / Webシステム用グループ集計」「Webアクセス（ドメイン毎） / Webシステム用グループ集計」「外部記憶書き出し / Webシステム用グループ集計」は利用いただけません。※36 Mac端末では、減色設定ができないなど、一部適用されない設定項目があります。※37 Mac端末は対応していません。※38 管理機とクライアントPCが直接通信できない環境ではご利用いただけませんが、「https ゲートウェイ経由リモート操作」オプションを追加いただくことで、管理機とクライアントPCが直接通信できない環境でもご利用いただけます。※39「画面操作録画」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞が必要です。※40 事前に専用ツールをWindowsのタスクスケジューラなどのジョブ管理システムで定期的に実行するように登録しておく必要があります。※41 ログ収集などのログ管理機能は搭載しておりません。※42 Android端末は対応していません。※43 M1 Cloud Editionでは対応していません。※44 対応するLinuxディストリビューションについては「動作環境（P.88）」をご覧ください。※45 M1 Cloud Editionでは、デスクトップ画像の表示に対応していません。※46 Web管理コンソールに専用アカウントでログインすることで、パスワード認証を行います。※47「送信メールログ」機能＜標準搭載（Ent/ST）、オプション（Pro/Tel/LT/500）＞と、「外付けデバイス&ファイル暗号化」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞が必要です。

収集できる資産情報（PC）			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
自動収集項目	・端末機No. ・コンピューター名 ・部署名 ・ログオンユーザー ・SKYSEA Client View端末機バージョン ・資産情報収集日時 ・最終起動日時 ・ホスト名 ・ドメイン名（ワークグループ名） ・ログオンユーザーのドメイン名 ・通常使うプリンター（※1） ・プリンター名（※2） ・ポート名 / デバイスURI（※2） ・死活監視状態 ・システムモデル ・システムシリアル ・マザーボードUUID ・OSバージョン ・ネットワークカード数 ・ドライブ数 ・MACアドレス ・最終資産アップロード時の接続元IPアドレス ・ネットワークカード	・IPアドレス割り当て方式 ・IPアドレス ・サブネットマスク ・デフォルトゲートウェイ ・デフォルトゲートウェイ（MACアドレス） ・DNSサーバー ・CPUタイプ ・CPU周波数 ・CPU数 ・CPUコア数 ・メモリサイズ ・ドライブタイプ ・ドライブ名 ・全容量 ・空き容量 ・所属マスターサーバー ・通信用マスターサーバー ・データサーバー指定方法 ・データサーバー ・画面操作ログ用データサーバー ・個別画面操作録画ライセンス ・役職レベル	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●※3 ※4	●	●
	・システム製造元		○	—	○									
	・最新ポリシー設定適用済み ・ポリシー設定適用日時 ・Google Chromeバージョン ・Safariバージョン ・使用中のディスプレイ数 ・ディスプレイアダプター名称 ・現在の解像度 ・ディスプレイ色数 ・ディスプレイアダプター情報（※2※5） ・モニター情報（※2※5） ・モニター名称	・モニターシリアル（※6） ・スクリーンセーバーのパスワードによる保護 ・HTTPゲートウェイ利用 ・通信方法設定 ・最終利用HTTPゲートウェイURL ・最終利用プロキシサーバー ・グローバルIPアドレス ・Google Chrome（SKYSEA Client Viewアドオン） ・端末利用者	○	○	—									
	・表示名 ・SKYSEA Client Viewインストール状況 ・SNMPサポート状況 ・BIOSバージョン ・AMTプロビジョニングモード ・AMTプロビジョニングステート ・AMTバージョン ・WindowsプロダクトID ・OSサービスパック ・OSバージョン（ビルド番号） ・Windows準備レベル ・OS言語 ・日本語言語パック ・Microsoft Edgeバージョン ・Firefoxバージョン ・IEバージョン ・IEサービスパック ・ESU（2020年） ・ESU（2021年） ・ESU（2022年） ・モデム数 ・SCSI数 ・SCSI ・IPv6グローバルアドレス割り当て方式 ・IPv6グローバルアドレス ・IPv6ユニークローカルアドレス割り当て方式 ・IPv6ユニークローカルアドレス ・IPv6一時アドレス割り当て方式 ・IPv6一時アドレス ・IPv6リンクローカルアドレス割り当て方式 ・IPv6リンクローカルアドレス	・IPv6デフォルトゲートウェイ ・IPv6デフォルトゲートウェイ（MACアドレス） ・IPv6DNSサーバー ・Credential Provider ・Firefox（SKYSEA Client Viewアドオン） ・省電力設定 ・WSUS連携設定 ・Windows Update更新結果（WSUS連携） ・Windows Updateダウンロード元 ・Windows 10以降更新制御設定 ・Windows 10以降大型アップデートの延期 ・定期電源ON設定 ・定期電源OFF設定 ・接続デバイス最終検査日時 ・接続デバイス最終不正プログラム検出日時 ・管理機制限設定 ・暗号化状態（※2） ・暗号化方式（※2） ・暗号化リカバリファイル収集日時（※2） ・プリンタードライバー名（※2） ・（プリンターの）IPアドレス（※2※7） ・PC保護状態 ・PC環境保護 ・アクセス共有フォルダ数 ・共有フォルダパス（※2） ・最終アクセス日時（※2） ・ネットワークドライブ割り当て数 ・共有フォルダパス（※2） ・ドライブ名（※2） ・最終検出日時（※2） ・設定したレジストリ情報数	○	—	—	●	●	●	●	●	●	●※4	●	●
	・紛失時制御端末 ・紛失端末制御用サーバーとの最終通信結果	・位置情報取得結果	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
	・Safari（SKYSEA Client Viewアドオン） ・Mac標準メーラー「メール」（SKYSEA Client Viewアドオン）		—	○	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	・定期再起動結果		○	—	—	●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—

収集できる資産情報（PC）

			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
任意設定項目	・AMTホスト名 / IPアドレス ・管理コンソール起動抑止	・マイナンバー取扱端末	○	—	—	●	●	●	●	●	●	●※4	●	●
	・端末機名 ・資産No. ・端末機タイプ ・セキュリティグループ ・所有ADユーザー ・メールアドレス ・ネットワーク機器の死活監視設定 ・MIB情報自動更新間隔設定	・種別（デスクトップ / ノート） ・OSライセンス種別 ・OSライセンス形態 ・状態区分 ・導入責任者 ・管理部署 ・管理者 ・使用部署	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●※3 ※4	●	●
	・前管理者 ・前利用者 ・設置場所 ・導入形式 ・登録日 ・導入日 ・購入日 ・購入先	・購入金額（円） ・リース / レンタル期限 ・経費（円） ・メモ ・通常時の消費電力（W） ・省電力時の消費電力（W） ・任意項目01～50												
	・Mac端末カーネル拡張 / システム拡張		—	○	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	・定期再起動設定		○	—	—	●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—

収集できる資産情報（ネットワーク機器）

			オンプレミス						クラウド		
			Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
収集可能な資産項目	・最新検出日時 ・機器種別 ・管理状態 ・ネットワーク機器名 ・IPアドレス ・MACアドレス	・SNMPサポート状況 ・コミュニティ ・ドメイングループ（ワークグループ名） ・システム製造元 ・初回検出日時 ・システムシリアル	●	●	●	●	●	●	—	●	●

収集できる資産情報（モバイル端末）

			対応OS		オンプレミス						クラウド		
			iOS	And	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
収集可能な資産項目	・デバイス名 ・モデル ・キャリア名 ・キャリア設定バージョン ・IMEI ・ICCID ・MEID ・モデムファームウェア ・ネットワーク ・電話番号 ・通信方式 ・MCC（国コード） ・MNC（事業者コード） ・最終接続MCC（国コード） ・最終接続MNC（事業者コード） ・テザリング ・ローミング ・データローミング ・音声通話ローミング ・デバイス容量（※8） ・デバイス空き容量（※8） ・バッテリー残量 ・iCloudバックアップ ・最終バックアップ日時	・パスコード / パスワード ・ポリシーを満たしたパスコード ・パスコード要求までの猶予時間 ・ハードウェア暗号化タイプ ・監視モード ・iPhoneを探す ・紛失モード ・アクティベーションロック ・おやすみモード ・iTunesStoreアカウント登録状況 ・iTunesStoreアカウントハッシュ ・Exchangeデバイス ID ・証明書 ・プロファイル ・プロビジョニングプロファイル ・モバイル端末登録状況 ・MDMプロファイル（SKYSEA Client View） ・バージョン ・インストール日時 ・最終起動日時 ・ポリシー適用時間 ・位置情報収集日時（モバイル端末） ・MDM用ポリシー設定適用日時	○	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP	OP
	・キャリア名 ・IMEI ・MEID ・電話番号 ・パスコード / パスワード	・ハードウェア暗号化 ・紛失モード ・SKYSEA Client View情報 ・MDM情報	—	○									

収集できるログ

			対応OS			オンプレミス						クラウド		
			Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ログ管理	ログ収集	・起動・終了ログ ・アプリケーションログ ・ファイル操作ログ（※9）	○	○	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		・システムログ ・プリントログ（※9）												
		・Webアクセスログ（※9）												
		・ドライブログ												
		・クライアント操作ログ ・クリップボードログ										—	●	●
		・通信デバイスログ（※9※10）												
		・フォルダ共有ログ												
		・送信メールログ				●	OP	OP	OP	OP	●	—	—	—
		・ファイルアクセスログ	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
		・想定外TCP通信ログ												
		・不許可端末検知ログ										—	●※11	●※11
	ログ収集（ITセキュリティ対策強化）	・アプリケーションログ（起動元アプリケーション、コマンドプロンプト情報） ・ファイル操作ログ（ZIPファイル内のファイル名）	○	—	—	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
不許可端末検知 / 遮断	不許可端末ログ	・IPアドレス / MACアドレス ・許可設定状況	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●※11	●※11
サーバー監査	アクセスレポート	・成功 / 失敗ファイルアクセスログ	○	—	—	OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
	OSログ閲覧	● イベントログ ・アプリケーションログ ・セキュリティログ ・システムログ ・セットアップログ ・転送されたイベントログ												
		● 監査ログ ・アカウント操作ログ ・グループ操作ログ ・パスワード操作ログ ・監査ポリシー操作ログ ・ロックアウトログ ・ログオンログ ・ログオフログ ・ファイルアクセスログ ・印刷ログ												
	データベース監査ログ閲覧	・アカウント操作 ・パスワード操作 ・データベース操作 ・バックアップ / リストア ・ログイン / ログアウト ・SELECT ・INSERT ・UPDATE ・DELETE				OP※12	OP※12	OP※12	OP※12	OP※12	OP※12			

設定できるアラート（注意表示）項目一覧

		画面操作録画※13	端末アラート	ユーザーアラート	対応OS			オンプレミス						クラウド		
					Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
資産	資産情報の変更	—	○	—	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	HDD容量不足	—	○	—												
	リース / レンタル切れ	—	○	—												
	BitLockerローカルディスク暗号化管理	—	○	—												
	許可 / 不許可アプリケーション（デスクトップアプリケーション / Windows ストアアプリ）	—	○	—										●	●	●
	インストール必須アプリケーション	—	○	—										—	●	●
	インストール必須アプリケーション（遮断）	—	○	—										—	●※11	●※11
	SKYSEA未対応OSバージョン	—	○	—										—	●	●
	ネットワーク機器の死活監視	—	○	—	○	○	○							—	●※11	●※11
	端末未起動期間設定	—	○	—	○	○	○							●※3	●	●
	SKYSEA端末アップロード異常検知	—	○	—	○	○	—							—	●	●
アプリケーション	ウィンドウタイトル	○	○	○	○	—	—	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	不許可ファイル検索	—	○	—										—	●	●
	アプリケーション実行（デスクトップアプリケーション）	○	○	○※14										●	●	●
	アプリケーション実行（アプリケーション実行中の特定操作 / Windows ストアアプリ）	○	○	○※14												
	禁止アプリケーションの名前変更	○	○	○	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	業務外アプリケーション実行	○	○	○												
	レジストリ変更	○	○	○												
	インストール	○	○	○										●	●	●
	システム構成変更	○	○	○												
	Windows ストアの利用	○	○	○										—	●	●
	Windows ストアアプリの自動更新	—	○	—												

設定できるアラート（注意表示）項目一覧

		画面操作録画※13	端末アラート	ユーザーアラート	対応OS			オンプレミス						クラウド		
					Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
ファイル操作	CSVファイル出力	○	○	○	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	規定時間外端末機操作	○	○	○												
	Autorun（自動実行）	—	○	—												
	特定フォルダアクセス	○	○	○												
	ドライブ追加	○	○	—												
	共有フォルダ書き込み	○	○	○												
	ローカル共有フォルダ作成	○	○	—												
	ローカル共有フォルダアクセス	○	○	—												
	カスタマイズ	○	○	○										●	●	●
	禁止ファイル持ち込み	○	○	○										—	●	●
	実行ファイル不正操作	○	○	○												
	ファイル自動暗号化（※15）	—	○	—				OP	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
デバイス	記憶媒体 / メディア使用	○	○	○	○	○	—	●	●	●	●	●	●	※16	●	●
	記憶媒体 / メディア使用（棚卸期間超過）	○	○	○										—	●	●
	記憶媒体 / メディア書き込み（※17※18）	○	○	○										※16	●	●
	BitLocker To Goで保護されていない記憶媒体使用	○	○	—	○	—	—									
	USBデバイスによる不正ファイル持ち込み（※19）	—	○	○												
	USBメモリによるコンピューター使用制限	—	○	○										—	●	●
	セーフモードで起動時（Windows）の記憶媒体 / メディア使用	—	○	—												
ITセキュリティ対策強化（ファイル操作）	特定フォルダアクセス（アプリケーション指定）	○	○	○	○	—	—	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
	ローカル共有フォルダへのアクセス（通信）を暗号化（ファイルサーバー用）	—	○	—												
	セキュリティ基準を満たさない共有フォルダへのアクセス（端末用）	○	○	—												
	想定外共有フォルダアクセス	○	○	—				●	●	●	●	●	●	—	●	●
ITセキュリティ対策強化（その他）	検疫ソフトウェアイベントログ監視（※20）	—	○	—	○	—	—	●	●	●	OP	OP	OP	—	—	●
	検疫ソフトウェアレジストリ監視（※20）	—	○	—												
	検疫ソフトウェアログファイル監視（※20）	—	○	—												
	syslogによる異常端末監視（※20）	—	○	—												
	SNMPトラップによる異常端末監視（※20）	—	○	—										—	—	● ※11
	組織外ネットワーク接続（デフォルトゲートウェイ）（※20）	—	○	—												
	組織外ネットワーク接続（VPN・プロキシサーバー）（※20）	—	○	—										—	—	●
その他	Web / アプリケーションアカウント監査	○	○	—	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	通信デバイス使用 ネットワークカード（有線 / 無線）	○	○	—												
	通信デバイス使用 ネットワークカード以外（Bluetoothなど）	○	○	—												
	想定外TCP通信	○	○	—												
	Webダウンロード	○	○	○										●	●	●
	FTPダウンロード	○	○	○										—	●	●
	Webアップロード	○	○	○										●	●	●
	FTPアップロード	○	○	○										—	●	●
	Web閲覧	○	○	○										●	●	●
	掲示板 / Webメール書き込み	○	○	○										—	●	●
	電子メール送信	○	○	—												
	電子メール送信（添付ファイル付き）	○	○	—				●	OP	OP	OP	OP	●	—	—	—
	電子メール送信宛先フィルタ	○	○	—												
	電子メール送信時の添付ファイル自動暗号化	—	○	—				※21	※21	※21	※21	※21	※21			

設定できるアラート（注意表示）項目一覧

		画面操作録画※13	端末アラート	ユーザーアラート	対応OS			オンプレミス						クラウド		
					Win	Mac	Lin	Ent	Pro	Tel	LT	500	ST	M1	S1H	S3H
その他	印刷枚数	—	○	—	○	—	—									
	印刷ドキュメント名	○	○	—												
	印刷ファイルパス	○	○	—				●	●	●	●	●	●	—	●	●
	印刷禁止	—	○	—												
	印刷物取り忘れ	—	○	—												
	不許可端末検知	—	○	—										—	● ※11	● ※11
	不許可端末遮断	—	○	—				●	●	●	OP	OP	●	—	OP ※11	● ※11
	残業時間お知らせメッセージ	—	○	—				●	●	●	●	●	●	—	●	●
	残業時間お知らせメッセージ（遮断）	—	○	—				●	●	●	●	●	●	—	● ※11	● ※11
	残業時間お知らせメッセージ（勤怠情報取り込み）	—	○	—				●	●	OP	OP	OP	OP	—	—	—
	管理者権限ログイン抑止	—	○	—				●	●	●	●	●	●	—	●	●
	Print Screenキーによる画面コピー	—	○	○				●	—	●	—	—	—	—	—	—
	アプリケーションによる画面キャプチャー	—	○	○				●	—	●	—	—	—	—	—	—
	共有エクスペリエンス（近距離共有・デバイス間の共有）	—	○	—												
	アクティビティ（タイムライン）履歴の保存	—	○	—												
	デバイス間でのアクティビティ（タイムライン）の同期	—	○	—	○	—	—									
	クリップボードの履歴の保存	—	○	—												
	デバイス間でのクリップボードの同期	—	○	—												
	Windowsサンドボックスの利用	○	○	○				●	●	●	●	●	●	—	●	●
	OneDriveの利用	○	○	○												
	OneDrive for Businessの利用	○	○	○												
	OneDrive / OneDrive for Businessの同期設定	—	○	—												
	Dropboxの利用（※22）	○	○	○												
	Googleドライブの利用（※23）	○	○	○												
	ログオフし忘れ防止	—	○	—				●	OP	OP	OP	OP	OP	—	—	—
	BitLockerドライブ暗号化でスマートカードを使用した認証	—	○	—												
	レジストリ操作	○	○	—												
	圧縮ファイル生成	○	○	—				●	●	●	●	●	●	—	●	●
	Windowsを「セーフモードとネットワーク」で起動	—	○	—												
	任意定義アラート	○	○	○												
	ユーザーアラートを優先する	—	○	—												
連携製品設定	名刺情報に対する特定操作	○	○	—	○	— ※24	—									
	SKYPCEのWebページ表示中のログオフし忘れ防止	—	○	—												
	フリーの名刺管理サービス利用	○	○	—	○	—	—	●	●	●	●	●	●	—	●	●
	SKYPCEへのアクセスを許可	—	○	—	○	○	—									

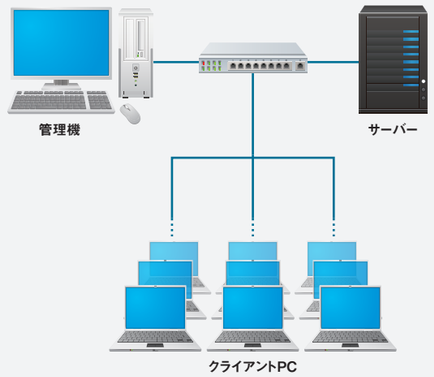
※1 Mac端末、Linux端末の場合、印刷システムとして「CUPS」が使用されている必要があります。※2 ハードウェア情報の詳細表示画面でのみ表示されます。※3 Linux端末は対応していません。※4 一部の資産情報の収集には対応していません。※5 製造元、ドライバー、ドライバーの説明、ドライバーファイル、デバイスIDの情報が取得できます。ただし、モニタードライバー情報は、Windows XP / Windows Server 2003以前のOSでは取得できません。※6 「モニターシリアル」は、仮想マシンでは取得できません。また、機種によっては取得できない場合があります。※7 取得できるのは、PCと直接接続しているネットワークプリンターかつ、レジストリにIPアドレスが存在する場合のみです。※8 Apple TVには対応していません。※9 Mac端末では一部収集できない項目があります。詳しくは、「Mac端末運用管理について（P.102）」をご覧ください。※10 SSIDはログオン状態のときのみ取得されます。※11 VPN接続環境下においてのみ対応しています。※12 「サーバー監査」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞の、オプションとして提供します。※13 「画面操作録画」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞が必要です。※14 「アプリケーション実行中の特定操作」のみユーザーアラートは設定できません。※15 「外付けデバイス&ファイル暗号化」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞として提供します。※16 メディアを対象とするアラートには対応していません。※17 Mac端末の場合、OSデバイスへの書き込みは禁止されますが、管理機上では対象のMac端末に対するアラートは発生しません。※18 Mac端末では、CD / DVD / ブルーレイドライブへの記憶媒体書き込み制限はできません。またブランクディスクを挿入した場合は、記憶媒体使用制限もできません。※19 eSATA接続ハードディスクは設定対象外です。※20 Windows Vista / Windows Server 2008以降のOSに対応しています。※21 「送信メールログ」機能＜標準搭載（Ent/ST）、オプション（Pro/Tel/LT/500）＞と、「外付けデバイス&ファイル暗号化」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞が必要です。※22 DropboxおよびDropbox Pro / Business / Enterpriseに対応しています。※23 Web版のGoogleドライブでの操作は、Mac端末にも対応しています。※24 「名刺 / 会社情報のダウンロード」操作は、Mac端末にも対応しています。

システム構成

2025年6月3日時点の情報です。システム構成の最新情報は、Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/ver20/system/）でご覧いただけます。
詳しい構成・スペックの最新情報は、Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/ver20/technicalsheet/）の
「SKYSEA Client Viewのサーバー構成が知りたい」の「システム構成」をご覧ください。

サーバー構成例 ❶ ＜管理対象PC1,000台まで＞

クライアントPCを管理する基本的なサーバー構成※1



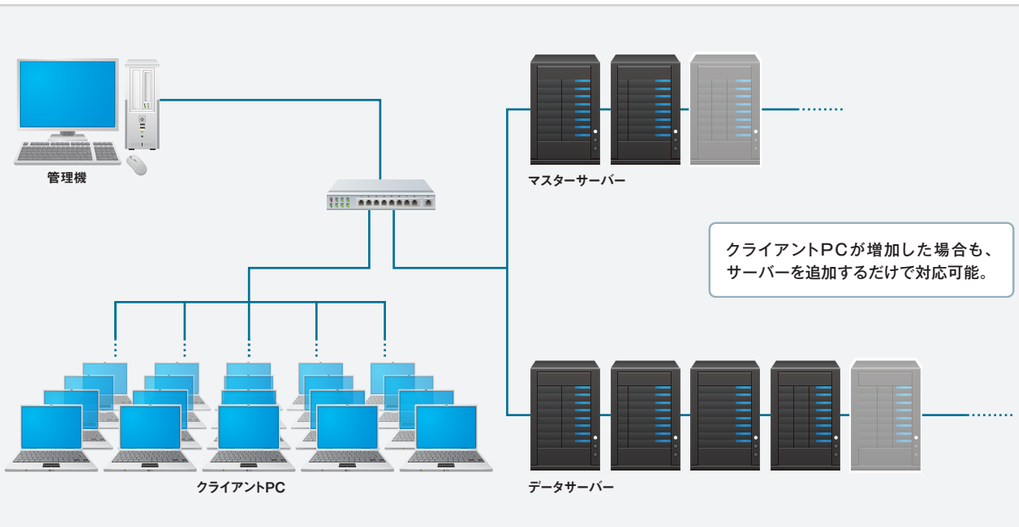
以下のサーバー機能を1台のサーバーにインストールして運用いただけます。	
マスターサーバー機能	資産情報を蓄積するためのサーバー機能です。
データサーバー機能	ログを蓄積するためのサーバー機能です。※2
ログ解析 / レポート用サーバー機能	収集したログ情報を集計・解析し、グラフ化して表示したり、収集したログ情報から各種レポートを出力するサーバー機能です。

※1 基本的な構成例です。詳しいサーバー構成については、Webサイトの「システム構成」の技術資料をご覧ください。 ※2 「画面操作録画」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞をご利用の場合は、録画データをログデータとは別のサーバーに保存可能です。それぞれ別々に保存することで、サーバーの負荷を分散することができます。

サーバー構成例 ❷ ＜管理対象PC1,001台から＞

マスターサーバー、データサーバーを分離して大規模環境に適応※3

大規模環境で運用する際に、複数台のマスターサーバー、データサーバーを設置した場合でも、各サーバーの情報が統合され、管理機から一元管理できます※4。



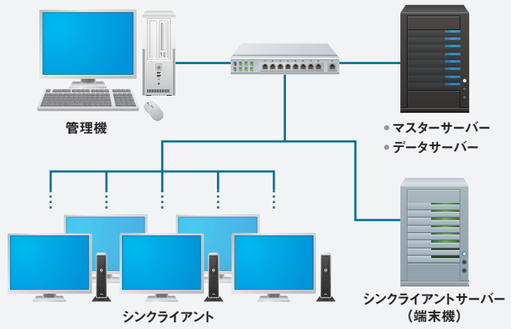
※3 詳しいサーバー構成については、Webサイトの「システム構成」の技術資料をご覧ください。 ※4 マスターサーバー、データサーバーともに、1台あたり5,000クライアントまで管理できます。「画面操作録画」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞でクライアントの常時録画を行う場合は、データサーバー1台あたり150クライアントまでとなります。

サーバー構成例 ❸

サーバーベース方式・仮想PC方式のシンクライアント環境の運用管理にも対応

シンクライアント環境でも、操作ログの収集やセキュリティポリシーに沿った注意表示（アラート）が設定できます。また、仮想PC方式の場合は資産管理にも対応し、物理PCと仮想PCが混在する環境でもクライアントに関する情報が一元管理できます。

「サーバーベース方式」のシンクライアント環境で
SKYSEA Client Viewを運用するための構成図



サーバーベース方式

- VMware社製 VMware Horizon
- Citrix社製 Virtual Apps and Desktops
- Microsoft社製 リモートデスクトップサービス（ターミナルサービス）
- Sky株式会社製 SKYDIV Desktop Client

使用できる機能：ログ管理／セキュリティ管理／デバイス管理※5／メンテナンス※6

仮想PC方式

- VMware社製 VMware Horizon
- Citrix社製 Virtual Apps and Desktops
- HP社製 CCI
- 日本電気株式会社製 VirtualPCCenter
- Microsoft社製 Hyper-V
- Sky株式会社製 SKYDIV Desktop Client

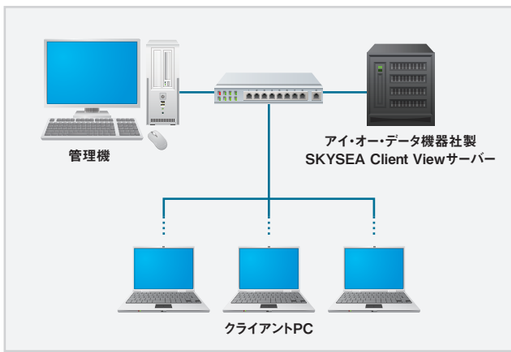
使用できる機能：ログ管理／セキュリティ管理／デバイス管理※7／資産管理／メンテナンス

※5 サーバーベース方式における「デバイス管理」機能は、VMware社製 VMware Horizonに対応しています。※6 Citrix社製 Virtual Apps and DesktopsとVMware社製 VMware Horizonのアプリケーション配信では、「メンテナンス」機能をご利用いただけません。※7 仮想PC方式における「デバイス管理」機能は、Citrix社製 Virtual Apps and DesktopsとVMware社製 VMware Horizonに対応しています。

サーバー構成例 ❹ ＜管理対象PC20台まで＞

アプライアンスプラットフォーム装置を利用した構成

アイ・オー・データ機器社製 アプライアンスプラットフォーム装置※8を使用することで、サーバー機を導入せずに、クライアントPCの制限や操作ログ収集、USBデバイス、ソフトウェア資産の管理が可能となり、小規模な環境でも情報漏洩対策やIT資産の有効活用が容易に行えます。



※8 受注生産となっているため、場合によって納品までに2～3か月を要することがあります。ご購入を希望される場合は、事前にSky株式会社までご連絡ください。

サーバー構成例 ❺

物理サーバーを使わない環境でも情報漏洩対策、IT資産管理が可能に

SKYSEA Client Viewのマスターサーバー、データサーバーの動作確認が取れているクラウドサービス

- IIJ GIO
- Amazon EC2
- 株式会社インテック製「EINS/SPS SelfPortal」
- 株式会社STNet「STクラウド サーバーサービス［FLEXタイプ］」
- NTT Com Enterprise Cloud
- ニフクラ
- FUJITSU Cloud Service for OSS
- Microsoft Azure Virtual Machines

SKYSEA Client Viewの各種サーバーをクラウド上に構築できます。物理サーバーの購入が不要なため、初期コストを抑えて導入できます。インターネット経由でのIT資産管理、ログ収集、ソフトウェア配布が可能です。

SKYSEA Client Viewをサービスとして提供いただいているクラウド事業者様

株式会社STNet	STクラウドサーバーサービス［FLEXタイプ］
NECネッツエスアイ株式会社	エンドポイント統合管理サービス With SKYSEA Client View
CTCシステムマネジメント株式会社	SKYSEA on Cloud
JBCC株式会社	PC運用管理月額サービス for SKYSEA
株式会社ソフトクリエイト	SKYSEA Client View SaaS on SCCloud
東京日産コンピュータシステム株式会社	SKYSEA クラウド on ITte

動作環境

2025年6月3日時点の情報です。最新情報は、Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/ver20/operation/）でご覧いただけます。
一部の環境を除き、OSは日本語版を前提としています。
記載の数値は最低スペックです。システム構成や管理対象となる端末の数によって動作環境が異なる場合があります。詳しくはWebサイトの「技術資料ダウンロード」（https://www.skyseaclientview.net/ver20/technicalsheet/）をご確認いただくか弊社担当までお問い合わせください。
下記の記載にかかわらず、対象OSの最低動作要件を満たしている必要があります。
端末機(Mac)、端末機（Mac）<M1 Cloud Edition>を除き、x86アーキテクチャ / x64アーキテクチャのCPUである必要があります。

管理機（Windows）※1・端末機（Windows）※2 <オンプレミス版、S1H / S3H Cloud Editionをご利用の場合>

CPU	1GHz以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	256MB以上※3
ハードディスク	管理機は4200MB以上、端末機は2400MB以上の空きがあること※4		
OS	● Windows 2000 Server SP4 ● Windows 2000 Professional SP3※5 / SP4 ● Windows Server 2003 Standard Edition SP1/SP2、Standard Edition x64 SP2、Enterprise Edition SP1/SP2、Enterprise Edition x64 SP2、R2 Standard Edition SPなし/SP2、R2 Standard Edition x64 SP2、R2 Enterprise Edition SPなし/SP2、R2 Enterprise Edition x64 SP2 ● Windows Server 2008 Standard Edition SPなし/SP2、Standard Edition x64 SPなし/SP2、Enterprise Edition SPなし/SP2、Enterprise Edition x64 SPなし/SP2、R2 Standard Edition SPなし/SP1、R2 Enterprise Edition SPなし/SP1 ● Windows Server 2012 Standard、Datacenter、R2 Standard、R2 Datacenter ● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter、Datacenter: Azure Edition※6 ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter、Datacenter: Azure Edition※6 ● Windows XP Professional SP1/SP2/SP3、Professional x64 Edition SP2 ● Windows Vista Business SPなし/SP1/SP2、Business x64 Edition SPなし/SP1/SP2、Enterprise SPなし/SP1/SP2、Enterprise x64 Edition SPなし/SP1/SP2、Ultimate SPなし/SP1/SP2、Ultimate x64 Edition SPなし/SP1/SP2 ● Windows 7 Professional SPなし/SP1、Professional x64 Edition SPなし/SP1、Enterprise SPなし/SP1、Enterprise x64 Edition SPなし/SP1、Ultimate SPなし/SP1、Ultimate x64 Edition SPなし/SP1 ● Windows 8 Windows 8、Pro、Pro With Media Center、Enterprise ● Windows 8.1 Updateなし / Update 1 Windows 8、with Bing、Pro、Pro With Media Center、Enterprise、Embedded Industry Pro、Embedded Industry Enterprise ● Windows 10 Home、Pro、Pro Education、Pro for Workstations、Enterprise、Enterprise LTSB、Education、IoT Enterprise、IoT Enterprise LTSB ● Windows 11 Home、Pro、Pro Education、Pro for Workstations、Enterprise、Education、IoT Enterprise、Enterprise LTSC 2024、Iot Enterprise LTSC 2024		
ブラウザ	ログ解析クライアント、資産・ログ利活用レポートライブラリ、申請・承認ワークフローシステム、資産データ / ログデータWeb閲覧機能のご利用には、Firefox、Google Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）のいずれかのブラウザが必要です。		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ハードウェア環境	Intel® vPro™ Technologyに対応※7
ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること		

※1 二要素認証機能を使用する場合は、二要素認証アプリケーションが必要になります。また、ダッシュボード機能を使用する場合は、Microsoft Edge WebView2 Runtimeがインストールされている必要があります。※2 日本語版OSのほか、英語版OSにも対応しています。ただし、アンケート・注意表示等の各種表示を正しく表示させるには、別途日本語ランゲージパックのインストール、システムロケールの変更（日本語）、表示言語を日本語に設定する必要があります。 ※3 端末機の台数増加に伴い、管理機で必要なメモリも増加します。端末機が300台以上の場合、管理機には512MB以上のメモリが必要です。512MB未満の場合、ログの最大表示件数を20,000件以下に設定する必要があります。それ以上の件数は、表示時間が非常に遅くなります。 ※4 運用状況により異なります。※5 不許可端末遮断ユニット一括設定ツールは動作いたしません。※6 Datacenter: Azure Editionは、端末機（Windows）のみ対応しています。※7 SKYSEA Client Viewのインテル vProテクノロジー AMT対応機能をご利用の際は、お客様の環境がインテル vProテクノロジー AMTが動作する環境か、ご確認いただきますようお願いいたします。一例として、インテル vProテクノロジー AMTでは、無線LAN環境において固定IPアドレスをサポートしていないため、DHCP環境でしか動作しないことが確認されております。また、KVMリモート・コントロールのみ対応していない機種もございます。

端末機（Mac）<オンプレミス版、S1H / S3H Cloud Editionをご利用の場合>※1※2

CPU	Intel製CPU / Apple製CPU		メモリ	512MB以上 / 4GB以上	ハードディスク	空き容量600MB以上	
OS	● Mac OS X 10.4 Tiger x86 / x64 ● Mac OS X 10.5 Leopard x86 / x64 ● Mac OS X 10.6 Snow Leopard x86 / x64	● Mac OS X 10.7 Lion x86 / x64 ● OS X 10.8 Mountain Lion x64 ● OS X 10.9 Mavericks x64	● OS X 10.10 Yosemite x64 ● OS X 10.11 El Capitan x64 ● macOS 10.12 Sierra x64	● macOS 10.13 High Sierra x64 ● macOS 10.14 Mojave x64 ● macOS 10.15 Catalina x64	● macOS 11 Big Sur x64 ● macOS 12 Monterey x64 ● macOS 13 Ventura x64	● macOS 14 Sonoma x64 ● macOS 15 Sequoia x64	

※1 Mac OS X 10.4～10.7、およびOS X 10.8～10.9は、Mac OpenJDK 6をインストールする必要があります。 ※2 Apple製CPUを搭載しているMac端末の場合、SKYSEA Client Viewをインストールする前にRosettaをインストールする必要があります。

端末機（Linux®）<オンプレミス版、S1H / S3H Cloud Editionをご利用の場合>※1※2※3

OS	● Red Hat® Enterprise Linux® 4 x86 / x64 5 x86 / x64 6 x86 / x64 7 x64 8 x64 9 x64	● Ubuntu 18.04 LTS x64 20.04 LTS x64 22.04 LTS x64 24.04 LTS x64	● CentOS 7 x64	● Amazon Linux 2023 x64

※1 CPU、メモリ、ハードディスクの動作環境は、端末機（Windows）に準じます。※2 Microsoftストアで公開されているUbuntuには対応しておりません。※3 SKYSEA Client Viewをインストールした状態での、OSメジャーバージョンアップは行えません。SKYSEA Client Viewをアンインストールしてから OSメジャーバージョンアップを行い、SKYSEA Client Viewを再インストールする必要があります。

Web管理コンソール <M1 Cloud Editionをご利用の場合>※1※2

対応ブラウザ	Firefox、Google Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）、Safari

※1 インターネット接続環境が必要です。※2 ブラウザを利用するPCは、端末機（Windows）<M1 Cloud Edition>、端末機（Mac）<M1 Cloud Edition>の動作要件を満たす必要があります。

端末機（Windows）※1 <M1 Cloud Editionをご利用の場合>※2

CPU	1GHz以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	1GB以上
ハードディスク	空き容量2400MB以上※3		
OS	● Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1、R2 Enterprise Edition SP1 ● Windows Server 2012 Standard、Datacenter、R2 Standard、R2 Datacenter ● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter、Datacenter: Azure Edition ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter、Datacenter: Azure Edition ● Windows 7 Professional SP1、Enterprise SP1、Ultimate SP1 ● Windows 8 Windows 8、Pro、Pro with Media Center、Enterprise ● Windows 8.1 Windows 8.1、with Bing、Pro、Pro with Media Center、Enterprise、Embedded Industry Pro、Embedded Industry Enterprise ● Windows 10 Home、Pro、Pro Education、Pro for Workstations、Enterprise、Enterprise LTSB、Education、IoT Enterprise、IoT Enterprise LTSB ● Windows 11 Home、Pro、Pro Education、Pro for Workstations、Enterprise、Education、IoT Enterprise、Enterprise LTSC 2024、Iot Enterprise LTSC 2024		

※1 日本語版OSのほか、英語版OSにも対応しています。ただし、アンケート・注意表示等の各種表示を正しく表示させるには、別途日本語ランゲージパックのインストール、システムロケールの変更（日本語）、表示言語を日本語に設定する必要があります。※2 インターネット接続環境が必要です。※3 運用状況により異なります。

端末機（Mac）<M1 Cloud Editionをご利用の場合>※1※2

CPU	Intel製CPU / Apple製CPU				メモリ	4GB以上	
ハードディスク	空き容量600MB以上※3						
OS	● macOS 10.15 Catalina x64	● macOS 11 Big Sur x64	● macOS 12 Monterey x64	● macOS 13 Ventura x64	● macOS 14 Sonoma x64	● macOS 15 Sequoia x64	

※1 インターネット接続環境が必要です。※2 Apple製CPUを搭載しているMac端末の場合、SKYSEA Client Viewをインストールする前にRosettaをインストールする必要があります。※3 運用状況により異なります。

端末機（Windows）※1 <ブラウザ環境分離オプションをご利用の場合>

CPU	1GHz以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	1GB以上
ハードディスク	16GB以上の空きがあること		
OS	● Windows 10　● Windows 11		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	対応するWebブラウザは次のとおりです。Microsoft Edge※2※3、Google Chrome※2※4		

※1 日本語版OSのほか、英語版OSにも対応しています。ただし、アンケート・注意表示等の各種表示を正しく表示させるには、別途日本語ランゲージパックのインストール、システムロケールの変更（日本語）、表示言語を日本語に設定する必要があります。※2 バージョン108未満のWebブラウザは非対応です。※3 Internet Explorerモードは非対応です。※4 管理者権限なしでインストールしたGoogle Chromeは非対応です。

遠隔制御対象PC ＜Remote Access Servicesオプションをご利用の場合＞

CPU	1.6GHz以上、2コア以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	32GB以上	ネットワーク	1GBase-T以上
OS	● Windows Server 2025 Standard Edition、Datacenter、Datacenter: Azure Edition ● Windows Server 2022 Standard Edition、Datacenter、Datacenter: Azure Edition ● Windows Server 2019 Standard Edition、Datacenter、Essentials ● Windows 11 Home x64 Edition、Pro x64 Edition、Pro for Workstations x64 Edition、Enterprise x64 Edition、Education x64 Edition、Pro Education x64 Edition ● Windows 10 Home、Home x64 Edition、Pro、Pro x64 Edition、Pro for Workstations、Pro for Workstations x64 Edition、Enterprise、Enterprise x64 Edition、Enterprise LTSC 2019、Enterprise LTSC 2019 x64 Edition、Enterprise LTSC 2021、Enterprise LTSC 2021 x64 Edition、Education、Education x64 Edition、Pro Education、Pro Education x64 Edition		

利用者側操作PC ＜Remote Access Servicesオプションをご利用の場合＞

CPU	1.6GHz以上、2コア以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	32GB以上	ネットワーク	1GBase-T以上
OS	● Windows 11 Home x64 Edition、Pro x64 Edition、Pro for Workstations x64 Edition、Enterprise x64 Edition、Education x64 Edition、Pro Education x64 Edition ● Windows 10 Home、Home x64 Edition、Pro、Pro x64 Edition、Pro for Workstations、Pro for Workstations x64 Edition、Enterprise、Enterprise x64 Edition、Enterprise LTSC 2019、Enterprise LTSC 2019 x64 Edition、Enterprise LTSC 2021、Enterprise LTSC 2021 x64 Edition、Education、Education x64 Edition、Pro Education、Pro Education x64 Edition ● Windows 8.1 Windows 8.1、Windows 8.1 x64 Edition、with Bing、with Bing x64 Edition、Pro、Pro x64 Edition、Pro with Media Center、Pro with Media Center x64 Edition、Enterprise、Enterprise x64 Edition ● Windows 8 Windows 8、Windows 8 x64 Edition、Pro、Pro x64 Edition、Pro with Media Center、Pro with Media Center x64 Edition、Enterprise、Enterprise x64 Edition		

グローバルマスターサーバー※1

CPU	2.5GHz※2以上、16コア32スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	32GB以上
ハードディスク	350GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2014 Standard Edition SP3※3※4 / 2019 Standard Edition / 2022 Standard Edition、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 グローバルマスターサーバー環境で使用する管理機には、3GB以上のメモリが必要です。※2 定格周波数ではなく、最大周波数です。※3「Standard Edition」以上のエディションに対応しています。詳しくは、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご確認ください。※4 Microsoft SQL Server 2014に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019です。

マスターサーバー

CPU	2.5GHz※1以上、2コア2スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	管理対象PCが300台の場合、120GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2014 Express Edition SP3※2 / 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。※2 Microsoft SQL Server 2014に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019です。

データサーバー

CPU	2.5GHz※1以上、2コア2スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	8GB以上
ハードディスク	管理対象PCが300台の場合、120GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。

ログ解析用サーバー / レポート用サーバー

CPU	2.5GHz※1以上、2コア2スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	管理対象PCが300台の場合、40GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2014 Express Edition SP3※2 / 2019 Express with Advanced Services / 2022 Express Edition / 2022 Reporting Services、Internet Information Services 8.0/8.5/10.0、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.8		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。※2 Microsoft SQL Server 2014に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019です。

資産データ / ログデータ Web閲覧機能サーバー※1※2

CPU	2.5GHz※3以上、2コア2スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）（資産データ） 2.5GHz※3以上、4コア4スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）（ログデータ）	メモリ	8GB以上
ハードディスク※4	10GB以上の空きがあること（資産データ） 30GB以上の空きがあること（ログデータ）※5		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Apache Tomcat 9.0.104、Microsoft Build of OpenJDK 17、Play Framework 1.4.6		
その他（ログデータのみ）	Microsoft SQL Server 2014 Express Edition SP3※6 / 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 端末台数1,000台以下、ログデータWeb閲覧機能へのログオンは同時に1ユーザーまで（ログ検索件数の上限は50,000件に制限されます）の場合に限り、マスターサーバーとの同居が可能です。同居時に必要なサーバーのスペックは、マスターサーバーのスペックに準じます。※2 TLS 1.2でクライアントと通信できる環境が必要です。※3 定格周波数ではなく、最大周波数です。※4 資産データWeb閲覧サーバーとログデータWeb閲覧サーバーを同一のサーバーにインストールする場合も、ログデータWeb閲覧サーバー単体の場合と同じく、Webサーバーとして10GB、データベースサーバーとして20GBの空きが必要です。※5 Webサーバーとして10GB、データベースサーバーとして20GBの空きが必要です。※6 Microsoft SQL Server 2014に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019です。

HTTPゲートウェイサーバー※1※2

CPU	2.5GHz※3以上、2コア4スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	10GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter ● Red Hat® Enterprise Linux® Server x64 7.0～9.5		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Windows：Microsoft Build of OpenJDK 17、Internet Information Services 8.0/8.5/10.0、Play Framework 1.4.6 Linux®：Apache 2.2 / 2.4、OSにバンドルされたjava-1.8.0-openjdk、Play Framework 1.4.6		

※1 端末台数1,001台以上の場合のスペックは、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご確認ください。※2 TLS 1.2でクライアントと通信できる環境が必要です。※3 定格周波数ではなく、最大周波数です。

サーバー監査用モジュール ＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞

CPU	2.5GHz※1以上、2コア2スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	1GB以上
ハードディスク	15GB以上の空きがあること		
OS	● Windows 2000 Server SP4 ● Windows Server 2003 Standard Edition SP1/SP2、Standard Edition x64 SP2、Enterprise Edition SP1/SP2、Enterprise Edition x64 SP2、R2 Standard Edition SPなし/SP2、R2 Standard Edition x64 SP2、R2 Enterprise Edition SPなし/SP2、R2 Enterprise Edition x64 SP2 ● Windows Server 2008 Standard Edition SPなし/SP2、Standard Edition x64 SPなし/SP2、Enterprise Edition SPなし/SP2、Enterprise Edition x64 SPなし/SP2、R2 Standard Edition SPなし/SP1、R2 Enterprise Edition SPなし/SP1 ● Windows Server 2012 Standard、Datacenter、R2 Standard、R2 Datacenter ● Windows Server 2016 Standard、Datacenter ● Windows Server 2019 Standard、Datacenter ● Windows Server 2022 Standard、Datacenter ● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	データベース監査ログ閲覧※2に対応しているデータベースは、次のとおりです。 Microsoft SQL Server 2005 / 2008 / 2008 R2 / 2012 / 2014 / 2016 / 2017 / 2019※3 各エディションおよび Oracle® Database 12c Release 1※4 / Release 2※4		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。※2「サーバー監査」機能＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞の、オプションとしてご購入いただける機能です。※3 Microsoft SQL Server 2019に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019 / 2022です。※4 監査対象のOracle DatabaseサーバーのOSは、Red Hat Enterprise Linux Server x64 5.6 / 6 / 7 / 8 / 9、Windows Server x64 2008 / 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 / 2016 / 2019 / 2022です。

申請・承認ワークフローシステム ＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞

CPU	2.5GHz※1以上、4コア8スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上（8GB以上推奨）
ハードディスク	30GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Internet Information Services　10.0、.NET 8.0、ASP.NET Core		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。

ファイル受渡しシステムサーバー ＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞

CPU	2.5GHz※1以上、4コア8スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	8GB以上
ハードディスク	20GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Internet Information Services 10.0、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。

残業申請Web承認システムWebサーバー※1

CPU	2.5GHz※2以上、2コア4スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上（8GB以上推奨）
ハードディスク	10GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Internet Information Services 8.0 / 8.5 / 10.0、Microsoft .NET Framework 4.6.2以降		

※1 残業申請Web承認機能を使用するには、リバースプロキシサーバー、またはロードバランサーが必要です。※2 定格周波数ではなく、最大周波数です。

残業申請Web承認システムデータベースサーバー

CPU	2.5GHz※1以上、2コア4スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上（8GB以上推奨）
ハードディスク	20GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2014 Express Edition SP3※2 / 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。※2 Microsoft SQL Server 2014に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019です。

在席確認・インスタントメッセージ機能サーバー ＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST）＞

CPU	2.5GHz※1以上、2コア4スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	20GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2014 Express Edition SP3※2 / 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。※2 Microsoft SQL Server 2014に対応するOSはWindows Server 2016 / 2019です。

モバイル情報収集サーバー※1 ＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/M1/S1H/S3H）＞

CPU	2.5GHz※2以上、4コア4スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）	メモリ	4GB以上
ハードディスク	20GB以上の空きがあること		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	Microsoft SQL Server 2019 Express Edition / 2022 Express Edition、Internet Information Services 10.0、Microsoft .NET Framework 4 / 4（日本語言語パック）/ 4.7.2		

※1 iOS対応の場合、インターネットに公開する必要があります。また、モバイル情報収集サーバーに対してはSSL（HTTPS）によって通信が行える必要があります。SSLの証明書には自己署名証明書もご利用いただけますが、商用のSSL電子証明書（有償）のご利用を推奨いたします。※2 定格周波数ではなく、最大周波数です。

モバイル情報中継サーバー ＜オプション（Ent/Pro/Tel/LT/500/ST/M1/S1H/S3H）＞

CPU	2.5GHz※1以上、2コア2スレッド以上（x86アーキテクチャまたはx64アーキテクチャ）※2 ※3	メモリ	2GB以上※4
ハードディスク	20GB以上の空きがあること※5		
OS	● Windows Server 2016 Standard、Datacenter　● Windows Server 2019 Standard、Datacenter　● Windows Server 2022 Standard、Datacenter　● Windows Server 2025 Standard、Datacenter		
ディスプレイ	1024×768 16bit Color以上	ネットワーク	TCP/IP通信ができるネットワークであること
その他	XmlLite ランタイム		

※1 定格周波数ではなく、最大周波数です。※2 マスターサーバーと同居することが可能です。その場合はマスターサーバーの動作条件に準じます。※3 端末台数1,001台以上の場合のスペックは、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご確認ください。※4 モバイル端末が1,000台以上の場合は、8GB以上のメモリが必要です。※5 モバイル端末が1,000台以上の場合は、40GB以上の空きが必要です。また、運用状況により異なります。

クラウド対応について※1※2※3

対応サービス（IaaS）	● IIJ GIO　● Amazon EC2※4　● 株式会社インテック製「EINS/SPS SelfPortal」　● 株式会社STNet「STクラウド サーバーサービス［FLEXタイプ］」　● NTT Com Enterprise Cloud　● ニフクラ　● FUJITSU Cloud Service for OSS　● Microsoft Azure Virtual Machines※4
以下のシステムについて、対応サービス（IaaS）上での動作をサポートいたします。 ● 管理機・端末機　● マスターサーバー・データサーバー　● ログ解析用サーバー / レポート用サーバー　● HTTPゲートウェイサーバー ● サーバー監査用モジュール / データベース監査用モジュール　● 申請・承認ワークフローシステム ● ファイル受け渡しシステム※5　● 資産データ / ログデータWeb閲覧機能サーバー※5　● モバイル情報収集サーバー　● モバイル情報中継サーバー	
対応サービス（DaaS）	● Amazon WorkSpaces　● Amazon AppStream　● Azure Virtual Desktop　● Windows 365※6
以下のシステムについて、対応サービス（DaaS）上での動作をサポートいたします。 ● 端末機	

※1 必要なインスタンスは、それぞれカタログに記載のハードウェアスペックに準じます。また、クライアント接続台数が同数であっても実際のシステムの負荷は大きく異なりますので、実際の負荷に合わせて適切なインスタンスを選択してご利用ください。※2 クラウド上と組織内のクライアントPCなどとの通信・ネットワークについては、カタログに記載の制限事項「利用するネットワークについて（P.93）」の条件に沿った構成での構築をお願いいたします。※3 クラウド利用時には、各クラウドサービス事業者が推奨する可用性の確保やデータバックアップの実施を強くお勧めいたします。※4 日本語版OSのほか、英語版のサーバーOSにも対応しています。ただし、別途日本語ランゲージパックのインストール、システムロケールの変更（日本語）、表示言語を日本語に設定する必要があります。※5 Microsoft Azure Virtual Machinesのみ対応しています。※6 タイムゾーンの設定を初期値から変更する必要があります。

ハードディスク空き容量について

画面操作録画のデータ容量 （1台1fpsの場合1時間で約20MB）	【常時録画】1日 8時間　約160MB（例. 端末機100台に対して3か月間ログを取った場合 … 約1,440GB） 【検知録画】1日（約2時間※1）約40MB（例. 端末機100台に対して3か月間ログを取った場合 … 約360GB）
ログデータ容量※2	1日 約1MB※3

※1 検知録画の設定によっては、常時録画に近い容量が必要になる場合があります。※2 ログデータを圧縮していない場合の参考値です。※3 事務作業など一般的な業務利用の場合です。ご利用環境によっては、1日約5MB以上になる場合があります。メール送信ログ、クリップボードログは、この参考値の範囲に含みません。

制限事項

2025年6月3日時点の情報です。最新情報は、Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/ver20/limit/）でご覧いただけます。
SKYSEA Client Viewの技術資料については、Webサイト（https://www.skyseaclientview.net/ver20/technicalsheet）でご覧いただけます。

動作環境について

OSについて

- 英語版OSには、端末機の一部機能のみ対応となります。アンケート・注意表示等の各種表示は日本語になります。正しく表示させるためには別途日本語ランゲージパックのインストール、システムロケールの変更（日本語）、表示言語を日本語に設定する必要があります。
- 64bit版OSおよび英語版OSの対応ソフトウェアは、記載されている製品の中で、64bit版OSおよび英語版OSそれぞれに対応しているソフトウェアのみとなります。
- 「動作環境（P.87～92）」に記載のOSは、サービスパックまで指定されたもののみ対応となります。その他のエディションについては、別途お問い合わせください。
- SKYSEA Client View端末機（Windows）がインストールされたサーバーにおいて、「サーバーの役割と機能」から追加可能なすべての役割や機能に対して正常動作を保証することはできません。現状、フェールオーバークラスタリング機能ではフェールオーバーが正しく行われない場合があります。詳しくは、Sky株式会社（以下、弊社）までお問い合わせください。
- Windows標準動作のターミナルサービスを停止している場合、SKYSEA Client Viewの一部機能が利用できません。弊社までお問い合わせください。
- Windows 2000環境でウイルスバスターコーポレートエディション10.0と併用する場合、SKYSEA Client Viewが正常に動作しない場合があります。詳しくは、弊社までお問い合わせください。
- Windows RTには対応していません。
- Mac端末対応に関する制限事項については、「Mac端末運用管理について（P.102）」をご覧ください。
- Windows 8.1における、「Assigned Access Mode」での動作およびNFC（Near Field Communication）による印刷はサポートしておりません。
- Windows 10のタブレットモードでは、SKYSEA Client Viewの管理機は非対応です。
- Windows 10以降の場合、SKYSEA Client Viewがインストールされた状態でのプロビジョニング パッケージ（.ppkg）の利用、デバイスガード、企業データの保護（EDP）には非対応です。
- Windows 10以降の対応バージョンについては、Webサイトの「技術資料ダウンロード」-「OS対応表」をご確認ください。
- SKYSEA Client View端末機（Windows）がインストールされた端末の、Windows 10未満からWindows 10へのアップデートについては、元のOSがWindows 7以降の場合にのみ対応しています。それより前のOSの場合は、SKYSEA Client Viewをアンインストールした上で、OSのアップデートを行ってください。
- SKYSEA Client View端末機（Windows）がインストールされた端末の、Windows 11へのアップデートについては、元のOSがWindows 10の場合にのみ対応しています。それより前のOSの場合は、SKYSEA Client Viewをアンインストールした上で、OSのアップデートを行ってください。
- SKYSEA Client View端末機（Mac）がインストールされている端末の、macOS Sierraへのアップデートについては、元のOSが、OS X El Capitanの場合のみに対応しています。それ以外のOSの場合は、SKYSEA Client Viewをアンインストールした上で、OSのアップデートを行ってください。
- Windowsコンテナには非対応です。
- Windowsサンドボックスには、SKYSEA Client Viewを構築できません。
- SHA-2形式のコード署名がサポートされていない環境では、一部の機能をご利用いただけません。

利用するネットワークについて

- ほかの通信により、SKYSEA Client Viewが利用可能な帯域幅が確保できない場合には、本ソフトウェアを正常にご利用いただけない場合があります。
- ネットワークについては、TCP / IPによって、クライアント同士およびクライアントとサーバー間が相互に通信できる必要があります（NAT環境については、お客様のネットワークによってご利用いただける場合がございます。詳しくは、弊社までお問い合わせください）。
- ネットワークについては、HUBやルーター、クライアントファイアウォールなどにおいて、SKYSEA Client Viewが使用する通信ポートは相互に通信できるように設定していただく場合があります。

メモリについて

- 本ソフトウェアをクライアントPCに導入される場合には、本ソフトウェアが動作するために十分なメモリ容量が必要です（業務で利用するアプリケーションなどで搭載されているメモリが使われてしまっている場合には、動作しない、動作が極端に遅くなるなどの可能性があります）。

サーバーについて

- サーバーについては、SKYSEA Client Viewのみが動作するサーバーをご用意ください。Active Directoryの管理、ファイル・プリンターの共有なども含め、ほかの用途で利用されるサーバーとの共存利用は行わないようにしてください。サーバーの増設が難しい場合は仮想化も可能ですのでご検討ください。
- サーバーが複数台設置される環境下ではSKYSEA Client Viewのバージョンは同一のバージョンでご利用ください。また、アップデートを行う際はバージョンを統一してからご利用ください。
- クライアントの台数分のCAL（クライアントアクセスライセンス）が必要です。

データサーバーの台数について

- クライアントの利用状況により、負荷は大幅に異なります。
- 適正台数については、クライアント側の使用頻度などについて、十分な調査の上、適切な台数算出と配置をお願いいたします。

各種収集したログのディスク使用量について

- クライアントの利用状況により、収集されるログサイズは大幅に異なります。
- ログを収納するディスク容量を算出する際には、クライアント側の使用頻度などについて、十分な調査の上、必要なログのディスク容量を算出していただきますようお願いいたします。

管理機について

- エンタープライズモードおよびソフトウェア資産管理（SAM）機能は、Windows 2000 SP3ではご利用いただけません。
- Windows 2000 SP4でご利用の場合は、「Windows 2000 SP4用の更新プログラムロールアップ 1」の適用が必要です。
- 送信メールログの添付ファイル追跡をWindows 2000の管理機で行う場合は、Windows 2000 Professional SP4とWindows 2000 SP4用の更新プログラムロールアップ 1を適用してください。また、Windows XPの管理機で行う場合は、Professional SP2以降を適用してください。

申請・承認ワークフローシステムについて

- 「申請・承認ワークフローシステム」の一部の機能は、Webブラウザの拡張機能（アドオン）を用いて実現しています。Webブラウザのバージョンによっては、それらの機能が正しく動作しないことがあります。
- Windows Vista以前のOS環境でご利用になる場合には、一部機能制限がございます。
- プロキシサーバー経由で本システムに接続する場合、一部の機能をご利用いただけません。

本商品とその他ソフトウェアとの動作について

- 再起動ごとにハードディスクの内容を復元する環境修復ソフトウェアをお使いの場合は、本ソフトウェアが正しく動作しない場合があります。
- OS（ファイルシステム）を経由しないファイル操作や特殊な処理を行っているアプリケーションによるファイル操作など、操作ログの取得が行えないため、アラート設定や記憶媒体の制御などSKYSEA Client Viewが正常に動作しない場合があります（暗号化ソフトウェアやデバイス制御ソフトウェア（秘文AE/IC・IF等）が該当します）。

Windows To Go について

- デバイス管理、セキュリティ管理、ログ管理などの一部機能は、Windows To Go導入済みのデバイスに対応していません。

その他

- TOE（TCP / IP Offload Engine）を無効にしてご利用ください。
- ビデオカードの種類によりリモート操作や管理機の利用が正常に行えない場合があります。
- Windowsのフォントサイズを標準と異なる値に設定されている場合には、GUI画面が正しく表示されない場合があります。
- Windows XPモードの仮想マシン上にインストールされたSKYSEA Client Viewはクライアントライセンスを消費しませんが、そのためにはWindows Virtual PCの「統合機能」を有効にしておく必要があります。
- HTTPゲートウェイサーバーや資産データ / ログデータ Web閲覧機能サーバーなどの環境を構築するにはJavaが必要です。
- SKYSEA Client Viewは一部機能のみ「Unicode」に対応しています。そのため、非対応の機能において「Shift_JIS」で表現できない文字が存在する場合は、「?」に変換されて表示されます。

Microsoft Office製品用のアドイン（Officeアドイン）について

- 次の機能はOfficeアドインによって提供されます。
  - ○ Microsoft Exchange接続による送信メールログ取得
  - ○ Microsoft Exchange Online接続による送信メールログ取得
  - ○ SMTP over SSL / TLSによる送信メールログ取得
  - ○ Microsoft Word / Excel / PowerPointの「名前を付けて保存」時のログ取得
  - ○ Microsoft Word / Excel / PowerPointのプリントログの印刷ファイルパス取得
  - ○ メール送信宛先フィルタリング
  - ○ メール添付ファイルの自動暗号化
  - ○ メール添付ファイルの自動削除
- OfficeアドインにはSKYSEA Client View Ver.9で追加されたアドインと、Ver.8.2以前のアドインがあります。
- SKYSEA Client View Ver.9以降のアドイン、Ver.8.2以前のアドイン共通
  - ○ Windows XP Professional SP1には対応していません。
  - ○ Microsoft Office製品のセキュリティ設定のレベルによっては、SKYSEA Client Viewのアドインが読み込まれず、アドインによって提供される機能がお使いになれない場合があります。
  - ○ Windows ストアアプリ版のMicrosoft Office 2016 / 2019 / 2021 / 2024には対応していません。
  - ○ SMTP over SSL/TLSによる送信メールログは、SMTP接続による送信メールログと合わせて重複して取得されます。
- SKYSEA Client View Ver.8.2以前のアドインについて
  - ○ ログを収集するには「Microsoft .NET Framework 2.0」のインストールが必要です。端末機のOSがWindows 2000の場合は「Microsoft .NET Framework 1.1」も必要です。Microsoft Office 2010の64bit版を利用する場合には、「Microsoft .NET Framework 3.5」のインストールが必要です。Microsoft Office 2013を利用する場合は、「Microsoft .NET Framework 3.5」または「Microsoft .NET Framework 4.0」が必要です。
  - ○ インターネット接続ができない環境では、Microsoft .NET Frameworkの挙動により、Microsoft Office製品の起動に時間がかかる場合があります。
  - ○ インターネット接続ができない環境では、Microsoft Wordの起動に時間がかかる場合があります。詳細については、Microsoft社のサポートページをご確認ください。
  - ○ Microsoft Outlook 2003をご利用の場合、「KB2293428」の更新プログラムが適用されていると送信メールログの収集が行えません。回避方法に関しては、弊社までお問い合わせください。
  - ○ Officeアドイン設定で、Ver.8.2以前のアドインが選択されている場合でも、Microsoft Office 2016以降がインストールされている端末では、Ver.9.0以降のアドインが使用されます。

資産管理について

ウイルス対策ソフトウェアについて

- ウイルス対策ソフトウェアの情報が収集できる製品は、以下の製品のみです。
  - ○ ESET：NOD32 AntiVirus 14.0～18.0、ESET Internet Security 14.0～17.0、ESET Endpoint Security、ESET Endpoint アンチウイルス、ESET Server Security for Microsoft Windows Server
  - ○ サイバーリーズン・ジャパン株式会社：Cybereason NGAV
  - ○ 株式会社ノートンライフロック：Norton AntiVirus 2006～2012
  - ○ Musarubra Japan 株式会社（Trellix）：McAfee VirusScan Enterprise 8.7i～8.8、McAfee Total Protection Service v5.0、McAfee SaaS Endpoint Protection、McAfee Endpoint Security 10（ただし、McAfee Endpoint Security 10に関しては、インストール時に「Threat Prevention:脅威対策」項目のチェックボックスをオフにした場合、プログラムバージョンのみが収集されます。）
  - ○ トレンドマイクロ株式会社：ウイルスバスター 2008～2010、ウイルスバスター コーポレートエディション 7.3～11.0 SP1 / XG、Trend Micro Apex One（オンプレミス版 / SaaS版）、Trend Vision One Endpoint Security、Trend Micro ビジネスセキュリティ 6.0、ウイルスバスター ビジネスセキュリティ 7.0～10.0、ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス、Trend Micro SaaS Endpoint Security for K-12 RM、ServerProtect for Linux 3
  - ○ Broadcom社：Symantec AntiVirus Corporate Edition 10.0～10.2、Symantec Endpoint Protection 11.0～12.1
  - ○ 日本マイクロソフト株式会社：System Center 2012～2019、Forefront Endpoint Protection 2010、Security Essentials
- 検索エンジンバージョン、プログラムバージョン、パターンファイルバージョンのみ収集できる製品は、以下の製品のみです。
  - ○ ウィズセキュア株式会社：WithSecure Linux Security 64、WithSecure Elements EPP Linux Protection
- 検索エンジンバージョン、パターンファイルバージョン、パターンファイル更新日時のみ収集できる製品は、以下の製品のみです。
  - ○ Microsoft Defender
- プログラムバージョン、パターンファイルバージョン、パターンファイル更新日時のみ収集できる製品は、以下の製品のみです。
  - ○ WithSecure Client Security 15～16、WithSecure Client Security Premium 15～16、WithSecure Server Security 15～16、WithSecure Server Security Premium 15～16、WithSecure Email and Server Security 15、WithSecure Email and Server Security Premium 15、WithSecure Elements EPP Computers Edition、WithSecure Elements EPP Computers Premium Edition、WithSecure Elements EPP Servers Edition、WithSecure Elements EPP Servers Premium Edition
  - ○ ヴイエムウェア株式会社：Carbon Black Cloud Sensor
  - ○ Symantec Endpoint Protection 14～14.3
  - ○ Norton AntiVirus、ノートンアンチウイルスプラス、ノートンインターネットセキュリティ、ノートンセキュリティ、ノートン360
- プログラムバージョンとパターンファイル更新日時のみ収集できる製品は、以下の製品のみです。
  - ○ 株式会社カスペルスキー：カスペルスキー スタンダード、カスペルスキー プラス、カスペルスキー プレミアム、カスペルスキー アンチウイルス 2012～2015、カスペルスキー インターネットセキュリティ 2012～2021、Kaspersky Endpoint Security for Windows 8～12
  - ○ ウイルスバスター 2011～2012、ウイルスバスタークラウド
- プログラムバージョンのみ収集できる製品は、以下の製品のみです。
  - ○ パロアルトネットワークス株式会社：Traps
  - ○ Kaspersky Endpoint Security for Linux 8～12
  - ○ McAfee Endpoint Security（Linux版）、McAfee VirusScan Enterprise for Linux 1.6.0～2.0
  - ○ Symantec Endpoint Protection Linux版 12.1～14.3

※詳しい対応状況については、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご覧ください。

Microsoft Officeについて（Windows版）

- Microsoft Office状況として、ソフトウェア情報が収集できるWindows版のバージョンは、以下のバージョンのみです。
  - ○ 対応オフィスソフトウェア Microsoft Office 2000 / XP / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024

  ※ただし、プロダクトキーの収集は、Microsoft Office 2010以降に対応しています。また、Windows端末のみ対応しています。
- 以下のバージョンは、Microsoft Office状況として、ソフトウェア情報が収集できません。通常のアプリケーションとしてのソフトウェア情報の収集となります。
  - ○ クイック実行でインストールされたMicrosoft Office 2013 / 2016のAccess以外の単体製品
  - ○ クイック実行でインストールされたMicrosoft Office 2019 / 2021 / 2024の単体製品
  - ○ Windows ストアアプリ版のMicrosoft Office 2016 / 2019 / 2021 / 2024
  - ○ Microsoft Office Visio製品
  - ○ Microsoft Office Project製品
  - ○ Microsoft Office SharePoint Design
- SKYSEA Client Viewで収集可能なMicrosoft Office 2010 / 2013 / 2016のプロダクトIDは、Microsoft Officeの画面上で表示されるプロダクトIDとは異なります。
- インストール日の日付は、Microsoft Update等によって、初回インストール以後に更新される場合があります。
- Microsoft Office（2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024）のクイック実行によるインストールでは、プロダクトID、GUID、プリインストールの項目について、収集可能な情報がないため収集できません。
- Microsoft Outlookを「新しいOutlook」に切り替えている場合は、送信メールログの取得に対応していません。

Autodesk社製ソフトウェアについて

- シリアル番号が取得できる製品は以下のとおりです。なお、2017以降の製品については、シリアル番号は取得できません。
  - ○ AutoCAD 2010 / 2011 / 2012 / 2013 / 2014 / 2015 / 2016
  - ○ AutoCAD Electrical 2010 / 2011 / 2012 / 2013 / 2014 / 2015 / 2016
  - ○ AutoCAD Mechanical 2010 / 2011 / 2012 / 2013 / 2014 / 2015 / 2016
  - ○ AutoCAD Map 3D 2010 / 2011 / 2012 / 2013 / 2014 / 2015 / 2016
  - ○ AutoCAD Civil 3D 2010 / 2011 / 2012 / 2013 / 2014 / 2015 / 2016
  - ○ AutoCAD LT 2010 / 2011 / 2012 / 2015 / 2016
  - ○ Autodesk Inventor 2010 / 2011 / 2012 / 2013 / 2014 / 2015 / 2016

資産管理について

Web会議システムについて	● Web会議システムの情報が収集できる製品は以下のとおりです。 ○ Amazon Chime ○ Cisco Webex ○ Microsoft Teams ○ Slack ○ Zoom
ネットワーク機器情報収集について	● 情報が収集できるのは、収集を行う管理機から「net view」コマンドによって探索できるドメイン / ワークグループ内の端末のみです。ネットワーク探索とファイル共有が無効になっている場合など、「net view」コマンドで探索できない端末の情報は収集できません。 ● SKYSEA Client View以外の不許可端末検知ソフトウェア / 機器で検知した端末の情報は収集されません。 ● MACアドレスが収集できない端末の情報は収集されません。 ● ネットワーク機器の自動収集設定と不許可端末検知の両方が有効な場合において、以下の端末の情報は収集されません。 ○ 「不許可端末検知設定」で「許可ハードウェア」として登録されている端末 ○ 「許可 / 不許可ハードウェアー覧」への自動登録の除外対象に設定されているIPアドレスの端末 ● ネットワーク経路情報を収集するには、経路上の機器の各種MIB情報をSNMPで取得できる必要があります。 ● 本機能は、組織外の機器の情報収集を目的としたものではありません。 ● IPv6が割り当たる機器情報の収集には非対応です。
プリンターについて	● プリンターのIPアドレスが取得できるのは、Windows端末に直接接続されているネットワークプリンターで、レジストリにIPアドレス情報が存在する場合のみです。 ● Linux端末では、CUPSと呼ばれる印刷システムより情報を取得します。そのため、CUPS以外の印刷システムが使用されている場合は、プリンター情報は収集できません。
ソフトウェア配布について	● 配布 / インストールできるアプリケーションは、弊社にて「ソフトウェア情報」をご提供しているアプリケーションに限ります。 ● ソフトウェア配布中継機能をご利用にあたり中継のためのクライアントPCに別途、ソフトウェア配布中継用モジュールのインストールが必要です。 ● VBScriptが無効化されているPCに対しては、ソフトウェア配布機能をご利用いただけません。 ● Windows ストアアプリは配布できません。 ● Windows XPモードや仮想環境上の端末機、Windows 8 / Windows 8.1で高速シャットダウンした（ハイブリッドブートが有効な）端末機については、電源オプションを設定しても、配布時に電源をONにできません。 ● 配布時にマスターサーバーとは異なるセグメントの端末機の電源をONするには、各セグメントに少なくとも1台のソフトウェア配布用中継端末があり、マスターサーバーと通信できる必要があります。中継端末とマスターサーバーがHTTP（S）接続の場合は、ご利用いただけません。 ● マルチキャスト配布を利用する場合、ネットワーク環境によっては、警告が発生したり、通信に影響を与えたりする恐れがあります。必ず事前にご利用のネットワーク環境についてご確認ください。 ● スリープ（またはInstant Go）状態のPCに対してソフトウェア配布を行うには、配布対象のPCで次の設定が行われている必要があります。 ○ ソフトウェア配布設定で、スリープから復帰する時刻を設定されていること。 ○ 「Instant Go」が搭載されているPCの場合、「Instant Go」機能が有効になっていること。搭載されていないPCの場合、「スリープ解除タイマーの許可」が有効になっていること。 ○ 「ハイブリッドスリープを許可する」が有効になっている場合に、休止状態に移行していないこと。
省電力設定について	● Windows Server 2003 / Windows Server 2008 / Windows Server 2012などのサーバーOSは、省電力設定の対象外となります。
電源OFFスケジュール機能について	● マスターサーバーおよび、サーバーOS上の端末機は、本機能の対象外です。
資産データWeb閲覧機能について	● 資産データWeb閲覧機能は、Firefox、Google Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）に対応しています。 ● Windows Vista以前のOS環境でご利用になる場合には、一部機能制限がございます。
その他	● Windows更新プログラム適用状況は、スタンドアロン端末は非対応です。 ● 実行ファイル情報を収集する「実行ファイル情報設定」は、Mac、Linux非対応です。また、電子証明書による収集設定は、Windows 2000でご利用いただけません。 ● macOS 10.13（High Sierra）以降のOSでは、資産情報の「スクリーンセーバーのパスワードによる保護」が収集できません。

ログ管理について

Webアクセスログについて	● Web閲覧（ダウンロード）ログは、Internet Explorer 5.5 SP2 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11、Mozilla Firefox 3～139、Google Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）の弊社製品リリース時の安定版に対応しています。Windows ストアアプリのGoogle Chromeには対応していません。 ● Mozilla FirefoxやGoogle Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）を使用したWebアクセスログ収集を行う場合、Webブラウザのバージョンや環境によっては、SKYSEA Client Viewの拡張機能（アドオン）をユーザーが有効にする必要があります。Webブラウザの仕様が変更された場合は、ログ収集機能をご利用いただくことができなくなる恐れもあります。 ● ご利用のSKYSEA Client ViewおよびMozilla Firefoxのバージョンによっては、アドオン一覧画面に「未検証」の警告が表示されることがあります。 ● Mozilla FirefoxやGoogle Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）は、FTPアップロードログには対応していません。 ● Google ChromeやMicrosoft Edge（Chromium版）を使用したシークレットモードでのWebアクセスログ収集を行う場合、非ドメイン環境では拡張機能（アドオン）をユーザーが有効にする必要があります。 ● 「localhost」に対してHTTP通信が行えない環境で、Google ChromeもしくはMicrosoft Edge（Chromium版）を使用したWebアクセスログ収集を有効にした場合、書き込みやファイルアップロード / ダウンロード操作を一律で禁止するよう制御します。本環境ではこれらのログ収集や使用制限が正しく行われない場合があるためです。SKYSEA Client Viewでも「localhost」の除外設定を追加しますが、グループポリシーや自動プロキシ構成スクリプトなどで上書きされる場合があるため、ご利用環境に応じて「localhost」を除外してください。 ● Internet Explorerの「Webダウンロード」アラートログの収集を有効にしている環境では、アドオンなしのInternet Explorerの起動を禁止します。ピン留めサイト / 固定サイトのショートカット（*.website）からの起動もできなくなります。 ● Adobe Flash Playerを利用するWebアップロードのログは取得できません。 ● Microsoft Edge（EdgeHTML版）は、20.10240.16384.0 / 25.10586.0.0 / 38.14393.0.0 / 39.15002.1001.0 / 40.15025.1000.0 / 40.15063.0.0 / 41.16299.15 / 42.17134.1.0 / 44.17763.1.0 / 44.18356.1.0 / 44.18362.1.0 / 44.18362.387.0 / 44.18362.449.0 / 44.19041.0.0 / 44.19041.1.0 / 44.19041.423.0のバージョンのみ対応しています。 ● Microsoft Edge（Chromium版）で画面分割を使用している場合、Webアクセスログを取得できません。 ● Microsoft Edge（EdgeHTML版）では、操作種別が「Webアクセス」以外のWebアクセスログは取得できません。 ● Microsoft Defender Application Guardを使用した場合、Microsoft Edge（EdgeHTML版）のログは取得できません。

ログ管理について

Gmail ウェブメール サービス（以下略称）送信ログについて	● 「Gmail送信」ログは、「Webアクセス」ログとして収集します。そのため「送信メール」ログ関連の機能には対応していません（「電子メール送信」アラート、「電子メール送信宛先フィルタ」アラート、「添付ファイル保存」、「送信メール本文検索」など）。 ● 対応しているGmail送信画面は「標準HTML形式」および「簡易HTML形式」です。 ● 対応しているWebブラウザは、「Webアクセスログについて（P.95）」の「Web閲覧（ダウンロード）ログ」の対応ブラウザをご覧ください（ただしInternet Explorer 5.5 SP2を除く）。 ● Internet Explorer 11（デスクトップアプリ）のエンタープライズモードは、送信メールログの取得に対応していません。 ● Google ChromeではJavaScriptを有効にしてください。Google Chromeの仕様が変更された場合は、ログ収集機能をご利用いただくことができなくなる場合があります。 ● ログ取得対象となるGmailの言語は、日本語のみです。
Microsoft 365 / Office Onlineのログ収集について	● Word Online / Excel Online / PowerPoint Onlineのファイル作成ログとOutlook Web App / Outlook.comのメール送信ログが、「Webアクセス」ログとして収集できます。 ● Outlook Web App / Outlook.comのメール送信ログは、「Webアクセス」ログとして収集します。そのため「送信メール」ログ関連の機能には対応していません（「電子メール送信」アラート、「電子メール送信宛先フィルタ」アラート、「添付ファイル保存」、「送信メール本文検索」など）。 ● Internet Explorer 11（デスクトップアプリ）のエンタープライズモードは、送信メールログの取得に対応していません。 ● Outlook Web App / Outlook.comのメール送信ログを取得するには、JavaScriptの設定を有効にしてください。 ● WebアクセスのFTPダウンロードログは非対応です。 ● OneDriveの同期によるMicrosoft 365のWebダウンロードについては、ログが複数出力される場合があります。 ● OneDriveへのファイル保存は、ログとして記録されない場合があります。 ● Microsoft 365 / Office Onlineの仕様が変更された場合は、ログ収集機能をご利用いただくことができなくなる場合があります。 ● 「Windows 10 1903」以降のスタートメニューから起動可能な「Word」や「Excel」は、Microsoft Edge（EdgeHTML版）により起動されるため、ログ収集の対象外です。
FTPアップロードログについて	● FTPアップロードログを取得できるのは、以下の条件となります。 ○ 利用クライアントが、FFFTP 1.96～5.8、NextFTP 4、Internet Explorer 5.5 SP2 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11であること。 ○ Socksプロトコルを経由しないFTP接続であること。Socksプロトコルを経由するとアップロード自体が行えません。 ○ FTPS（File Transfer Protocol over SSL/TLS）には対応していません。
送信メールログについて	● Windows ストアアプリによるメール送信ログは、SMTPにのみ対応しています。SMTP over SSL / TLS、およびExchange接続には対応していません。 ● SMTP接続による送信メールで取得できるのは、以下の条件となります。 ○ 利用クライアントが、Microsoft Outlook 2003～2024 / 365、Microsoft Outlook Express 6、Windowsメール、Becky! Internet Mail Ver.2、Mozilla Thunderbird 2.0～136.0、Windows Live メール、メール（Windows 8以降の標準Windows ストアアプリ）、Mail（Mac OS Xの標準アプリ）であること。 ○ 暗号化されていないSMTPによりメール送信が行われていること。 ● SMTP over SSL / TLS、またはExchange接続による送信メールで取得できるのは、以下の条件となります。 ○ 利用クライアントが、Microsoft Outlook 2003～2024 / 365であること。 ○ 本機能では専用のアドインを使用します。アドインに関する制限事項は「Microsoft Office製品用のアドイン（Officeアドイン）について（P.94）」をご覧ください。 ○ 送信済みアイテムに保存されるメッセージがログ取得の対象となります。 ○ Outlookの機能「会議」「タスク」「フィードの共有」に関するログを取得するには、ログ設定で使用するOfficeアドインをVer.9.0以降に設定する必要があります。 ● Webメール、グループウェアメールなどの接続方法は送信メールログとして取得することはできません（Webメールは、Webアクセスログとして、取得することができます）。 ● Microsoft Word、Microsoft Excelなど、メールソフトウェア以外からのメール送信は、送信メールログとして取得することができません。 ● Microsoft Outlookを「新しいOutlook」に切り替えている場合は、送信メールログの取得に対応していません。
ファイル操作ログについて	● OSを経由しないファイル操作や特殊な処理を行っているアプリケーションによるファイル操作など、ファイル操作ログが取得できない場合があります。 ● 暗号化ソフトウェアをご利用の場合、暗号化ソフトウェアが暗号化や復号処理を行うため、ファイル操作ログを取得できない場合があります。 ● コマンドプロンプト上でのログ収集に対応しているコマンドは、次のとおりとなります。COPY/DEL/ERASE/MD/MKDIR/MOVE/RD/REN/RENAME/REPLACE/RMDIR/SORT/XCOPY/EXPAND/ECHO/FSUTIL/リダイレクト（DIR > DIR.TXTなど） ● Windows PowerShellでのログ収集に対応しているコマンドは、次のとおりとなります。Copy-Item/MkDir/Move-Item/New-Item/Remove-Item/Rename-Item/リダイレクト（DIR > DIR.TXTなど） ※その他の動作についてはお問い合わせください。 ● 上書き保存ログは、ファイルの更新が行われ、ファイルを閉じたときに生成されます。 ● 上書き保存ログは、OSやアプリケーションが自動的に行ったファイルの更新処理についても生成されます。 ● 操作上は上書きであっても、実際の動作としてはファイルの生成およびファイル名変更である場合、上書き保存ログは生成されません（ただし、Microsoft Word / Excel / PowerPointについては、上書きとしてのログも記録されます）。 ● ファイル参照ログは、Windows の「最近使ったファイル」/「最近使った項目」に登録されるファイルのみが対象です。また「最近使ったファイル」/「最近使った項目」が更新されない場合はログが取得できません。 ● Microsoft OneDriveの同期処理によるファイル操作ログは取得できません。 ● Microsoft OneDrive、Microsoft OneDrive for Business、Dropboxの仕様が変更された場合は、「Webストレージ」などのログ項目が収集できなくなる可能性があります。 ● Windows 8 / 8.1の「ファイル履歴」機能によるファイル操作ログは取得できません。 ● Windows XP以前のクライアントOS、Windows Server 2008以前のサーバーOSでは、Windowsポータブルデバイス（MTP / PTP接続のデバイス）に対するファイル操作ログが取得できません。 ● Windows Vistaでも、次の条件を満たしていない場合は、上記の制限事項が適用されます。 ○ Service Pack 2と「KB2761494」に加え、「KB971514」または「KB971644」のWindows更新プログラムがインストールされていること。 ● Windowsポータブルデバイス上のファイルの「ファイル参照」ログ、およびファイルサイズは取得できません。また、操作によってログの出力内容が特殊になる場合があります。 ● ZIPファイル内のファイル情報の収集設定は、Windows端末、スタンドアロン端末のみ対応しています。対応OSは、Windows XP SP2以降のOS、Windows 2000 SP4 + Update Rollup 1、Windows Server 2003 SP1以降のOSとなります。また、利用する圧縮ソフトウェアや指定した形式によっては、ログが取得できないことがあります。
ファイルアクセスログについて	● ネットワークやOSの負荷状況によっては、ファイルアクセスログが取れない場合があります。 ● ウイルス対策ソフトウェアとの相性により、ファイルアクセスログが取れない場合があります。 ● TOE（TCP / IP Offload Engine）を無効にしてご利用ください。ファイルアクセスログが取れない場合があります。 ● マルチセッション環境下からのアクセスによるファイルアクセスログは、アクセスユーザーの情報が正しく取得できない場合があります。 ● 共有フォルダに対するファイル操作の通信が、NICチーミングされた仮想ネットワークアダプタを流れない場合は、ファイルアクセスログが取得できません。
ファイル操作ログ / ファイルアクセスログについて	● ファイルサイズ'情報は、操作種別やタイミングによっては取得できない場合があります。

ログ管理について

「名前を付けて保存」時のログについて	● 「名前を付けて保存」時のログ収集に対応したMicrosoft Office製品のバージョンは、次のとおりです。 ○ Microsoft Word 2002 / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365 ○ Microsoft Excel 2000 / 2002 / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365 ○ Microsoft PowerPoint 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365 ● 本機能では専用のアドインを使用します。アドインに関する制限事項は「Microsoft Office製品用のアドイン（Officeアドイン）について（P.94）」をご覧ください。
プリントログについて	● 印刷ファイルパス取得に対応したMicrosoft Office製品のバージョンは、次のとおりです。 ○ Microsoft Word 2002 / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365 ○ Microsoft Excel 2000 / 2002 / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365 ○ Microsoft PowerPoint 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365 ● 対応しているMicrosoft Office製品の印刷ファイルパス取得では専用のアドインを使用します。アドインに関する制限事項は「Microsoft Office製品用のアドイン（Officeアドイン）について（P.94）」をご覧ください。 ● ログ収集設定によっては、Windows ストアアプリによるプリントログが取得できなかったり、一部の項目が取得できない場合があります。Windows ストアアプリ以外では、Microsoft EdgeやInternet Explorer 10でも同様の制限があります。 ● プリンターにデータが送られた時点で、プリントログとして記録されるため、実際にプリンターで印刷が完了されたかどうかは、ログから確認することはできません。 ● プリンターのIPアドレスが取得できるのは、Windows端末に直接接続されているネットワークプリンターで、レジストリにIPアドレス情報が存在する場合のみです。 ● ファイルの種類やアプリケーションによっては、印刷ファイルパスが正確に取得できない場合があります。 ● Windows ストアアプリは印刷ファイルパス取得に対応していません。
アプリケーションログについて	● 仮想DOSマシンで実行されるアプリケーションは、アプリケーションログとして取得することができません。 ● Windows 2000では、アプリケーションログの起動元プロセス情報は取得できません。 ● Windows PowerShell ISEで実行したコマンドのログは取得できません。 ● command.comで実行したコマンドのログは取得できません。 ● コマンド実行で起動したアプリケーションとの対話によるサブコマンドの実行は取得できません。 ● バッチファイル内でさらに別のバッチファイルを呼び出した場合、呼び出されたバッチファイルのコマンドのログは取得できません。
スタンドアロン端末機ログ収集について	● スタンドアロン端末機ログ収集をご利用の場合、データサーバーが必要です。 ● 対象のクライアントPC（Windows のみ）に別途、スタンドアロン端末機用モジュールのインストールが必要です。
通信デバイス接続ログについて	● Bluetoothデバイスのログ取得（およびデバイスの使用禁止）を行うには、Microsoft標準のBluetoothドライバーが必要です。 ● Microsoft標準のBluetoothドライバーの場合でも、OSのバージョンによっては、以下の制限があります。 ○ Windows XP SP1以前のOSでは、Bluetoothデバイスの接続ログが出力できません。 ○ Windows XP SP3以前のOSでは、Bluetoothデバイス種別ごとの禁止は行えません（Bluetoothアダプタの無効化により、すべてのBluetoothデバイスが使用禁止になります）。 ○ Bluetooth LE（Bluetooth Low Energy）デバイスには対応していません。
Web / アプリケーションアカウント監査について	● Windows端末のみ対応しています。ただし、スタンドアロン端末は非対応です。 ● 次のOSではMicrosoft .NET Frameworkアプリケーションのログが取得できません。 ○ Windows 2000の場合、Windows XP SP2以前またはSP3で「KB971513」が適用されていない場合、Windows Vista SP1以前またはSP2で「KB971513」が適用されていない場合 ● 対応しているWebブラウザは、「Webアクセスログについて（P.95）」に記載されているブラウザのうち、Internet Explorer 5.5 SP2、Mozilla Firefox 3.0 / 3.5以外です。 ● Windows ストアアプリ、Windows Presentation Foundation （WPF）アプリ、ブラウザのWindowsネイティブ認証（基本認証）はログが取得できません。また、その他アプリケーションの画面やWebサイトのページの構成によっては、ログが取得できない可能性があります。
ログ解析について	● インストール時には、IIS6.0または、IIS7.0 / IIS7.5 / IIS8.0および、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1が必要となります。
CD / DVD / ブルーレイライティングソフトウェアについて	● Windows XP / Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 / Windows 10 / Windows 11のエクスプローラによるライティングに対応しています。Windows Vista以降のOSでは、マスターディスク形式にのみ対応しており、ライブファイルシステム形式には対応していません。また、Windows XPのブルーレイは非対応です。 ● CD書き込みログは、ISOファイルなどのディスクイメージの書き込みには対応しておりません。ライティングソフトウェア製品のディスクイメージ書き込み機能などを使用してメディアに書き込まれたファイルは、ログに残りません。ただし、「Windows ディスク イメージ書き込みツール」については、利用したイメージファイル名が記録されます。 ● ライティングソフトウェアの対応製品は以下のとおりです。（※ブルーレイにも対応） ○ BlindWrite 5 ○ B's Recorder GOLD 5/7/9（※）/11（※）/13（※）/16 ○ CD Manipulator 2.70 Final ○ Clone CD 5.3.0.1 ○ Clone DVD 2.9.0.9 ○ CopyToDVD 3.1.3.137 ○ Corel VideoStudio Pro X5（※） / X9（※） ○ CyberLink Power2Go 6（※） / 10（※） / 13 ○ Easy Media Creator 9 / 10（※） ○ Inter Video DVD Copy 5 Platinum / Gold ○ Nero 7 / 8 ○ PowerProducer 5 Ultra（※） ○ Sonic RecordNow 9（※） ○ WinCDR 9.0 ○ WinCDR Lite Ver.2 ○ Windows DVD メーカー ○ Windows ディスク イメージ書き込みツール ● ライティングソフトウェア（パケットライト方式）の対応製品は以下のとおりです。ただし、書き込み制限には対応していますが、CD書き込みログの取得には対応していません。（※ブルーレイにも対応） ○ B's CLiP 5/7 ○ CyberLink InstantBurn 5（※） ○ Easy Media Creator 9（Drag-to-Disc）（※） ○ RecordNow 9（Drag-to-Disc）（※） ○ Nero InCD 5 ● Corel Video Studio Pro X5 / X9によるCD書き込みログの書き込み元ファイルパスはすべてCorel Video Studio Pro X5 / X9の作業フォルダとなります。
ログデータWeb閲覧機能について	● 本機能はデータサーバーが必須です。 ● 画面操作録画の再生には対応していません。 ● ログデータWeb閲覧機能は、Firefox、Google Chrome、Microsoft Edge（Chromium版）に対応しています。 ● ログのWeb閲覧に関する操作ログを取得するには、Webシステムサーバーに端末機プログラムをインストールする必要があります。 ● Windows Vista以前のOS環境でご利用になる場合には、一部機能制限がございます。
画面録画再生について	● ゲームやビデオ再生画面など、ウィンドウ内が録画されない（黒くなり表示されない）場合があります。 ● クライアントOSでの常時録画は、単一のユーザーでログオンしている場合のみお使いいただけます。

ログ管理について

画面録画再生について	● 「個別画面操作録画」のライセンスはSKYSEA Client View Ver.10.2以降で有効なライセンスです。Ver.10.2より前の端末機で画面操作録画を行うには、通常の画面操作録画ライセンスが必要です。 ● マルチディスプレイ環境でディスプレイごとに異なるスケーリングが設定されていると、画面が見切れて録画される場合があります。
高速ログ検索について	● 弊社商品「SKYSEA Client View High Speed Log Search」の販売は終了いたしました。すでに販売いたしました本製品に関するサポート、ならびに保守契約の更新につきましては、従来どおり対応いたします。また、今後ログの高速検索をご希望のお客様につきましては、株式会社インテック様の統合ログ管理ソフトウェア「LogRevi（ログレビ）」をご検討いただきますようお願いいたします。 ○ <LogRevi（ログレビ）に関するお問い合わせ>株式会社インテック ビジネスソリューション企画推進部　TEL：03-5665-5140　e-mail：itps_info@intec.co.jp
起動・終了ログについて	● すでに存在するセッションに対してリモート操作を行った場合、接続元IPアドレスおよび接続元コンピューター名は、接続PCのものではなく、セッション生成時のコンピューターのものが表示される場合があります。
ダッシュボード（アラート情報）について	● ログデータからの、アラート件数の再集計は行えません。

セキュリティ管理について

● 「ファイル操作」注意表示について、ユーザーのオペレーションにより、これらの注意表示が発生し、メール送信または、端末機のポップアップ通知が行われた後、一定時間（2分）内に発生した同一種別の注意表示に対する、メール送信および、端末機の画面にメッセージを表示（ポップアップ通知）は行われません。
● FTPアップロード・ダウンロードを禁止できるのは、以下が条件となります。
○ 利用クライアントが、FFFTP 1.96～5.8、NextFTP 4、Internet Explorer 5.5 SP2 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11であること。
● 通信デバイス使用制限機能は、Windowsのデバイスマネージャー上に表示されている通信デバイスが対象になります。
● 指定した無線アクセスポイントのみ通信を許可する機能はWindows XP SP2以前のOSではお使いいただけません。また、ログオン前は動作しません。
● 次のGUIDのデバイスをBluetoothデバイスと判定します。
○ Broadcom「95c7a0a0-3094-11d7-a202-00508b9d7d5a」
○ Cambridge Silicon Radio Limited「473a6b1d-3407-400e-b91a-f991c5a39dc3」
○ IVT Corporation「9b21fd3a-b1ab-4eb9-956fe56acfe78bce」
○ Microsoft標準「e0cbf06c-cd8b-4647-bb8a-263b43f0f974」
○ Motorola Solutions「a173b237-6a34-4bb5-aa63-2561160fa200」
○ Toshiba「7240100f-6512-4548-8418-9ebb5c6a1a94」
● Bluetooth LE（Bluetooth Low Energy）デバイスには対応していません。
● 業務外アプリケーション実行アラートは、Windows 8以降およびWindows Server 2012以降の端末機では検知されません。
● 印刷物取り忘れアラートは、Windows ストアアプリからの印刷に対応していません。
● OneDriveアプリ（デスクトップアプリ）を利用する端末機に対して、OneDriveの利用アラートを有効にするには、設定適用後に端末機をログオンし直す必要があります。
● OneDrive、OneDrive for Businessの利用を禁止しても、禁止前にローカルフォルダに同期したファイルは削除されません。また、同期されたファイルへのアクセスも禁止されず、アラートも検知されません。
● Windows 10以降のExcel Mobile、PowerPoint Mobile、Word Mobileは、OneDriveの利用またはOneDrive for Businessの利用を禁止している場合には起動自体が禁止されます。また、ユーザーが起動していない場合でも、バックグラウンドで起動されることがあり、この場合もアラート検知されます。
● OneDrive、OneDrive for Businessのブラウザの利用禁止については、今後Microsoft社のサイト構成変更によっては利用を検知できなくなったり、両者を区別して検知できなくなる可能性があります。
● バージョン108以降のGoogle ChromeおよびMicrosoft Edge（Chromium版）を使用している場合、次の制限があります。
○ 掲示板 / Webメール書き込みアラートによる、掲示板への書き込みやWebメールの使用を禁止できません。
○ Webアップロードを禁止している場合、ブラックリスト・ホワイトリストへの登録状況にかかわらず、コピー&ペーストでのファイルのアップロードが禁止されます。
○ 「Webアップロードログ」に表示されるURLは、ファイルのアップロード先のURLではなく、アップロード時に表示していたWebサイトのURLになります。ブラックリスト・ホワイトリストにWebサイトを登録する場合は、アップロード時に表示しているWebサイトのURLを設定してください。
● Webアップロード / ダウンロードを禁止に設定している場合でも、OneDrive同期時のMicrosoft 365のWebアップロード、ダウンロードは禁止できません。
● アプリケーション実行中の特定操作アラートで、指定アプリケーション起動時に印刷をアラート対象としており、かつ指定のプリンターへの印刷を除外している場合、指定アプリケーションが実行されている間は、指定アプリケーション以外からの印刷も指定プリンターに限定されます。
● 複数のPCから同時に印刷を行った場合、印刷禁止アラートまたはアプリケーション実行中の特定操作アラートによる印刷の禁止が行われない場合があります。
● 印刷ファイルパスアラートでは、Microsoft PowerPointからの印刷は禁止できません。
● Windows ストアアプリは印刷ファイルパスアラートに対応していません。
● 印刷禁止アラートで印刷を禁止するには、アラート検知するコンピューター上で「Print Spooler」サービスが実行されている必要があります。また、Windows 2000の端末機の場合、特定のアプリケーションでの印刷をアラート対象から除外する設定に対応していません。
● ログ収集設定によっては、Microsoft Edge（EdgeHTML版）によるMicrosoft Print to PDFなどの印刷操作を、印刷禁止アラートで禁止することができません。
● Internet Explorerのバージョンや状態、ダウンロードの方法によっては、Webダウンロード禁止の除外設定が正しく動作しない場合があります。
● 許可フォルダへのファイル操作禁止を行うドライバーを実行する場合や、想定外共有フォルダアクセスアラートを使用する場合、特定フォルダアクセスアラートの禁止とアクセス許可設定を使用する場合、圧縮ファイル生成アラートを使用する場合には、Windows 2000 / Windows XP / Windows Server 2003では以下のサービスパック、アップデートプログラムの適用が必要です。適用されていない場合は、アラート検知および禁止が動作しません。
○ Windows 2000 SP4 + Update Rollup 1
○ Windows XP SP2以降
○ Windows Server 2003 SP1以降
● 圧縮ファイル生成アラートは、圧縮に使用したソフトウェアや指定した圧縮形式によっては、操作ログの取得やアラート検知ができない場合があります。
● 想定外共有フォルダアクセスアラートで、アラート判定に利用する「ファイルの読み込みバイト数」「ファイルへの書き込みバイト数」は、実際のファイルサイズは異なることがあります。
● アプリケーション実行アラートで、アプリケーションの起動そのものを禁止するドライバーには、以下のOS、サービスパックが必要です。これら以外のOSでは、ドライバーを使用する設定になっていてもアプリケーション起動の即時禁止は行われず、アプリケーションが起動してからプロセスが強制終了する禁止処理が行われます。
○ Windows Vista SP1以降
○ Windows Server 2008 以降
● アプリケーション実行アラート、特定フォルダアクセスアラート、想定外共有フォルダアクセスアラートなどでのアプリケーションのホワイトリスト設定で、ドライバーによる許可フォルダへのファイル操作禁止を行う場合、アラート対象となるのはコマンドプロンプトによるファイル操作のうち、エクスプローラとコマンドラインの内部コマンドのみとなります。
● レジストリ操作アラートは、Windows 2000の端末機では検知されません。
● アラート発生時のメール通知機能設定で対応しているSMTP認証方式は、「LOGIN」または「CRAM-MD5」です。
● 一度ユーザーアラート設定が適用されたユーザーでも、ログオンしたコンピューターをオフラインで使用するなど、30日を超えてマスターサーバーと通信できない状態が続くと、そのユーザーに対するユーザーアラート設定が解除されます。
● 任意定義アラートをユーザーアラートとして設定した場合、意図したとおりに検知されない場合があります。
● SKYSEA 未対応OSバージョンアラートは、Windows 10以降にのみ対応しています。
● 組織外ネットワーク接続（VPN・プロキシサーバー）アラートで検知対象となるブラウザは、Internet Explorer、Microsoft Edge（Chromium版 / EdgeHTML版）、Google Chrome、Mozilla Firefoxです。また、本機能はWindows Vista以降のクライアントOSでのみご利用可能です。
● 通信カード（モデム）/ Wi-Fi接続 / テザリングによる大型アップデート制御設定アラートは、Windows 10以降の従量制課金接続設定を利用して、機能更新プログラムを含むすべての更新プログラムのダウンロードを制限します。有効にした場合、OneDrive / Microsoft Office Outlookの同期が行われなくなる場合があります。

セキュリティ管理について

不許可端末検知 / 遮断について	● 不許可端末の遮断を行うには、許可端末にSKYSEA Client Viewをインストールするか、許可端末リストに正しく登録する必要があります（ネットワークプリンターなどを含む）。 ● 認証VLANや検疫ネットワークなど、通常のIPネットワークではない環境においては、不許可端末遮断機能を使用できない場合があります。 ● 不許可端末検知 / 遮断機能については、必要なときのみ該当機能を有効・無効、ON / OFFすることはできません。お使いになる際には、本機能を常時有効、ONにしていただけますようにお願いいたします。ネットワーク上に、すでに不許可になる端末が存在している場合において、不許可端末検知・遮断機能を設置して有効にしてから、動作を開始するまでの時間は環境により変化します。 ● SKYSEA Client Viewの管理機・端末機をインストールしたクライアントPC（Windows XP / Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 / Windows 10 / Windows 11）では、ネットワークカードのチーミング設定を行わないでください。 ● ルーター等により、パケットの内容を変更するような動作が行われる環境、およびパケットを検疫するような環境では遮断機能がご利用いただけないことがあります。 ● ネットワーク上の機器から頻繁にARPリクエストが送信される環境では、遮断機能が効果的に動作しない可能性があります。 ● 無線LAN接続の端末機では遮断機能がご利用いただけません。また無線LAN接続の端末機で遮断機能を有効にした場合、無線アクセスポイントが高負荷になる可能性があります。 ● 不許可端末検知 / 遮断をご利用の環境では、バージョン混在でお使いにならないようお願いいたします。不許可端末検知 / 遮断の動作に問題が生じることがあります。必ずサーバーおよび全クライアントPCをアップデートし、同一バージョンに合わせていただきますようお願いいたします。 ● 不許可対象となる端末が多数ある状態で、不許可端末検知 / 遮断を有効にすると、ネットワークが不安定になる可能性があります。 ● IPv6による通信を検知 / 遮断することはできません。
端末機による検知 / 遮断について	● 不許可端末を検知するにはそのセグメント内にあるSKYSEA Client Viewをインストールしたクライアントが起動中に、対象の端末から発信されたパケットを受信する必要があります。 ● サーバーOSでのご利用の場合は、別途お問い合わせください。
メール送信宛先フィルタリングについて	● メール送信宛先フィルタリングに対応したメールクライアントは、Microsoft Outlook 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365です。 ● 本機能では専用のアドインを使用します。アドインに関する制限事項は「Microsoft Office製品用のアドイン（Officeアドイン）について（P.94）」をご覧ください。 ● Active Directory環境が必要です。
WSUS連携について	● WSUS連携で対応しているWSUSのバージョンは下記のバージョンです。 ○ WSUS 3.0 SP2 ○ Windows Server 2016 WSUS ○ Windows Server 2019 WSUS ○ Windows Server 2022 WSUS ● Windows XPモードや仮想環境上の端末機、Windows 8 / Windows 8.1で高速シャットダウンした（ハイブリッドブートが有効な）端末機については、電源オプションを設定しても、実行時に電源をONにできません。 ● マスターサーバーおよび、サーバーOS上の端末機は、更新完了後に電源をOFFにできません。 ● WSUSサーバーへの接続にHTTPプロキシを利用する環境では、WinHTTP proxyの設定が適切に構成されている必要があります。 ● ユーザーによる操作が必要な更新プログラムの適用はできません。 ● 配布時にマスターサーバーとは異なるセグメントの端末機の電源をONするには、各セグメントに少なくとも1台のソフトウェア配布用中継端末があり、マスターサーバーと通信できる必要があります。中継端末とマスターサーバーがインターネット経由（HTTP（S））で接続する場合は電源をONにできません。
端末機異常通知について	● Windows 2000には対応しておりません。 ● 端末機に同じ型番のCPUが複数搭載されている場合、本機能では1つのCPUとして処理され、温度の高い方のCPUの情報が表示されます。 ● 本機能は、仮想環境では使用できません。 ● S.M.A.R.T.情報が取得できないHDD / SSDに対しては、状態情報の取得や異常検知はできません。 ● 対応保証とするCPUは、Intel Coreプロセッサー・ファミリーです。 ● 対応保証とするストレージは、シリアルATA接続された内蔵HDD / 内蔵SSDのみです。ただし、外付けHDDでもS.M.A.R.T.情報が取得できた場合は、HDDとして表示されることがあります。
更新プログラム配布管理について	● 端末機上で個別に更新プログラムを配布・適用するツールは、クライアントPCドライブ保護が有効な環境では実行できません。
Windows 10以降更新制御について	● 対応OSはWindows 10 Pro / Windows 11 Proです。
CPE製品名管理について	● 本機能をご利用いただくには、インターネットへのアクセスが可能な、Windows 7 / Windows Server 2008 R2以降の管理機が必要です。
Microsoft Office更新制御について	● 管理対象のMicrosoft 365、Office 2019 / 2021 / 2024のバージョンによっては、適用状況の一覧画面において、製品名や更新チャネルなどの情報が正しく取得できない場合があります。
SKYSEA Client Viewアラートsyslog出力について	● 本機能を利用される場合は、データサーバー1台あたりのクライアント管理台数が3,000台までとなります。
紛失端末制御について	● 紛失端末制御用Webサイトを経由して端末機の制御を行う場合は、制御対象の端末機がインターネットに接続できる必要があります。 ● マザーボードのUUIDが、起動するたびに変更される端末機の場合、本機能は利用できません。 ● 本機能を有効化した端末機の位置情報は、SKYSEA Client View以外のあらゆるデスクトップアプリから取得可能になります。
ブラウザ環境分離について	● SKYDIV Desktop Client Ver.6.0未満と本機能は共存できないため、併用時の動作は保証しておりません。 ● 本機能による通信制限は、端末からの発信のみ対象になります。 ● 本機能を有効にすると、ほかのソフトウェアから本機能に関するファイルやフォルダへのアクセスが制限されることがあります。 ● 「Webサイトに応じて起動するブラウザの自動切替設定」による、Webアクセス自動リダイレクトの機能には次の制限があります。 ○ Webブラウザのバージョンや環境によっては、SKYSEA Client Viewの拡張機能（アドオン）をユーザーが有効にする必要があります。Webブラウザの仕様が変更された場合は、機能をご利用いただくことができなくなる恐れもあります。 ○ SKYSEA Client Viewをインストール後、初めてGoogle Chromeを起動する場合、SKYSEA Client Viewの拡張機能（アドオン）は自動で有効になりません。2回目の起動から自動で有効になります。 ○ Google Chromeのシークレットモードをご利用の場合、非ドメイン環境ではSKYSEA Client Viewの拡張機能（アドオン）をユーザーが有効にする必要があります。 ○ Google Chromeのゲストモードをご利用の場合は、機能をご利用いただけません。 ● 環境分離ブラウザ上で利用できるIMEは以下の通りです。 ○ Microsoft 日本語 IME ○ ATOK Medical 2 for Windows / ATOK Medical 3 for Windows / ATOK Pro 4 for Windows / ATOK Pro 5 for Windows ※ATOKを利用する場合は一部機能に制限があります。
ファイル受渡しシステムについて	● 本システムはイントラネット内の利用を想定しています。SKYSEA Client View Cloud Editionには対応していません。 ● ご利用にはActive Directory環境が必要です。 ● プロキシサーバー経由で本システムに接続する場合、一部の機能をご利用いただけません。

デバイス管理について

● デバイスマネージャー上で「SCSI、RAIDコントローラ、ATA、SATA（Serial ATA）」と認識している機器は、「内蔵デバイス」の扱いとなります。ただし、CD/DVDドライブは、すべて「外付けデバイス」の扱いとなります。また、バスタイプがATAまたはSATAの、ホットプラグ対応ハードディスク（OSの認識として）は「eSATA接続ハードディスク」として「外付けデバイス」の扱いとなります。
● 「eSATA接続ハードディスク」としてデバイス管理機能をご利用いただけるのは、バスタイプがATAまたはSATAの、ホットプラグ対応ハードディスクに限ります（OSの認識として）。
● 記憶媒体 / メディア使用禁止機能は、特殊な方法で記憶媒体を制御しているシステムをお使いの場合には、禁止にできないときがあります。
● デバイスによっては、接続するPCごとに識別情報となるデバイス名、ベンダーID、プロダクトID、シリアルNo.が変わる可能性があります。
● セキュリティグループごとのデバイス使用制限を設定する場合に、「Builtinコンテナ」内のセキュリティグループを指定すると、Mac端末で正しく動作しないことがあります。
● CD / DVD / ブルーレイライティングソフトウェアの中には、特殊な書き込み処理を行っているものがあります。そのため、ドライブへの書き込み禁止設定がされている場合、特殊な書き込み処理をするソフトウェアの一部製品に対しては、実行ファイルの起動を禁止することでデータ書き込みを制限しています。起動を禁止しているライティングソフトウェアは、以下の製品です。
○ B's Recorder GOLD 7　○ Clone DVD 2.9.0.9　○ Inter Video DVD Copy 5 Platinum / Gold
○ BlindWrite 5　○ CopyToDVD 3.1.3.137
○ Clone CD 5.3.0.1　○ Easy Media Creator 9 / 10
※起動を禁止している実行ファイルについては弊社までお問い合わせください。
● Windows Server 2003 SP1 / SP2、Windows Server 2003 R2 / SP2 では、記憶媒体使用禁止機能を解除しても、OSの再起動を行わないと解除されない場合があります。
● ネットワークドライブの使用制限に対応するOSは、Windows 7以降およびWindows Server 2008 R2以降です。
● シリアルナンバー等の機器情報が認識できないデバイスの管理には、以下の制限があります。
○ デバイス名が同じ場合、個体識別ができないため、デバイス管理台帳では、1つのデバイスとして登録されます。
○ 棚卸等、一部の機能をご利用いただけません。
※安心してお使いいただけるUSBメモリの推奨メーカー様の一覧は、「協業・連携ソリューション（P.17）」をご覧ください。
● 大量にファイルを保存したデバイスでは、「USBデバイスファイル確認」機能をご利用いただけない場合があります。
● デバイスに大量のファイルをコピーしてすぐ削除を行った場合、ファイルコピーログとファイル削除ログが出力されますが、ファイルコピーログに対してアラートが発生しない場合があります。
● Thunderboltで接続するデバイスの管理は、Mac端末に接続された場合のみ行えます（Windows OSは対象外です）。
● 「USBでもeSATAでも接続可能」「USBでもFireWire / Thunderboltでも接続可能」というように、1つのデバイスで複数のインタフェースに対応する場合は、それぞれのインタフェースによって別々のデバイスとして登録されます。
● スマートフォンやタブレット端末のように、PCとの接続モードによってプロダクトID（PID）が変化するデバイスは、プロダクトIDごとにデバイス情報が登録されます。
● Windows XP以前のクライアントOS、Windows Server 2008以前のサーバーOSでは、Windowsポータブルデバイス（MTP / PTP接続のデバイス）など、OS上でドライブレターが割り当てられない（ボリュームとしてマウントされない）デバイスについては、「記憶媒体 / メディア書き込み」アラートによる書き込み禁止設定がされている場合、使用禁止設定として動作します。ただし、WIA（Windows Imaging Acquisition）として認識した場合は、OSによって書き込みが制限されるため、SKYSEA Client Viewでは前述の制御を行いません。また、これらのデバイスに対するファイル操作ログも取得できません。
● Windows Vistaでも、次の条件を満たしていない場合は、上記の制限事項が適用されます。
○ Service Pack 2と「KB2761494」に加え、「KB971514」または「KB971644」のWindows更新プログラムがインストールされていること。
● 「iTunes」などを利用して、アプリケーション経由でスマートフォン / フィーチャーフォンとデータをやりとりするような環境では、そのアプリケーションの実行を禁止してください。デバイスの使用制限（使用禁止 / 書き込み禁止）が正しく動作しない可能性があります。
● 端末機に接続中のWindowsポータブルデバイスに対して、「記憶媒体 / メディア書き込み」アラートによる書き込み禁止設定を有効にするには、設定適用後にデバイスを接続し直す必要があります。
● 使用禁止処理が行われたWindowsポータブルデバイスを再度使用可能にするには、使用可能設定に変更するだけでなく、クライアントPCを再起動する必要があります。
● iPhone / iPadなどのiOS搭載デバイスは、iTunesをインストールしていることにより、1つのデバイスに対して2つのデバイス情報が登録されます。またこれらのデバイスにエクスプローラからデータを書き込むことはできませんが、iTunesからは音楽・画像ファイルの書き込みができるため、iTunesの実行を禁止するなどの対策が必要です。
● メディア管理で対応している光ディスクは、DVD-RAMです。
● 申請・承認ワークフローシステムをご利用の場合、インストール・設定前に、Active Directoryのセットアップが必要です。
● 申請・承認ワークフローについては、有効期間外のデバイス使用設定は未対応です。
● 申請・承認ワークフローシステムのファイル持ち出し申請（デバイス / フォルダ）に対応するOSは、Windows 7以降およびWindows Server 2008 R2以降です。また、Windows 7、Windows Server 2008 R2の場合は、SHA-2対応の更新プログラムを適用済みである必要があります。
● 申請・承認ワークフローシステムのファイル持ち出し申請（デバイス / フォルダ）で許可されたファイルの書き出しを行う場合、次の制限があります。
○ 光学メディアへの書き出しを行う場合は、OS標準のパケットライト方式でフォーマットされているメディアでのみ行えます。また、Windows Vista以降のOSのみ対応しています。※Windows Vista / Windows Vista SP1ではさらに、Windows Feature Pack for Storage 1.0 が適用されている必要があります。
○ 光学ドライブが複数存在する環境では、光学ドライブへの書き出しは行えません。
○ Webブラウザのみを利用して持ち出し申請が可能なファイルの合計サイズは4,085MBまでです。暗号化して書き出す場合やファイルシステムの仕様によっては、4,085MBを下回ることがあります。
○ Windowsポータブルデバイス（MTP / PTP接続のデバイス）への書き出しは非対応です。
○ ファイル名に「Shift_JIS」以外の文字が含まれるファイルは非対応です。

接続時のウイルスチェックについて		● ウイルス対策ソフトウェアの対応状況については、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご覧ください。 ● 本機能を使ってUSBデバイスおよびメディアをウイルススキャン中に、別のUSBデバイスおよびメディアを接続した場合、ウイルス対策ソフトウェアによっては、後から接続したUSBデバイスおよびメディアのウイルスチェックが起動しない場合があります。 ● Windows 2000ではご利用いただけません。 ● USBデバイスおよびメディアの接続時にドライブが追加されない場合は、スキャンできません。 ● ウイルス対策ソフトウェアで、すでにUSBデバイスおよびメディア接続時にウイルスチェックが行われるよう設定されている場合は、本機能が動作しないことがあります。
外付けデバイス&ファイル暗号化について	外付けデバイスの暗号化について	● 対応OSは、Windows 7以降、およびWindows Server 2008 R2以降です。 ● 暗号化に対応しているファイルシステムは、FAT32、NTFS、exFATです。 ● マルチカードリーダーなど、複数のドライブを認識できるデバイスを介した暗号化には対応していません。 ● スタンドアロン端末では、デバイス暗号化ツールはインストールできません。また、スタンドアロン端末上で暗号化されたデバイスを使用しても、デバイス暗号化情報の「最終使用日時」、および「最終使用端末ID」は更新されません。 ● ほかの暗号化機能を利用されている場合は、本機能が利用できない場合があります。 ● パスワードロック機能を搭載しているUSBデバイスは、本機能のサポート対象外です。 ● メディアとして台帳登録されているデバイスは、本機能で暗号化できません。また、本機能で暗号化されているデバイスは、メディアとして台帳登録できません。
	Webアップロードファイルの強制暗号化について	● 対応OSは、Windows 7以降、およびWindows Server 2008 R2以降です。また対応ブラウザは、Internet Explorer 11（ただし、Windows 8.1のストアアプリ版は非対応）、Mozilla Firefox 64以降（延長サポート版はMozilla Firefox 60以降）、Google Chrome 71以降です。Microsoft Edge（EdgeHTML版）には対応していません。また、これら対応ブラウザ以外の非対応のブラウザにおいては、Webアップロードが禁止されます。 ● 自動暗号化フォルダでファイル暗号化を行った際、ファイル操作ログが正しく収集されない場合があります。 ● 自動暗号化フォルダ内のファイルのみWebアップロードを許可するように設定しているとき、ブラウザの画面上にフォルダ外のファイルがドラッグ&ドロップされた場合は、アップロードの目的外であってもアラートとして検知されます。 ● 自動暗号化フォルダ内のファイルのみWebアップロードを許可するように設定していても、Google ChromeやMozilla FirefoxではWebアップロードが禁止されることがあります。

デバイス管理について

外付けデバイス&ファイル暗号化について	**メール添付ファイルの自動暗号化について**	● 端末機（Windows）とスタンドアロン端末機に対応しています。端末機（Mac）と端末機（Linux）には対応していません。また、対応するメールクライアントは、Microsoft Outlook 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365です。 ● 「Officeアドイン設定」で「Ver.9.0以降のアドイン」を選択し、かつ「ログ収集時に電子証明書を使用する」にチェックを入れている場合、以下の環境では本機能は対応していません。 〇 Windows 7 / Windows Server 2008 R2（SP未適用）以前のOS 〇 Microsoft Office 2010 SP1以前のMicrosoft Office ● メールへファイルを添付してから一定時間（60分）経過した後に送信するなど、操作の内容によっては添付ファイルのファイルパスが正しくログ取得できないことがあります。 ● 本機能では専用のアドインを使用します。アドインに関する制限事項は「Microsoft Office製品用のアドイン（Officeアドイン）について（P.94）」をご覧ください。

レポートについて

● 「ユーザー操作時間レポート」において、Web会議を行った時間を集計できる対象システムは以下のとおりです。
〇 Cisco Webex
〇 Microsoft Teams
〇 Zoom
● レポートで印刷表示を行う場合は、Adobe Reader 9 / 10 / 11が必要です。
● レポートを閲覧する端末機、管理機およびログ解析サーバー / レポート用サーバーには、JIS2004対応フォント（KB927489）の適用が必要です（Windows Vista以降、Windows Server 2008以降のOSには、標準搭載されています）。JIS2004対応フォントについては、Microsoft社のサポートページをご確認ください。
● 解析結果の表示には、Microsoft Excel 2000 / 2002 / 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365が必要です。中でも、「資産・ログ利活用レポートライブラリ」の解析結果の表示には、Microsoft Excel 2007 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024が必要です。

ログ解析用サーバー / レポート用サーバーについて	● ログ解析レポート / Web利用状況レポート / ユーザー作業状況レポートをご利用の場合、データサーバーが必要です。 ● ログ解析機能をHTTPS通信で利用する場合、対応するログ解析用サーバーのOSはWindows Server 2008 R2以降となります。

メンテナンスについて

● リモート操作機能において、環境によっては接続元のキーボードで入力した文字列とは異なる文字列が、接続先の端末機上で入力されることがあります。
● Windows XPならびにWindows Server 2003以前のOSの場合、リモートデスクトップ接続と併用すると、リモート操作の接続に失敗する場合があります。
● リモート操作中のファイル転送は、Windows 8 / Windows 8.1のスタート画面やWindows ストアアプリの画面に対しては行えません。
● アプリケーション実行中の特定操作アラートで、リモート操作時に特定アプリケーションの画面をマスクして表示させないように設定している場合でも、Windows 10以降のタスクビュー下部に表示されるデスクトッププレビュー内のウィンドウはマスクされません。
● マルチディスプレイで使用しているMac端末のリモート操作（画面提示）を行う場合、リモート操作カーテンを実行した状態でディスプレイを切り替えると、デスクトップの内容が一瞬表示されます。
● Windows XP以前、またはAeroが無効に設定されているWindows 7 / Windows Vistaのリモート操作（画面提示）を行う場合、リモート操作カーテンの実行中はレイヤードウィンドウが表示されなくなります。
● タッチ操作が可能な端末に対してリモート操作を行う場合、端末機側でもタッチ操作が可能な場合があります。
● タッチパッド搭載の端末に対してリモート操作を行う場合、機種によってはタッチパッド操作が可能な場合があります。
● キーボード・マウス転送機能において、キーボード・マウス操作が同時に行えるのは最大50台までです。
● 電源制御機能によるMicrosoftアカウントでのリモートログオンは行えません。 ● マクロ機能、実行機能によるWindows ストアアプリの実行はできません。
● 電源制御 / 定期電源ON機能は、Windows 8以降の高速スタートアップ（ハイブリッドブート）には対応していません。高速スタートアップが有効な状態で、手動でシャットダウンを行った場合は、リモート電源ONができません。
● 電源制御 / 定期電源ON機能では、スリープ状態の端末機を復帰させることはできません。
● SKYSEA Client View端末機（Mac）上で、FileVaultを有効にすると、ユーザーがログインするまでは、「リモート操作」や「電源状態の取得」が動作しません。

クライアントPC 環境保護について	● 本機能は、Windows 8.1以降のOS（サーバーOSを除く）でのみご利用可能です。 ● アプリケーションごとの設定は、ユーザープロファイルに依存する設定のみ修復できます。 ● 同居するアプリケーションによっては、プロファイルの修復に失敗する場合があります。 ● 本機能は、ローカルグループポリシーを利用しています。ドメインポリシーなど優先されるポリシーが適用されている場合は、保護設定が適用されない場合があります。 ● スタンドアロン端末機に対しては保護を行うことはできません。 ● 本機能の一部設定は、移動ユーザープロファイル機構を利用して実現しています。Windows ストアアプリなどの、移動ユーザープロファイルに対応していないアプリケーションはご利用いただけません。また、移動ユーザープロファイルを利用しているアカウントに対する「インストール / アンインストール」に対応していないアプリケーションを「ソフトウェア配布」機能で配布する場合は、環境保護設定を解除してください。 ● 本機能は、管理機とクライアントPC間で双方向の通信が確立されている必要があります。NAT環境や、HTTPゲートウェイを利用している環境も該当します。 ● 他ソフトウェアの環境復元機能を有効にしている場合は、本機能で保護設定を行っても、端末の再起動時に保護設定前の状態に戻ります。 ● Microsoftアカウントでのログオンや、OneDriveには対応していません。OneDriveで同期するファイルがある場合、プロファイルの保護が失敗します。
クライアントPC ドライブ保護について	● 本機能を使用する場合は、次の点にご注意ください。 〇 ドライブ保護に必要な容量は64GB以上です。 〇 端末イメージの保存場所となるドライブは、NTFSでフォーマットされている必要があります。 〇 導入時、初期化処理には1時間程度かかる場合があります。 〇 初期化処理を行うと、ドライブの総容量や、利用可能な空き容量が減少します。 〇 保護対象となるドライブはシステムドライブのみです。 〇 休止（Hibernation）には対応していません。 〇 保護対象外に指定できるファイルは最大で30個です。フォルダには、制限はありません。 ● 本機能は、Windows 8.1以降のOSでのみご利用可能です。また、Windows 11 24H2のOSで本機能を利用するには、BitLockerドライブ暗号化を無効化する必要があります。 ● 本機能は、管理機とクライアントPC間で双方向の通信が確立されている必要があります。NAT環境や、HTTPゲートウェイを利用している環境も該当します。 ● 初期化した場合、Windowsの「システムの復元」機能で作成された復元ポイントはすべて削除されます。また、初期化後は「システムの復元」機能は使用できません。 ● トレンドマイクロ社製ウイルスバスターと同居している場合は、不正変更防止サービスを無効にしてください。
ディスクメンテナンスについて	● ディスクメンテナンス / ディスクイメージ配信機能をWIndows 11 24H2のOSで利用するには、BitLockerドライブ暗号化を無効化する必要があります。 ● 本機能は、物理ディスク（ハードディスク / SSD）を複数台搭載しているコンピューターのバックアップ / リストアには対応していません。 ● Sysprepを実行する場合は、事前にバックアップを行うことを推奨します。 ● NTFSの次の機能が利用されているボリュームのバックアップ / リストアはサポート対象外です。 〇 拡張属性 〇 オブジェクトID 〇 シンボリックリンクでもジャンクションでもない解析ポイント

メンテナンスについて

ディスクメンテナンスについて	● 「Windowsシステムリストア用起動USBデバイス作成ツール」の起動には、Windows ADK 8.1が必要です。 ● バックアップしたデータを別の端末にリストアする場合、リストア先のディスクサイズは、バックアップ元と同じか、それ以上の容量が必要です。 ● ネットワーク設定できるIPアドレスは、IPv4形式のみです。 ● 本機能は、次の環境ではご使用になれません。 〇 Windows To Goで起動している状態 〇 デュアルブート環境 ● マルチログオンされている状態では、バックアップ / リストアできません。 ● 無線LANアダプタしか搭載されていない機種（タブレット端末など）にリストアする場合、MACアドレスを指定して、コンピューター名、IPアドレスの自動設定はできません。 ● タブレット端末でバックアップ / リストア時に、タッチパネルでの操作ができない場合は、キーボードやマウスをご用意ください。

ソフトウェア資産管理（SAM）について

● Microsoft Office 2000 / 2010 / 2013 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024の場合は、Microsoft Office製品がプリインストール版か判定する情報が取得できません。
● Microsoft Office 2000の場合は、リリース種別（製品版、ダウンロード版など）の情報が取得できません。
● Windows 2000 / XPは、SQL ServerのCPUコア数の取得をサポートしていません。
● Windows Server 2003でSQL ServerのCPUコア数を取得する場合は、「KB932370」がインストールされている必要があります。
● SQL Server 2000以前のエディション情報は取得できません。
● Windows ストアアプリは、ソフトウェア資産管理（SAM）機能の管理対象外です。
● 申請・承認ワークフローシステムをご利用の場合、インストール・設定前に、Active Directoryのセットアップが必要です。

リモートインストールツールについて

● リモートインストールツールをご利用の場合は、事前設定が必要となります。
● ツールを実行する管理機としては、Windows 2000ではご利用いただけません（データの配布先クライアントPCとしてはご利用いただけます）。

インターネット経由での資産情報・ログ収集機能について

● 管理コンソールからインターネットの向こう側にある端末機に対しては、次の機能がご利用になれません（ただし、リモート操作については「リモート操作（インターネット経由）」オプションを追加することでご利用いただけます）。
〇 電源状態の取得　〇 キーボード・マウス転送　〇 実行
〇 データ取得　〇 電源制御　〇 マクロ
〇 リモート操作　〇 資料配布　〇 ソフトウェア配布の配布 / 実行状況出力
● 管理コンソールからインターネットの向こう側にある端末機へは設定が即座に反映されません。コンピューターの起動時など、端末機から設定を取得するタイミングに反映されます。
● マスターサーバーから直接実行する次の機能も、インターネットの向こう側にある端末機に対してはご利用になれません。
〇 ネットワーク機器の死活監視
〇 MIB情報更新
● HTTP（S）経由でソフトウェア配布の中継機能をご利用になる場合は、ソフトウェア配布中継端末プログラムに加え、端末機プログラムもインストールする必要があります。
● インターネット経由の資産情報・ログ収集が有効の管理機・端末機では次の機能がご利用になれません。
〇 不許可端末検知 / 遮断
〇 アラート項目「インストール必須アプリケーション」「残業時間お知らせメッセージ」による検疫
〇 Web利用状況
〇 残業管理（前日までの作業時間一覧）
〇 資産レポート
〇 ソフトウェア配布のマルチキャスト配布（マルチキャスト配布用端末として自動選択されません）
● Webブラウザを使用する機能はHTTP（S）経由での使用をサポートしていません。
〇 ログ解析レポート
● 監査対象サーバーからデータサーバーへのデータアップロードはHTTP（S）経由では行えません。
● HTTPゲートウェイサーバーから接続するマスターサーバー、データサーバーは、HTTPゲートウェイサーバーからコンピューター名でアクセスできる必要があります。従って、IPアドレスを指定してマスターサーバー、データサーバーを構築した環境ではご利用いただけません。
● HTTPゲートウェイサーバーまでの通信経路で、HTTPリクエスト数で制限するファイアウォール機能を持つセキュリティ製品を利用される場合には、ご利用環境に応じて設定が必要になります。
● Windows Vista以前のOS環境でご利用になる場合には、一部機能制限がございます。

Mac端末運用管理について

※ここでは、Mac端末運用管理の各種制限事項について説明しています。Mac端末の対応機能については、「機能一覧（P.73～84）」の「対応OS-Mac」の列をご覧ください。
● OSのバージョンによっては、SKYSEA Client Viewの部署別インストーラーに同梱しているJavaが対応していないことがあります。その場合、対応するバージョンへOSをアップグレードするか、OSのバージョンに合わせて同梱しているJavaを差し替える必要があります。
● 電源状態の取得、部署別インストーラー作成、デバイス管理、ログ管理、リモート操作をご利用いただけるOSのバージョンは、Mac OS X 10.5以降となります。ただし、macOS 10.14のMac端末からリモート操作権限を取得するには、端末のシステム環境設定で、SKYSEA Client Viewの「アクセシビリティ」を許可する必要があります。
● 端末機No.重複の検知をご利用いただけるOSのバージョンは、Mac OS X 10.6以降となります。
● Mac OS X 10.5 / 10.6では、SSLを用いたメール送信でサポートするプロトコルはTLSv1.0のみで、TLSv1.1 / TLSv1.2はサポートしていません。
● macOS 10.15のMac端末に対して、リモート操作、管理コンソールの項目「最前面ウィンドウキャプション」の表示、クライアント操作ログの収集を行う場合は、端末のシステム環境設定「セキュリティとプライバシー」で、SKYSEA Client Viewの「画面収録」を許可する必要があります。
● ファイアウォール設定を有効にする場合、SKYSEA Client Viewが外部からの接続を受け入れるのを許可する必要があります。

資産管理について	● Apple Siliconを搭載しているMac端末の場合、資産情報「CPUタイプ」が正しく取得されない場合があります。	
	ウイルス対策ソフトウェアについて（Mac版）	● プログラムバージョン、検索エンジンバージョン、パターンファイルバージョンのみ収集できる製品は、以下の製品のみです。 〇 ウィズセキュア株式会社：WithSecure Client Security for Mac 14～15、WithSecure Elements EPP Computers Edition、WithSecure Elements EPP Computers Premium Edition ● 検索エンジンバージョン、パターンファイルバージョン、パターンファイル更新日時のみ収集できる製品は以下のとおりです。 〇 Musarubra Japan 株式会社（Trellix）：McAfee VirusScan for Mac 9.5～9.8

Mac端末運用管理について

資産管理について	ウイルス対策ソフトウェアについて（Mac版）	● プログラムバージョンのみ収集できる製品は、以下の製品のみです。 ○ ESET：ESET Cyber Security V8.0 ○ ヴィエムウェア株式会社：Carbon Black Cloud Sensor ○ 株式会社カスペルスキー：カスペルスキー スタンダード、カスペルスキー プラス、カスペルスキー プレミアム、カスペルスキー セキュリティ for Mac、カスペルスキー インターネット セキュリティ for Mac、Kaspersky Endpoint Security for Mac 8～12 ○ 株式会社ノートンライフロック：ノートンセキュリティ、ノートン360、ノートンアンチウイルス 11.1～12.0、ノートンアンチウイルスプラス、ノートンインターネットセキュリティ ○ トレンドマイクロ株式会社：Trend Micro Apex One（オンプレミス版 / SaaS版）、Trend Vision One Endpoint Security、ウイルスバスター for Mac プログラムバージョン1.5～11.0 、TrendMicroビジネスセキュリティ6.0、ウイルスバスタービジネスセキュリティ7.0～10.0、ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス、Trend Micro SaaS Endpoint Security for K-12 RM ○ パロアルトネットワークス株式会社：Traps ○ Broadcom社：Symantec Endpoint Protection 12.1～14.3 ○ McAfee Endpoint Protection for Mac 1.0～2.3、McAfee Endpoint Security 10 ※詳しい対応状況については、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご覧ください。
	Microsoft Officeについて（Mac版）	● Microsoft Office状況として、ソフトウェア情報が収集できるMac版のバージョンは、以下のバージョンのみです。 ○ 対応オフィスソフトウェア Microsoft Office 2011 / 2016 / 2019 / 2021 / 2024 / 365（取得できる情報はインストール状況のみとなります） ● Mac端末でMicrosoft Office 2021 / 2024 / 365に関するライセンス切り替えを行う場合、Microsoft社が提供するライセンス削除ツールを用いてライセンスを削除しないと、正しいライセンス状態が「アプリケーション一覧」画面に反映されません。
	プリンターについて	● Mac端末では、CUPSと呼ばれる印刷システムより情報を取得します。そのため、CUPS以外の印刷システムが使用されている場合は、プリンター情報は収集できません。
申請・承認ワークフローシステムについて		● Mac端末でご利用の場合、対応ブラウザはSafari 18.3～18.5となります。 ● プロキシサーバー経由で本システムに接続する場合、一部の機能をご利用いただけません。
ファイル受渡しシステムについて		● Mac端末でご利用の場合、対応ブラウザはSafari 17.1～18.5となります。 ● プロキシサーバー経由で本システムに接続する場合、一部の機能をご利用いただけません。
デバイス管理について		● Mac端末にMTP（メディア転送プロトコル） / PTP（画像転送プロトコル）で接続されたデバイスは、「記憶媒体 / メディア使用」アラートによる使用禁止、および「記憶媒体 / メディア書き込み」アラートによる書き込み禁止に対応していません。 ※MTP / PTPで接続されたデバイスはドライブとして認識されないため、データの書き込みはできませんが、デバイスによっては、「イメージキャプチャ」（Mac OS X標準アプリケーション）によって画像ファイルの読み取りができる場合があります。 ● Mac端末に接続されたiPhone / iPadなどのiOS搭載デバイスは、「記憶媒体 / メディア使用」アラートによる使用禁止、および「記憶媒体 / メディア書き込み」アラートによる書き込み禁止に対応していません。 ● Mac端末における「Android File Transfer」を利用したデータ送信の制限には対応していません。 ● CD / DVD / ブルーレイドライブへの記憶媒体書き込み制限はできません。またブランクディスクを挿入した場合は、記憶媒体使用制限もできません。 ● OS X El Capitan（10.11）以降のMacでデバイスを新規登録すると、WindowsやOS X Yosemite（10.10）以前のMacから登録したときと異なるデバイス名が登録されることがあります。 ● デバイスの使用禁止、書き込み禁止を設定していて、端末機にデバイスを接続したときに「使用可能」で登録する設定の場合でも、OS X El Capitan（10.11）以降のMacでデバイスを新規登録した場合のみ、使用禁止、または書き込み禁止の制御が行われます。
ログ管理について		● アプリケーションログの起動元プロセス情報、コマンドプロンプト実行ログは取得できません。 ● ファイルアクセスログ、不許可端末検知ログには対応していません。 ● ファイル操作ログの「ファイル上書き保存」には対応していません。 ● ファイル操作ログの「フォルダコピー」には対応していません（コピー操作が含まれるログの追跡も途切れます）。「ファイルコピー」のログ収集対象となる操作は、Finderとcpコマンドによる同一ファイル名でのコピー操作のみです。 ● ファイル操作ログおよびファイルアクセスログのファイルサイズ情報は、操作種別やタイミングによっては取得できない場合があります。 ● Webアクセスログの対応ブラウザは、Safari 5.1～18.5、Google Chromeです。Safari 6.2 / 7.1 / 8.0では、SKYSEA Client Viewの機能拡張（アドオン）をユーザーが有効にする必要があります。 ● Safariは、Web書き込みログ、Webアップロードログ、FTPアップロードログ、Gmail送信ログには対応していません。また、プロキシサーバーを利用する環境で、SafariによるWebアクセスログを収集するには、「プロキシ設定を使用しないホストとドメイン」の設定で「localhost」に対して通信可能な設定にする必要があります。 ● Google Chromeは、FTPアップロードログには対応していません。Google ChromeによるWebアクセスログ収集をご利用いただけるOSのバージョンは、Mac OS X 10.6以降です。また、Google Chromeの仕様が変更された場合、ログ収集機能の利用ができなくなる恐れがあります。 ● SMTP接続による送信メールで取得できるのは、利用クライアントがMail（Mac OS X標準）である場合となります。 ● 資産管理同様、CUPS以外の印刷システムが使用されている場合は、プリントログの印刷枚数およびデバイスURI情報は収集できません。 ● ログデータWeb閲覧機能でログ検索を行う場合、送信メールログの本文データは「Shift_JIS」で検索するため、「Shift_JIS」で表現できない文字は検索できません。 ● アラート発生通知メールの内容に、「Shift_JIS」で表現できない文字列が存在する場合は、「?」に変換されます。 ● macOS 10.14のMac端末から送信メールログを収集するには、端末のシステム環境設定で、SKYSEA Client Viewの「フルディスクアクセス」を許可した上で、メールプラグインを有効化する必要があります。 ● プリントログの印刷ファイルパス取得には対応していません。 ● Microsoft 365 / Office Onlineのログ取得には対応していません。
ログ解析について		● 資産・ログ利活用レポートライブラリのレポート集計処理を行う場合、「Shift_JIS」で表現できない文字は「?」に変換されます。
インターネット経由での資産情報・ログ収集機能について		● Mac OS X 10.4には対応していません。 ● OS X 10.10をご利用の場合、一部の資産情報が正常に収集されないことがあります。

シンクライアント対応について

● 動作確認を行ったバージョンについては以下のとおりです。
- ○ ヴィエムウェア株式会社：VMware View 4.6 / 5.0 / 5.1 / 5.2 / 5.3、VMware Horizon 5.2 / 5.3 / 6.0 / 6.1 / 7.0 / 7.0.1 / 7.0.2 / 7.0.3 / 7.1.0 / 7.3.2 / 7.4 / 7.10 / 7.12 / 8 2006 / 8 2012 / 8 2106 / 8 2111 / 8 2212 / 8 2303 / 8 2306 / 8 2309 / 8 2312 / 8 2406
- ○ シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社：XenApp 5.0 / 6.0 / 6.5 / 7.6 / 7.8、XenDesktop 5.0 / 5.5 / 7.0 / 7.6 / 7.8、XenApp and XenDesktop 7.9 / 7.12 / 7.14 / 7.16、Citrix Virtual Apps and Desktops 7 1909 / 7 2009 / 7 2012 / 7 2103 / 7 2106 / 7 2109 / 7 2112 / 7 2212 / 7 2303 / 7 2305 / 7 2308 / 7 2311 / 7 2402 / 7 2407 / 7 2411
- ○ Sky株式会社：SKYDIV Desktop Client 2.1 / 3.1 / 3.2 / 4.0 / 4.1 / 4.2 / 5.0 / 5.12 / 5.2 / 6.0 / 6.1 / 6.2 / 6.3 / 6.4 / 6.5 / 6.6 / 7.0
- ○ 日本電気株式会社：VirtualPCCenter 2.1 / 4.0
- ○ 日本ヒューレット・パッカード合同会社：CCI 4.0
- ○ 日本マイクロソフト株式会社：Windows Server 2008 Standard Edition Terminal Services、Windows Server 2008 Standard x64 Edition Terminal Services、Windows Server 2008 R2 Remote Desktop Services（Terminal Services）、Windows Server 2012 Remote Desktop Service、Windows Server 2012 R2 Remote Desktop Service、Windows Server 2016 Remote Desktop Service、Windows Server 2019 Remote Desktop Service
- ○ 株式会社ワッセイ・ソフトウェア・テクノロジー：Phantosys 5LV / 10

※上記の各シンクライアント製品の動作確認バージョンおよび、それより新しいシンクライアント製品のバージョンをサポートいたします（ただし、各シンクライアント製品の修正プログラム、マイナーバージョンアップ、メジャーバージョンアップが行われた際には、事前の動作検証をお願いいたします）。

シンクライアント対応について

● ターミナルサービス、XenApp等の環境でご利用の場合、シンクライアントサーバーに1アクセスユーザーあたり約25MBのメモリをSKYSEA Client Viewにて利用します。
● シンクライアント環境（サーバーベース方式）で各種操作ログを収集する場合は、別途設定が必要です。
● VDI環境の仮想PCは、起動してから終了するまでの間、マスターサーバー・データサーバーと通信可能な状態であることが必要です。
● インスタントクローン環境など、利用するごとに仮想イメージが破棄される環境の場合、収集した仮想PC上の操作ログの一部がデータサーバーに保存されないことがあります。

仮想化について	● SKYSEA Client Viewでは仮想環境上での動作もサポートしております。Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご覧の上、物理環境と同等の性能を有する環境をご用意ください（高速なストレージ装置やファイバーチャネルなどの高速なインタフェースを用いたり、ネットワークインタフェースを仮想マシンごとに割り当てるなど）。 ● 動作確認を行った仮想化環境は下記のとおりです。 ○ ヴィエムウェア株式会社：VMware ESX/ESXi 3.5 / 4.0 / 5.0 / 5.1 / 5.5 / 6.0 / 6.5 / 7.0 ○ シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社： XenServer 5.6 SP2 / 6.2 / 7.0 / 7.2、Citrix Hypervisor 8.0 / 8.2 ○ 日本マイクロソフト株式会社：Windows Server 2012 Hyper-V、Windows Server 2012 R2 Hyper-V、Windows Server 2016 Hyper-V ※上記の各仮想化環境製品の動作確認バージョンおよび、それより新しい仮想化環境製品のバージョンをサポートいたします（ただし、各仮想化環境製品の修正プログラム、マイナーバージョンアップ、メジャーバージョンアップが行われた際には、事前の動作検証をお願いいたします）。

在席確認・インスタントメッセージ機能について

● 端末機（Windows）のみ対応しています。ただし、スタンドアロン端末は非対応です。
● インターネット経由（HTTP（S））ではご利用いただけません。
● サーバーから端末機に対する通信ができない場合は、ほかの端末機から送信されたインスタントメッセージが表示されるまでに時間がかかることがあります。

サーバー監査について

● サーバーOSで監査ログを出力するための設定が必要です。ご利用いただけるサーバーに関する詳細は、「動作環境（P.90）」をご覧ください。
● サーバー監査機能をご利用の場合、データサーバーが必要です。
● サーバー監査機能は、OSの監査ログからファイルアクセスログを出力しております。出力するために必要なグループポリシー、監査ログの設定が必要となります。また、出力されるログの内容は監査ログの内容に依存します。
● SQL Serverのデータベース監査ログを収集するには、SQL Serverに「共有メモリ」プロトコル、「SQL Server認証」でアクセスできる必要があります。
● Oracle Databaseのデータベース監査ログを収集するには、Oracle DatabaseとInstant Clientを使用してTCP / IP接続ができ、監査対象サーバーにOracle Database用のODBCドライバーがインストールされており、監査モードが「Unified Auditing」になっている必要があります。
● SKYSEA Client ViewからOracle Databaseへのログオンには、パスワード・ファイル認証を使用します。オペレーティング・システム認証は使用できません。

モバイル機器管理（MDM）について

● SKYSEA Client View for MDMにおいては、モバイル端末台数分のWindows Server CAL（クライアントアクセスライセンス）が必要です。
● 資産情報の電話番号はSIMカードが挿入されている場合のみ収集できます。

iPhone / iPadの管理について	● MDM Services（A）およびSKYSEA Client View for MDM（iPhone / iPad対応）を運用するには、データサーバーが必須となります。 ● 本機能では、Appleプッシュ通知サービス（APNS）を利用しており、モバイル端末機（iOS）およびモバイル情報収集サーバーからAPNSサーバーに対して、所定の通信ポートで通信可能なネットワーク環境が必要になります。詳しくは、Webサイトの「技術資料ダウンロード」をご覧ください。 ● Appleプッシュ通知サービスを利用する上で必要となる証明書には、1年の有効期限があります。有効期限が切れる前に必ず証明書を更新してください。証明書を更新しない場合、MDM Services（A）およびSKYSEA Client View for MDMの機能が使用できなくなります。 ● iPhone / iPadのMDMプロファイルを利用するほかのMDMツールとの共存はできません。 ● 一部の機能制限設定は、利用するためにApple Configuratorで「監視対象」に設定しておく必要があります。 ● 「OSアップデート」機能は、iOS 17以上またはiPadOS 17以上でお使いいただけます。tvOSは非対応です。 ● 「モバイルデバイス応急対策ツール」は、Google ChromeまたはSafariでお使いいただけます。
Android端末の管理について	● 利用するモバイル端末やアプリケーション、通信対象の端末によっては、機能制限設定時の挙動が異なる場合があります。 ● Android 13以上の端末では、ユーザーがSKYSEA MDMアプリを強制停止した場合、位置情報を取得することができません。 ● 「紛失モード制御」機能は、Android 11以上でお使いいただけます。 ● 「ゼロタッチ登録」設定は、専用販売店から購入したゼロタッチ端末でお使いいただけます。

MDM Services（A）・SKYSEA Client View for MDMの管理コンソール・サーバー側について

● モバイル端末機は、資産レポートの対象外です。

iPhone / iPadの管理について	● 「モバイル設定」の「無線LAN設定」で「SSID」を設定する場合に、「=」は使用できません。 ● アラート設定の「アクセスポイント接続設定」で、同名の「SSID」は設定できません。

M1 Cloud Editionのリモート操作について

● 同時に複数の遠隔制御対象PCを選択して、リモート操作を行うことはできません。
● すでに利用者側操作PCが遠隔制御対象PCをリモート操作している場合、リモート操作中の遠隔制御対象PCに対して、新たにリモート操作を開始することはできません。
● WDDM（Windows Display Driver Model）2.0未満の端末をリモート操作する場合、一部の機能が制限されます。
- ○ 機能が制限される場合には、制限内容が記載されたポップアップ画面が表示されます。画面の表示内容を確認し、操作を実行してください。
- ○ 表示ディスプレイ切替画面で「すべてのディスプレイのウィンドウを1画面にして表示して操作する」を選択している場合は、遠隔制御対象PCにはリモート接続画面が表示されません。

Remote Access Servicesについて

- 同じ仮想イメージからコピーして作成した仮想端末には、遠隔制御対象PCアプリをインストールしないでください（ただし、Sysprepを使用し一般化したイメージにはインストールできます）。
- 遠隔制御対象PCアプリをインストールした仮想端末には、次の運用を行わないでください。
  - ○ 複製しての使用
  - ○ クラウド環境でオートスケールを利用したスケールアウト
- リモート操作中は、遠隔制御対象PCでキーボードやマウス操作を行っても、遠隔制御対象PCは操作できません。ただし、遠隔制御対象PCからWindowsの「リモートデスクトップ接続」で別端末に接続した場合は、遠隔制御対象PCからのキーボードやマウス操作で、別端末を操作できることがあります。
- H.264形式へのエンコードがサポート対象外のグラフィックデバイスを搭載している端末は、遠隔制御対象PCとして利用できません。
- 次の機能は制限があります。
  - ○ クリップボードの送信 / 受信機能は、Firefox 90以降、Google Chrome 76以降、Microsoft Edge（Chromium版）79以降、Safari 13.1以降の場合に使用できます。
  - ○ ファイル転送機能は、Firefox 111以降、Google Chrome 86以降、Microsoft Edge（Chromium版）86以降、Safari 15.2以降で、HTTPS通信の場合に使用できます。
- 遠隔制御対象PCのOSがWindows 11 24H2（26100.2454）より前の場合は、リモート接続先で操作中の画面を見る機能が利用できません。遠隔制御対象PCのOSをWindows 11 24H2（26100.2454）<KB5046740>以上にすることで、現象は解消されます。

利用者側操作PCのブラウザ版について

- 対応している利用者側操作PCのOSは、Windows 11、Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、macOS 15.0（Sequoia）、macOS 14.0（Sonoma）、macOS 13.0（Ventura）、macOS 12.0（Monterey）、macOS 11.0（Big Sur）、macOS 10.15（Catalina）、macOS 10.14（Mojave）、macOS 10.13（High Sierra）、Ubuntu 24.04、Ubuntu 22.04、Ubuntu 20.04.03です。
- 対応している遠隔制御対象PCのOSは、Windows 11、Windows 10（バージョン1803以降）、Windows Server 2025、Windows Server 2022、Windows Server 2019です。
- 動作確認を行ったWebブラウザは、Firefox（Windows / Mac版）62～137、Firefox（Linux版）84～137、Google Chrome 69～136、Microsoft Edge（Chromium版）79～136、Safari 13.1～18.5です。タブレット端末やスマートフォンのブラウザには対応していません。
- タッチパネル操作やマウスパッド操作には対応していません。
- 次の設定の場合は、リモート接続できません。Cookieを有効に設定してください。
  - ○ Cookieが無効になっているとき
  - ○ ブラウザのシークレットモードなど、Cookieを保存しない設定にしているとき
- Cookieを削除すると、本機能の認証状態が初期化されます。
- Firefoxの場合、Web Storageが無効のときは、利用者側操作PCの設定画面の内容が保存できません。Web Storageを有効に設定してください。
- リモート接続の映像の上限サイズは、3840×2160（ピクセル）です。
- 使用中のグラフィックボード（GPU）の種類によっては、正常に動作させることができません。リモート接続画面が正しく表示されない場合は、ブラウザのハードウェアアクセラレーション機能を無効に設定してください。
- Windows端末でFirefoxを使用する場合、ブラウザの拡大 / 縮小を変更しても、フルスクリーン表示のときは反映されません。フルスクリーン表示の解像度は、画面のサイズになります。
- キーボードレイアウトを設定しても、次のキーを使ったキーボード操作はできないことがあります。
  - ○ Windows端末の場合：［Windows］キー、［Alt］キー、［Fn］キー、アプリケーションキー（メニューキー）
  - ○ Mac端末の場合：［Command］キー、［かな］キー、［Option］キー、［Fn］キー、［Caps Lock］キー、テンキーの［Clear］キー、英語入力の切り替え（［Shift］キーと［Control］キー、［;］キー）、日本語入力の切り替え（［Shift］キーと［Control］キー、［j］キー）
  - ○ Ubuntu端末（Firefox）の場合：［Caps Lock］キー
- キーボードのレイアウトは、JIS配列のみ対応しています。

「重要なお知らせ」機能について

- 本機能をご利用いただくには、Windows 7 / Windows Server 2008 R2以降の管理機が1台以上必要です。
- PCの時刻設定が1週間以上進んでいる管理機では、重要なお知らせがダウンロードできません。
- Ver.12.2より前の端末機については、セキュリティ更新プログラムの適用状況を収集できません。そのため、適用が完了しても対応状況は「未対応」のままになります。
- 脆弱性に対するSKYSEA Client View更新プログラムの自動適用は、SKYSEA Client Viewがインストールされており、かつマスターサーバーとの通信が可能な端末のみ対応しています。ただし、iOSなどのMDM端末は非対応です。

シリアル番号の登録について

- SKYSEA Client Viewのシリアル番号は「発行日の時点で公開されている最新のバージョン」に合わせて発行しています。
- 発行したシリアル番号を登録する際、ご使用のSKYSEA Client Viewのバージョンによっては、登録に失敗します。登録に失敗した場合は、ご使用いただいているバージョンに合わせたシリアル番号を発行いたしますので、弊社までお問い合わせください。また、最新バージョンにアップデートしていただくことでも、シリアル番号の登録が可能になります。
- バージョンアップや機能の改善に伴い、シリアル番号の仕様が変更になる場合があります。

医療機関向けオプション機能について

- 医療機関向けオプションに搭載されている機能の制限事項の詳細については、SKYMEC IT ManagerのWebサイトの「制限事項」をご参照ください。

営業名刺管理「SKYPCE」との連携機能について

- 「SKYPCEへのアクセスを許可」アラートは、SKYSEA Client Viewの拡張機能（アドオン）を使用しています。利用にはSKYSEA Client Viewの拡張機能（アドオン）を有効にする必要があります。

個人情報の適切な取り扱いについて

- SKYSEA Client Viewを使用して得られる情報の中に、個人情報の保護に関する法律等に規定する個人情報（以下、「個人情報」と言います）が含まれる場合があります。使用により取得する情報の中に個人情報が含まれる可能性に留意し、個人情報が含まれる場合は、個人情報の保護に関する法律等を遵守してご利用ください。

電子納品について

- ソフトウェア本体、マニュアル、ライセンス証書などは、専用のWebサイトからダウンロードいただく形となります。

海外での利用について

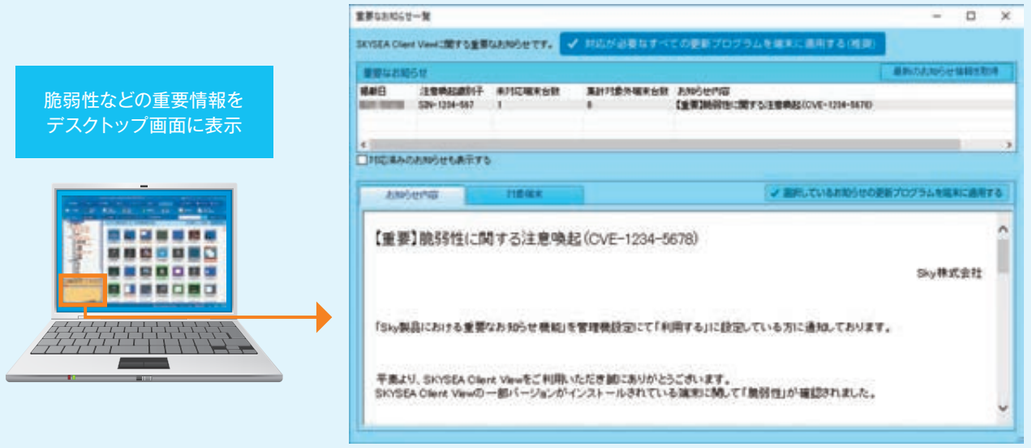
- SKYSEA Client Viewは、海外での販売、サポートには対応いたしません。

（お客様に安心してご利用いただくために）脆弱性対策への取り組みについて

脆弱性情報などの緊急案内を「重要なお知らせ」機能で通知

SKYSEA Client Viewは、本製品の脆弱性情報など弊社からの緊急案内を管理コンソール上で通知する「重要なお知らせ」機能を搭載しています。緊急時の更新プログラムの適用を速やかに行っていただくためにも、本機能のご利用を強く推奨します。

脆弱性などの重要情報をデスクトップ画面に表示



- 本機能は管理コンソールの起動時に弊社が公開しているWebサーバーにアクセスし、最新の重要なお知らせをダウンロードします。そのため、インターネットに接続できる管理機をご用意ください。
- 本製品では、適切なお知らせの実施とサービス向上のために、次の情報を収集・送信します。第三者がお客様の団体名や所属する個人を特定できるような情報の収集・送信および保存はいたしません。 ●「シリアル番号のハッシュ値」 ●「更新プログラムの未適用台数」

専用のWebページにて最新の脆弱性情報を公開

脆弱性情報の詳細や対策方法、また弊社における製品脆弱性情報の公開の流れについて、専用のWebページ「セキュリティ・脆弱性について」で公開しています。

https://www.skygroup.jp/security-info/

サポートサービス

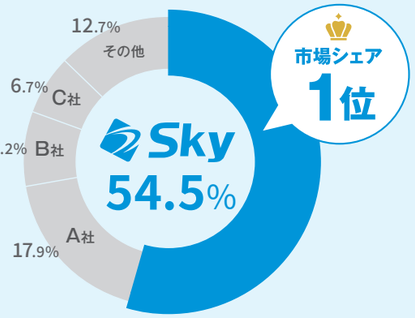
日経コンピュータ 2024年9月5日号
顧客満足度調査 2024-2025
運用管理・仮想化ソフト/サービス（クライアント）部門
1位

日経BPガバメントテクノロジー 2024年秋号
自治体ITシステム満足度調査 2024-2025
運用管理・仮想化ソフト/サービス（クライアント）部門
5年連続1位

日経コンピュータ 2025年3月6日号
パートナー満足度調査 2025
クライアント管理・統合運用管理ソフト／サービス部門
3年連続1位

ITreview Best Software in Japan 2025
SKYSEA Client View
1位

※日経コンピュータの調査は、製品ではなく企業を対象にしたものです。



「端末管理・セキュリティツール（ソフトウェア）」2023年度

市場シェア1位を獲得！

富士キメラ総研「2024 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」

クライアント運用管理ソフトウェア「SKYSEA Client View」は、株式会社富士キメラ総研の「2024 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」において、「端末管理・セキュリティツール（ソフトウェア）」2023年度市場シェア1位（ベンダーシェア）を獲得しました。今後もお客様により高いご満足を提供すべく、商品およびサービスのさらなる品質向上に取り組んでまいります。

最高の情報漏洩対策のために最新版をご提供

常に高いセキュリティレベルを維持していただくために、機能改善を主としたマイナーバージョンアップだけではなく、新機能を搭載するメジャーバージョンアップもご提供しています。アップデートモジュールは「保守契約ユーザー用Webサイト」より、ダウンロードいただけます。また、バージョンアップによる機能強化ポイントや、アップデート手順書をご紹介しています。

最新情報と共に、運用を支えるさまざまなツールを公開

保守契約ユーザー用Webサイト

SKYSEA Client Viewの最新版アップデーターのほか、運用にお役立ていただける情報や各種ツールをご提供しています。

- よくあるご質問（FAQ）、トラブルシューティング
- ソフトウェアダウンロード
- ドキュメントダウンロード
- オンラインマニュアル
- 障害情報、技術情報 など

最新のソフトウェア辞書情報をご提供

国内外で一般公開されているソフトウェアの情報を収録した、一般社団法人IT資産管理評価認定協会（SAMAC）の「SAMACソフトウェア辞書」をご提供しています。ダウンロードしてSKYSEA Client Viewに登録すれば、SKYSEA Client Viewで収集したソフトウェア情報を、「有償ソフトウェア」や「フリーソフトウェア」といった種別ごとに分類できます。また、ソフトウェア管理台帳に登録したソフトウェア情報に、ソフトウェア辞書のベンダー、エディションなどの情報を反映することができます。

専門のスタッフが、お客様の日々の運用をサポート

ヘルプデスクサービス

お困りのときは電話・メール・FAXなどでお気軽にお問い合わせいただければ、専門スキルを持ったサポートスタッフがトラブルの内容、お客様の環境などを確認し、全力で対応いたします。

5つのお約束

01 **お問い合わせには翌営業日までに回答いたします。**
02 **いつでも品質の高いサポートを提供いたします。**
03 **どこまでもサポート品質の向上を追求いたします。**
04 **サービスの改善もリスク管理を行った上で実施いたします。**
05 **問題点は徹底して再発防止に取り組みます。**

ITサービスマネジメント国際規格

『ISO/IEC 20000』を取得

自社開発したソフトウェアの保守サポートサービスにおいて、ITサービスマネジメントのグローバルスタンダードである国際規格「ISO/IEC 20000」を取得しています。

ITMS 512306 / ISO/IEC 20000-1:2018

定期的に、“お困りごと”がないかをお伺いします

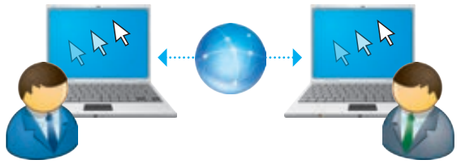
ご導入いただいた後も一定期間、Sky株式会社（以下、弊社）のスタッフより定期的にご連絡し、運用方法やソフトウェアの操作について、ご不明な点やお困りごとがないかを伺い、お客様の快適な運用を支援いたします。

※お客様よりお問い合わせをいただいた直後など、状況に応じてお電話を控える場合や、メールにてご連絡を差し上げる場合がございます。

リモート操作で、より早く的確にトラブルを解決

リモートサポートサービス

お問い合わせ内容やトラブルの状況に合わせて、弊社スタッフが、インターネットを通じてお客様のPCをリモートコントロール。操作のご案内やトラブル解決に対応いたします。簡単な操作で安全に接続できるので、電話だけのサポートに比べてお客様のご負担を減らすことができ、早期のトラブル解決にお役立ていただけます。



運用に役立つ情報を定期的にお届け

情報誌『SKYSEA Client View NEWS』

IT、情報セキュリティ分野の有識者の寄稿やインタビューのほか、導入事例やワンポイントアドバイスなど、組織のIT運用管理に役立つ情報を掲載した情報誌「SKYSEA Client View NEWS」を定期的に発行しています。

メールマガジン

SKYSEA Client Viewに関する最新情報や各種セミナーのご案内、導入事例や話題のニュースなど、お役立ていただける情報をお届けします。

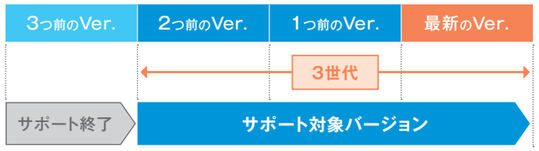
保守契約ユーザー向けサポートニュース

SKYSEA Client Viewの運用や情報漏洩対策にお役立ていただける情報をご提供します。 ※保守契約ユーザー用Webサイトよりお申し込みいただく必要がございます。

ライフサイクルポリシーについて

サポートの対象は最新のバージョンを含め、3世代までです

サポートの対象となるSKYSEA Client Viewのバージョンは、最新のメジャーバージョンを含め、3世代までです。メジャーバージョンアップが行われた時点で、3世代より前となるバージョンはサポート終了となります。



サポートが終了したバージョンのお問い合わせについて

サポートが終了したバージョンの基本的な操作方法についてはサポートいたしますが、不具合・トラブルなどで調査が必要な場合には、まずご利用のSKYSEA Client Viewをサポート対象のバージョンにバージョンアップいただきますようお願いいたします。バージョンアップ後に、調査等を継続いたします。

Column

上原 哲太郎 氏

立命館大学 情報理工学部 セキュリティ・ネットワークコース 教授 京都大学博士（工学）

1995年　京都大学大学院工学研究科博士後期課程研究指導認定退学。京都大学大学院工学研究科助手、和歌山大学システム工学部講師、京都大学大学院工学研究科助教授、京都大学学術情報メディアセンター准教授を経て、2011年総務省技官。通信規格と情報セキュリティ施策に従事。2013年より現職。NPO情報セキュリティ研究所理事、NPOデジタル・フォレンジック研究会会長、（一財）情報法制研究所理事、京都府警察サイバーセキュリティ戦略アドバイザー、和歌山県警察サイバー犯罪対策アドバイザー、滋賀県警察サイバーセキュリティ対策委員会アドバイザー、芦屋市CIO補佐官。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）への対応は、まずITリテラシーの底上げから

コロナ禍に見舞われた日本社会は、これまでいかに保守的で非効率な業務形態にしがみついてきたか、その不都合な現実と嫌というほど向き合わされました。進まないテレワーク、なくならない押印とFAX、特別定額給付金給付やワクチン配送・接種予約のデジタル化の遅れ、これらのトラブルは我々がいかにデジタル時代に対応できていなかったかの証明になってしまいました。

この事態を打破するためには、各業務の現場が「仕事のやり方を変える」という痛みを受け入れ、デジタルに最適化された業務手続きを確立する必要があります。コロナ禍を無事乗り越えたとしても次に私たちが直面するのは急速な社会の高齢化であり、今まで先送りされてきた生産性向上という課題に取り組まずしてこの社会を維持することは困難です。

DXによる生産性向上は、現場の意識改革とITリテラシー向上のための従業員教育から始める必要があります。ローコード・ノーコードツールやRPAの導入のためには、各現場に業務とITの双方に通じた人材の配置を必要とします。GIGAスクール構想の効果が出てくるまではまだ間があり、現状では社会人のリカレント教育に頼らざるを得ません。データ構造とアルゴリズムの考え方が少し身につくだけで、多くの現場で業務効率の劇的な改善策が見いだせるようになるでしょう。

一方、デジタル化はその効率化と引き換えのリスクを呼び込むことも忘れてはいけません。ITリテラシー教育と平行してセキュリティ教育にも取り組み、従業員のセキュリティへの理解を底上げすることで、日々高度化するサイバー攻撃への対応力を上げ、安心して全力でDXに取り組むことができるようになるのです。

監修 上原 哲太郎 氏　セキュリティ研修について

本研修は上原 哲太郎 氏監修のもと、セキュリティご担当者様が知っておくべき、インシデント発生時の対応等、組織的・体系的に情報セキュリティを確保するために必要な情報をご紹介します。また、一般職員の方向けに、一般的な情報セキュリティ対策が学べる研修もご用意しています。組織としてのセキュリティリテラシーの向上に、ぜひご検討ください。

■ 管理者向けセキュリティ研修

組織として取り組むべき情報セキュリティ対策についてご紹介します。情報セキュリティを担保しながら、生産性を向上していくための心得を知ることができます。

費用 360,000円／回　所要時間 約1時間30分

■ 一般職員向けセキュリティ研修

従業員が日頃から意識すべき情報セキュリティ対策についてご紹介します。業務でPCを使用するにあたっての情報資産の取り扱い方や、習得すべきセキュリティリテラシーを学んでいただけます。

費用 360,000円／回　所要時間 約1時間30分

※ 価格は税抜き表示です。集合研修 / オンライン / eラーニングでの実施が可能です。弊社商品を導入していなくても、すべてのお客様にご利用いただけます。また、本カタログの記載内容は2025年6月3日時点のものです。最新情報はWebサイト（https://www.skyseaclientview.net/support/guide/guide005.html#service10）をご覧ください。

品質向上への取り組み

専用テスティングルームを設置・自社PC約10,000台以上に導入

社内に専用のテスティングルームを設置し、あらゆる環境を想定した評価 / 検証を行っています。また全事業部約10,000台以上のクライアントPCにSKYSEA Client Viewを導入し、実際の業務で活用しています。継続的な運用の中で浮き彫りになる、細かな課題も見逃さずに商品開発にフィードバックを行っており、お客様と同じ「利用者の視点」でソフトウェアの機能向上に取り組んでいます。

情報セキュリティマネジメント国際規格『ISO/IEC 27001』

Sky株式会社（以下、弊社）は、情報セキュリティ対策の管理の仕組みについて規定した国際規格である「ISO/IEC 27001」を取得。SKYSEA Client Viewを自社活用しながら、第三者機関による定期的な監査を受けて継続審査に合格しており、高い情報セキュリティレベルを維持しています。

IS 80703 / ISO/IEC 27001:2022

IS 80703 / JIS Q 27001:2023

クラウドセキュリティの国際規格『ISO/IEC 27017』

「SKYSEA Client View Cloud Edition」および「MDM Services」の提供に係るクラウドサービスプロバイダとしてのシステム開発・運用・保守、およびMicrosoft Azureのクラウドサービスカスタマとしての利用において、ISMSクラウドセキュリティ認証「ISO/IEC 27017」を取得しています。

CLOUD 785682/ISO/IEC27017:2015

個人情報保護規格『プライバシーマーク』

弊社は、保有する個人情報の取り扱いおよび管理体制について、第三者機関に認証を受け「プライバシーマーク」を取得。お客様の情報はもちろん、あらゆる個人情報を適切に管理・保護しております。高い情報セキュリティレベルを実現するために、商品の品質管理を徹底しています。

20000092

研究・開発への取り組み

特許について

Sky株式会社（以下、弊社）は、お客様に便利で使いやすい機能を提供し続けるために、先進の技術を駆使してさまざまな研究・開発に取り組んでいます。その成果として、特許出願・取得を行うとともに、新機能として商品に搭載しています。

SKYSEA Client View 関連 特許取得実績（2025年6月現在）

分類項目	資産管理	ログ管理	セキュリティ管理	メンテナンス	操作画面	その他
特許取得	10	12	18	5	8	6

「知的財産活用支援奨励賞」受賞

日本弁理士会が主催する第3回知的財産活用表彰において、「知的財産活用支援奨励賞（事業支援サポート部門）」を受賞いたしました。SKYSEA Client Viewが、企業の営業秘密保護を支援する機能を多数搭載していること、さらに、これら機能に関して積極的に特許出願・取得に取り組んでいることが評価され、本賞を受賞することとなりました。

有償開放特許

弊社では、所有している特許技術を有償開放（ライセンス提供）しております。各特許技術の詳細な内容につきましては、弊社までお問い合わせください。

情報セキュリティ対策支援活動

弊社では、2012年より情報セキュリティ対策に関する各種イベントに協賛、参加しています。これらイベントの活性化に貢献することで、皆さまの情報セキュリティ対策の一助となるように取り組んでいます。

Ultimate Cyber Security Quiz
開催日：2025年7月12日（予定）

くまもとサイバーセキュリティシンポジウム
百年に一度のビッグチャンス、
熊本で創る国際的セキュリティとは
開催日：2024年11月25日～26日

サイバーセキュリティシンポジウム道後
サイバーセキュリティと事業継続
～持続可能な成長に向けた戦略～
開催日：2025年3月7日～8日

サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム
アイデンティティーを問い直す：
匿名、なりすまし、ベルソナ、そして人ならざるもの
開催日：2025年5月22日～24日

サイバー防衛シンポジウム熱海
新たな一歩、次の一手
～変わりゆくサイバー防衛～
開催日：2025年6月21日～22日

情報セキュリティワークショップ in 越後湯沢
情報セキュリティと社会的責任
～絶え間なく続く脅威にどう向き合い、なにを守るのか～
開催日：2024年10月10日～11日

Hardening Project
見えない分断を乗り越えよう
開催日：2025年5月23日 First Attack

※掲載の許諾をいただいた一部のイベントについて、ご紹介しています。各イベントは50音順で掲載しています。

Column

情報セキュリティ対策の徹底は個人情報を扱う組織の責務

岡村 久道 氏

弁護士 / 博士（情報学） / 京都大学大学院医学研究科講師（非常勤）

京都大学法学部卒業。弁護士。博士（情報学）。京都大学大学院医学研究科講師（非常勤）。元国立情報学研究所客員教授。専門分野は情報ネットワーク法、知的財産権法など。主著は「情報セキュリティの法律」「これだけは知っておきたい個人情報保護」「個人情報保護法」「迷宮のインターネット事件」「番号利用法――マイナンバー制度の実務」など多数。

悪質なサイバー攻撃による大量漏えいやランサムロック被害が頻発している。現に被害を受けた日本企業も多い。

そうしたなか個人情報保護法の2020年改正で、「重大な漏えい等」発生のおそれが判明した企業に対し、個人情報保護委員会に報告し、本人に通知する義務が新たに課された。2021年改正で義務の対象が自治体や国公立学校、その他の公的機関にも拡大された。

報告・通知事項は【表】のとおりであり、本人全員に連絡が取れないときは、代替措置が必要だ。自社サイトでの公表や相談窓口の設置が想定されている。

委員会への報告時期は、事実関係を十分に把握できていない段階の「速報」と、原因や再発防止策も含めて報告を求める「確報」の二段階としている。「確報」は当該事態を知った日から30日（不正アクセスなど故意によるものは60日）以内とされている。事故発覚後から対処すべき事柄は尽きないから、「確報」期限など、あっという間に過ぎてしまう。

これら改正は2022年度初頭に施行される。まさに「待ったなし」である。さらにプライバシー侵害として集団訴訟を提起される事態も懸念される。他社から預かったデータなら取引打ち切りになりかねない。

こうした事故発生を防止するための「転ばぬ先の杖」として、また不幸にして事故が発生したときでも原因を迅速にトレースできるように、日頃から十分なセキュリティ対策を講じることこそが最も大切だ。だから操作ログ情報収集ツールの重要性は高い。

そうした従業員・職員向けモニタリングツールを導入する際の条件として、委員会は、①モニタリングの目的を事前に特定して内部規程化し、従業員などに明示、②モニタリング実施の責任者・権限を定め、③その実施ルールを設けて内容を運用者に徹底、④当該ルール遵守状況の確認を求めている。勤務先貸与端末の場合を含め、それを使う従業員などにとって、モニタリング自体が自身の個人情報やプライバシー保護に関わるからだ。そのため、こうした条件を守り、対象となる従業員などに事前告知して同意を取得しておけば安心だ。導入で職場全体のセキュリティ意識も高まる。以上の点は学校の場合も変わらない。

いまや「管理策が不十分でした」と謝罪するだけでは済まされない時代が到来したことを、改めて我々は肝に銘じる必要があるはずだ。

事項	委員会への報告	本人への通知
(1) 概要	○	○
(2) 漏えい等が発生（おそれを含む）した個人データの項目	○	―
(3) 漏えい等が発生（おそれを含む）した個人データの頭数	○	―
(4) 原因	○	○
(5) 二次被害又はそのおそれの有無と内容	○	○
(6) 本人への対応の実施状況	○	―
(7) 公表の実施状況	○	―
(8) 再発防止措置	○	―
(9) その他参考事項	○	○

Column

「新しい働き方」に向けて、より重要となる労務実態の見える化

宮川 弘之 氏

株式会社Ｈ＆Ｉコンサルティング 代表取締役
社会保険労務士事務所Ｈ＆Ｉ 所長 / 特定社会保険労務士

証券会社勤務を経て、平成14年社会保険労務士として開業登録。日ごろは中小企業から大企業まで幅広く就業規則作成、人事制度構築（賃金制度・退職金制度・人事考課制度）、人事労務リスクマネジメント（労使トラブル対策、労働組合対策、労働時間管理適正化の支援等）、企業研修を主に行っている。また大学、自治体においても「ハラスメント」・「メンタルヘルス」等の研修・客員講師の実績も多数あり。

「過重労働の防止」「ワーク・ライフ・バランス」「多様で柔軟な働き方」の実現を目的とした「働き方改革関連法」が2019年4月より順次施行され、その中の一つの施策として「労働時間法制の改正」が行われました。

法改正後は、残業時間の上限規制とともに、健康管理の観点からタイムカードやPCのログ等の客観的な記録に基づいて、すべての従業員（管理監督者を含む）の労働時間を把握することが企業に義務づけられました。長時間労働を抑制するためにも、「業務の見える化」により、その業務プロセスを検証し、生産性の向上を図ることが不可欠となります。

また、2020年に入り、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために多くの企業が時差出勤やテレワークを実施するなど、今までと違った「新しい働き方」の導入が進んでいます。ただ、テレワークには、「在宅勤務者の正確な労働時間が把握しづらい（勤務時間とプライベート時間の区分が困難）」「在宅勤務者の管理や評価がしづらい（業務内容の把握が困難）」「情報セキュリティの管理が難しい」など、労務管理上の課題が数多くあります。

SKYSEA Client Viewは、従業員のPC利用時間や作業内容（操作ログ情報）を企業が把握することを支援し、従業員の「業務の見える化」および「情報セキュリティの管理」に役立てることができます。

このようなソフトウェアを活用し、“Withコロナ時代の新しい働き方”という労働環境の変化に対応することが望まれます。

進化し続ける、営業名刺管理

SKYPCE

スカイピース

正確で信頼できる顧客情報で、営業DXを支援

顧客開拓など、ビジネスの第一歩となる名刺交換。営業活動で得た名刺を個人で管理することは、情報の属人化を招き、ビジネスの広がりを阻害しかねません。また、名刺データが不正確な場合には、顧客管理などに生かせず、営業活動に支障を来す可能性も。「SKYPCE」は、正確で信頼できる顧客情報をチーム全体で共有できる仕組みで、お客様の名刺管理と日々の営業活動をサポートします。

99.9%の正確性が担保された名刺データ

名刺のデータ化は、AI-OCRに加えてオペレーターの確認・修正を通して行うことで、正確性を担保しています。

信頼性の高い企業データベース

上場・非上場を含む充実した企業情報を検索・閲覧できるデータベースで、営業戦略をサポートします。

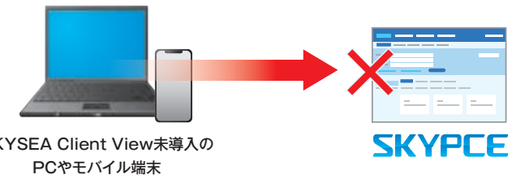
毎日の営業活動を見える化できる仕組み

名刺情報を起点に日々の営業活動の状況を記録したり、グラフなどに集計でき、情報共有や可視化に役立ちます。

SKYSEA Client Viewとの連携で、名刺管理のセキュリティをさらに強化

私物端末のSKYPCEへのアクセスを制限

SKYSEA Client Viewが導入されていないPCやモバイル端末からの、SKYPCEへのアクセスを制限。私物端末などからSKYPCEの名刺管理画面を閲覧できないようにし、情報漏洩を防ぎます。

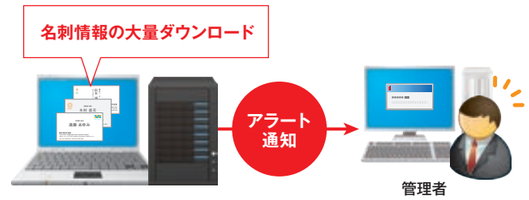


名刺情報の取り扱い状況を操作ログから確認

SKYPCEの名刺管理画面へのアクセスを操作ログで記録。SKYPCEからダウンロードした名刺データのその後の取り扱いについても把握でき、USBデバイスへのコピーやメール添付による送信など、不審な取り扱いがないかを確認できます。

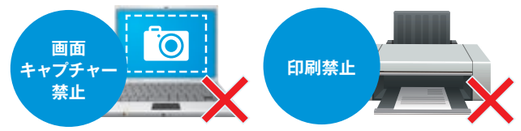
名刺情報の大量のダウンロードを検知

名刺情報や会社情報などのダウンロードが、指定した件数を超えて行われた場合にアラート検知。漏洩リスクにつながる操作を早期に把握し、当事者へのヒアリングやログの調査など、その後の対応につなげていただけます。



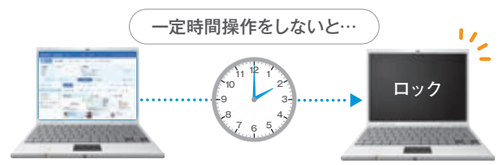
画面キャプチャーや印刷を禁止

名刺閲覧画面の表示中は、アプリケーションによる画面キャプチャーや「Print Screen」キーの押下、テキストのコピーや画面の印刷など、情報持ち出しにつながる操作を禁止できます。



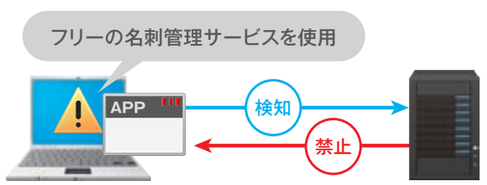
一定時間操作がなければ画面を自動ロック

名刺閲覧画面を表示したまま一定時間操作がなかった場合に、PCの画面を自動でロックします。ユーザーが離席した際などに、第三者による情報の閲覧を防ぐことができます。



フリーの名刺管理サービスの使用をアラート通知・禁止

情報漏洩リスクを伴うフリーの名刺管理サービスの、Webサイトの閲覧・ソフトウェアのインストールを検知。管理者に通知したり、使用自体を禁止することができます。



記載の名刺情報は架空のものであり、実在の人物や団体などとは関係ありません。